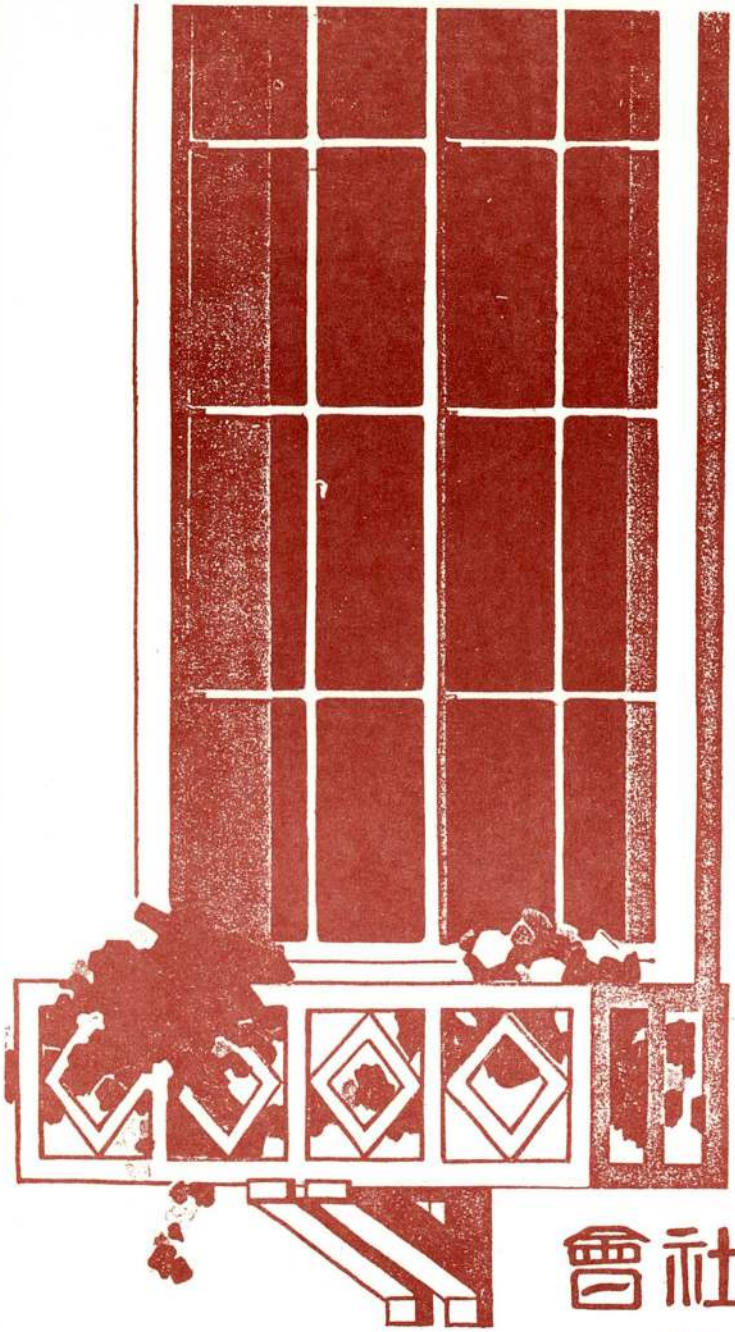
大正六年九月十四日（第三種郵便物認可）
大正十一年九月一日發行（毎月一回一日發行）



建築と社會

住宅號

第五輯第九號

日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラントス希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ賛成シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ會内ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ヲ任セザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セントスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムヘシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルヽ者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル當時ノ賛助員ノ義務ハ消滅ス

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルヽコトヲ得ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名（理事長タル理事ヲ含ム）

四　理事　十名

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但會頭、副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事之ヲ互選ス

役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

理事ノ改選ハ每年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主　記　一名

二　主　計　一名

三　編　輯　三名

四　編輯補　若干名

五　會　記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

會記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

會記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスルコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員及委員ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ嘱託委員トスルコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告ヲ、談話ヲ、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラズ

第十八條　本會ノ年秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

四　決議事項ノ實行促進

五　會誌ノ發刊

六　建築ニ關スル圖書ノ刊行

七　建築ニ關スル講演會ノ開催

八　建築ニ關スル展覽會ノ公開

九　建築ニ關スル視察

十　建築ニ關スル有志者ノ視察會

十一　理想的建築ニ關スル計畫

十二　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ醵出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金貳百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ル

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スヘシ

特別賛助員ハ特別賛助費年額金九圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助費年額金六圓本會ニ前納スヘシ

但六期以内ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助員其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產債權債務及每月ノ收支ハ主計其計算者ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

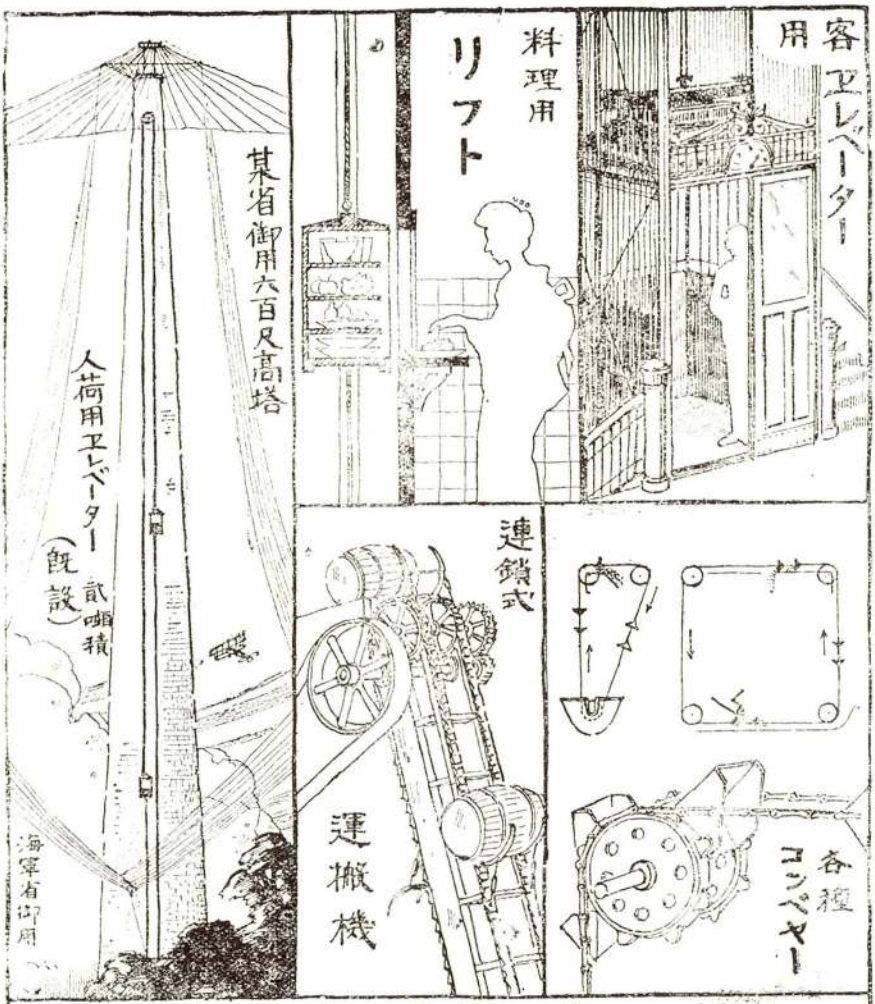
本會ノ財產債權債務及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

本邦エレベーターの権威

（専賣特許六件）



大阪東區玉造

◎日本エレベーター製造株式會社

電話・南三八〇五番・南五四三五番

建築と社會（住宅號）第五輯第九號目次

△口　繪……□住宅改造博覽會々場鳥瞰大景
□住宅改造博覽會出品住宅模型……

〔卷　頭〕

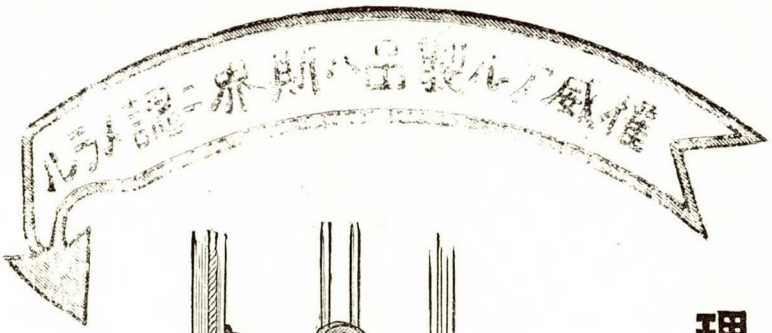
□住宅と生活問題の根底……

〔論　說〕

□住宅改造の急要に就いて……日本建築協會副會頭　工學博士　片岡安……二
□小住宅の改良に關する感想と希望……工學士　池田實……一二
□住宅問題は交通問題……法學士　小川市太郎……二〇
□住宅改造博覽會の主命……工學士　橫濱勉……二六
——我女子の科學的智識の普及を切望す——
□住宅問題の發生に就いて……法學士　伊藤眞雄……三〇
□住宅建築に對する希望……工學博士　武田五一……三八
□住宅改造と煖房設備……建築士　小笠原鈔……四三
□予の住宅觀……代議士　紫安新九郎……四七

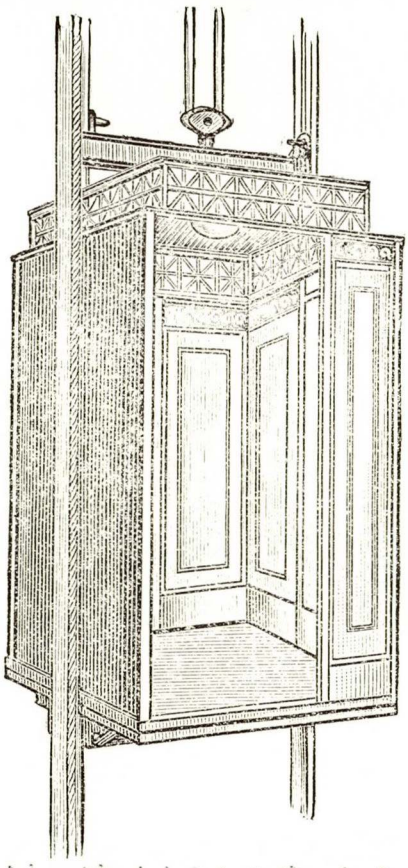
〔研　究〕

□江戸城の殿閣と大奥……工學博士 大熊喜邦……三
□換氣と所要氣積……醫學博士 藤原九十郎……六九
□住宅煖房に就いて……株式會社作山鐵工所專務取締役 作山義弼……七四
□住宅の改造に伴ふ衛生工事……日本水道衛生工事株式會社專務取締役 池田健六……八二
□自然性助長の上より見たる子供室と其家具類の一考案……松本儀八……八八
〔住宅〕
□住宅改造博覽會出品住宅一般……翠煙生……一五九
〔都市〕
□住宅建築と大阪都市……三太郎……一七〇
〔資料〕
□内務省令第十七號と家屋及土地の差益稅……郊邨生……一七八
〔漫錄〕
□「家」とWilliam Morrisの藝術觀……大須賀巖……一八五
□只今私の考へて居りますまゝに……日本赤十字病院長前田松苗氏夫人 前田秋子……一九一
□改善を試みた室々……
〔會報〕〔附錄〕
□住宅改造博覽會記事……



理想的

エレベーター納入

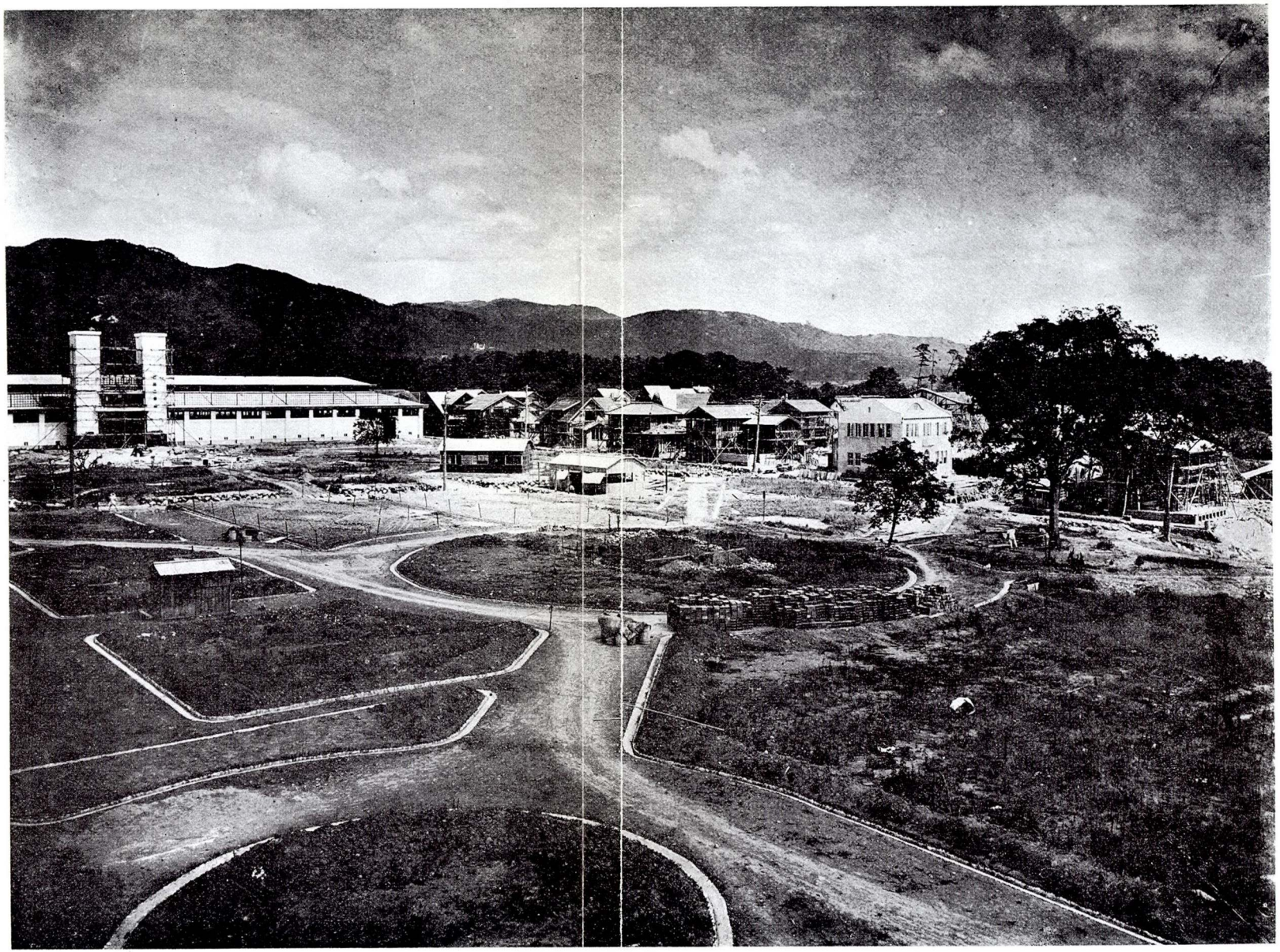


營業科目

エレベーター
コンベーヤー各種輸送機專門
料理用リフト

日本輸送機製作所

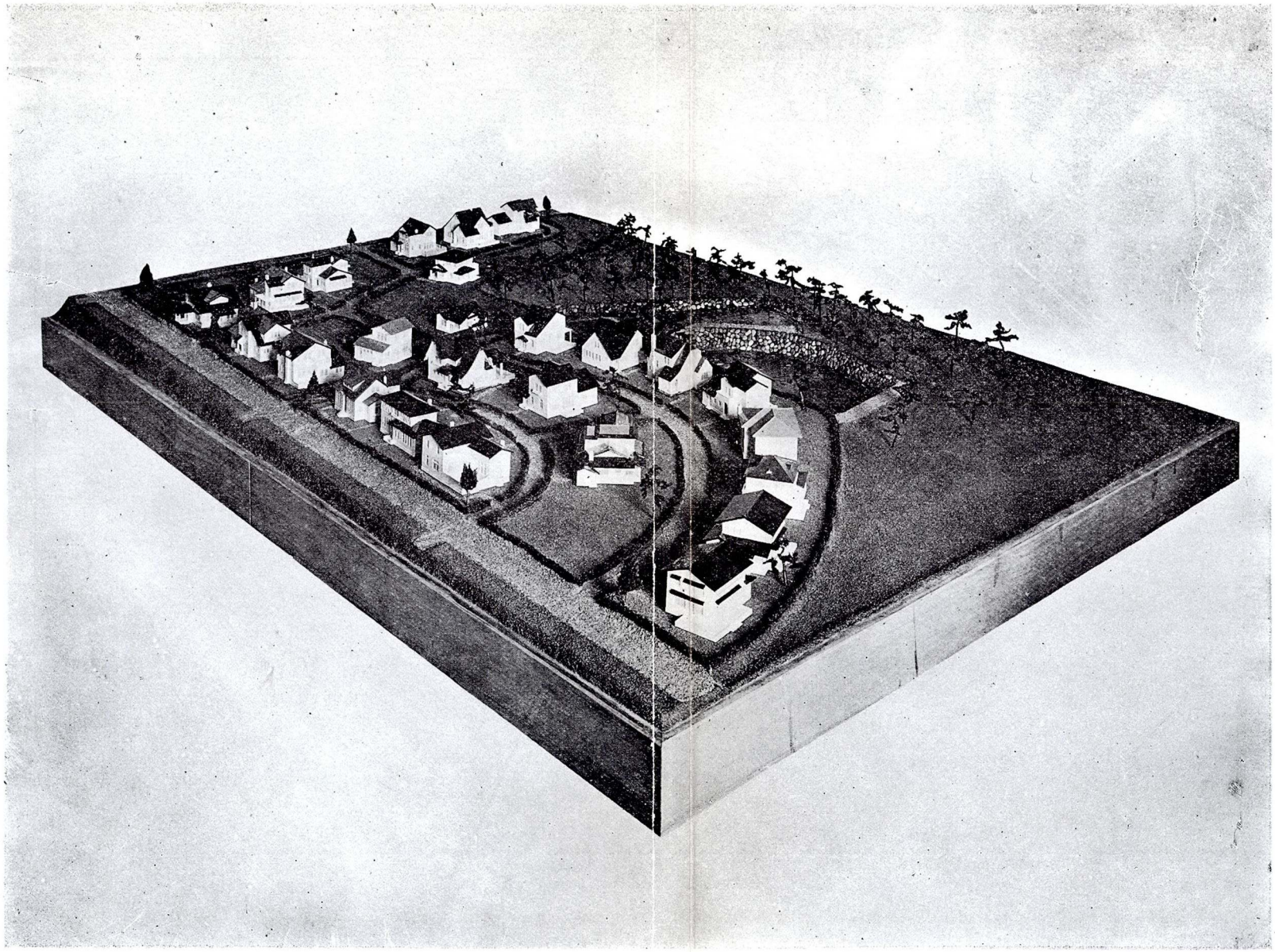
營業所　大阪市北區梅田町五一五番地
電話長北一五九六番
九州代理店　出光商會
福岡縣門司市東本町



日本建築協會主催

住宅改造博覽會々場

來る九月二十一日を開期として目下頻りに工事中の現況なり。正面は本館
にして向つて右側の一聚落は實物出品住宅也。其他諸般の建物を建設中。



型模の落聚宅住物實品出會覽博造改宅住

の善改宅住代現 .てしに戸七十二數總るれ成に計設の樣各種各は宅住品出物實

照參「欄宅住」誌本は細詳 .しべす屬に例事の前空くら恐 .のもるため鍾を粋

住宅改造博覽會開催に就いて

我日本建築協會ハ方今ノ世情ニ鑑ミ本年秋季ヲ期シ住宅改造博覽會ヲ開催シテ聊カ社會ニ貢獻スル所アラムトス。

抑モ我國住宅改善施設ニ就テハ二重生活ノ苦痛ヲ脫却セム爲近年一般社會ノ輿論漸ク勃興シ來リ生活改善ノ運動ト共ニ眞摯ナル研究ニ入リツヽアリ從ツテ住宅改善ノ問題ハ最早論議ノ時期ニ非ズシテ實行實現ノ時代ナルコト既ニ識者ノ唱導スル處タリ本協會ハ茲ニ觀ル處アリ前後三回ノ懸賞募集ヲ斷行シ其ノ優秀案ヲ參考トシテ改良住宅ノ成案ヲ實現シ一般公衆ノ觀覽ニ供ヘ且我建築界ノ現狀ヲ紹介シ以テ將來ノ向上促進ニ寄與セントスルノ目的ニ依リ茲ニ住宅改造博覽會ノ擧ヲ企圖シ着々其ノ準備ニ從事シツヽアリ既ニ當九月二十一日ヲ以テ開館セムトス翼クハ本會會員賛助員各位ノ熱心ナル御後援ト懇切ナル御助賛ニ依リ本會ノ斯ノ目的ヲシテ着實有意義ナル事業タラシメムコトヲ熱望ス

大正十一年九月

日本建築協會



住宅と生活問題の根柢

生活改善も、文化生活も、根本問題は住宅に在ります。その意味で、住宅問題は、生活問題の根柢を成すもの、といふ事が出來ます。今秋開催さるゝ住宅改造博覽會は、我國最初の住宅博覽會として、斯の問題に寄與する事多大であらうと信じます。私は拜見するのを樂みとして待つて居ります。

於東京　黒田鵬心



住宅改造の急要に就いて

日本建築協會
副會頭　工學博士　片岡安

一　總說
二　社會組織の改造と住宅問題
三　文化生活と住宅改造
四　住宅改造の要點

〔一〕總說

吾人生存の意義は果して何處にあるやと言ふことは古來久しく論議されて來た、然しながら比較的少數の哲學者又は思索家以外には之を眞面目に考究したとは思へない。しかるに一般民衆が吾人生存の意義を透徹せんと考へ出したのは、最近歐洲大戰以來の著しき傾向であると言つても差支はない。殊に我

國の如き官尊民卑の風習が中古以來の特權階級尊重の思想と共に傳統的に繼承されつゝある國柄では、人生の自覺詳しく言へば民衆的傾向より生れ來れる生存の意義透徹慾は、たとへ其の表現の程度甚だ微弱なりとは言へ、社會組織の傳統的現狀より見れば、驚くべき社會組織改造であると見られるかも知れぬ。極端なる保守論者は之を以て社會組織の破壞なりと叫ぶであらうし、又極端なる文化主義者より見れば斯かる微弱なる民衆運動は現代文化の進展の程度より見て尙ほ不充分なるものであると言ふであらう。それ等は各自其見解を異にするに從ひその觀察を同ふせざるものとして敢てその曲直を批評するの要なきも、兎に角吾人は現代文化の傾向に添うてその進路を採りつゝある以上斯の世界的の傾向とも言ふべき生存の意義透徹慾は之を防止することを容さぬのである。むしろその進路を適當に導くべく或は之を助長すべく努力することを以て吾人の最高義務と考へねばならぬのである。

吾人の生存の意義を透徹すべき慾求は傳統的の社會組織に向つては其改造を要求するであらう。又同時に經濟組織に向つても亦政治組織に向つても適當に其改造を要求するであらう。しかるにその要求たるや其程度及範圍に於て微妙の境界線を有するが故に之を決定的に條件付を以て表現することは事實上甚だ困難であつて、其處に拒否論者と急進論者との論爭も生じ、政治的に見て又社會、經濟の兩方面より見て現代の人心混亂を憂慮せしむる場合も生ずるのである。人心頽廢の嘆聲が高唱さるゝ半面には特權階級の橫暴が批難されたり、不完全なる社會政策的施設をなすべく據なくされたる中央政府や地方廳の狼狽振りや、各地の富豪が其宅地の一部解放を以てその民衆怨嗟の保護塀となさんとする態度等と相待つて此の傾向の潮流を明かに認識すると同時に其程度と範圍が甚しく不明瞭のものであることを示すのである。

上述の如き生存の意義を透徹せんとする現代民衆の慾求は各方面に其具體的の實質を表現せんとして居るが、中に就て最も眞摯なる要求として其實現を助長すべきものを各個人各個人の住宅を改造すること

ゝする。之を言ひ換ゆれば民衆各箇の家族にそれ〳〵人間の住居らしき適當なる住宅を得せしむることを以て現代社會の最要急務とするのである。大戰後英國皇帝は其幹部に向つて英國民の凡てに好適なる住宅を得せしむる政策は今後英國の最大問題として努力すべきものである旨を告げてその熱心なる態度を示されたと傳へられて居るのも吾人の意見を裏書するものと見てよからう。歐洲大戰後の彼地の社會問題が其經濟政策や國際聯盟の諸問題を超越して其眞劍味を增大し、其一端が常に『好適なる住宅供給』と言ふことに觸れて居るのを見ても住宅問題を輕微のものとして取扱ひ來れる舊式の政策や論理道德或は宗教を說くものゝ大に猛醒すべき時機に到着したことを覺らねばならぬのである。

〔二〕 社會組織の改造と住宅問題

歐洲大戰以前にありても社會組織の適當なる改善は常に考へられた問題であつた。十八世紀十九世紀に於ける英佛獨伊の政治上の大變革は之を生活と言ふ內面的實際より見る時は何れも社會組織の大改造であつた。又一面には產業組織の革新であり、生存競爭の實現であつたと見ることが出來る。併しながら其等の中の如何なる大革新と雖も歐洲大戰後に於ける民衆の生存の意義透徹慾の如き熾烈なる運動を伴はなかつたのである。大戰後に於ける歐米各文明國の民衆生活が其物資供給の不充分により、其根蒂までも枯渴せんとする甚だ恐るべき脅威を感じたから一齊にその安全軌道を求めんとする猛烈なる運動を惹起するに至りしはむしろ當然であつて、敢て怪しむに足らぬけれども、唯之を一時の現象として見る譯には行かない。其處に社會組織の改善が大々的に叫ばるゝのは勿論、其改善に關する具體的畫策殊に生活の意義を透徹するに好適なるあらゆる施設をなすべく努力せねばならぬのである。

社會組織改善の安全瓣としては從來各種の社會政策的施設は可なり深く攻究され、その一部は英獨その他の文明國には已に實施されて來たのである。然しながらそれ等は比較的微溫的のものであつて、唯

社會組織を現狀に維持する事は窮々たるものとしか見られぬのである。即ち大戰前にありては社會改善の政策は主として漸進否現狀維持主義であつた。然るに大戰によりて其維持すべき社會組織は先づ第一にその生存の根蔕に脅威を感ずるに至り。此處に一轉して其改造を畫策せねばならぬようになつたのは現時の窮乏に對しては甚だ不利を感ずるけれども、人類將來の幸福を增進するには或は適當なる時機であるかも知れぬ。唯其時機に於ける各種の社會主義的破壞運動が假令へ部分的で小規模であるとは言へ彼處此處に勃發するの傾向あるのは此時機に於ける好適なる進路を却て曲折あらしめ、彼岸に達する爲めには大に不利益を感ずるのであるから、政局に當る人士及先覺者に於ては此傾向を十分に緩和して社會組織の改善を適當に實現すべく大に努力せねばならぬのである。

然らば社會組織の改善又は一步進んでその改造とは如何なることを意味するのであるか、吾人の所謂改造とは從來の政治及經濟の組織を全部破壞して勞働階級を以て社會の司配者たらしむるにあると言ふような無謀なることを意味するのではない。唯現代人士が目覺めたる生存の意義を透徹するに適當なる新たなる組織が從來の組織を置き換ふることを目標とするのである。而して其新たなる組織とは社會の形式上の狀態を言ふのでないことは勿論であつて、社會の各分子が各其生存の意義に適ふように社會の施設が備ふことが其實質上の要求である。若し社會の狀態が其分子たる各個人をして比較的平易に其生存の意義を達し得るように好適なる境涯に到達したならばそれが即ち吾人の所謂新しき理想の社會組織である。現代の文明國民は主として其目標を此社會組織に置くのであつて、政治家の奮鬪も經濟學者や敎育者の宣傳も亦其努力を此點に集中しつゝあると言つても差支はないのである。

新しき社會組織が要求する實際的問題の中で最も重大なるものを住宅の供給とする。住宅の供給は他の社會的施設の生活必需品たるの公設市場や、失業保險、癈疾保養院、又は結核療院等と相並行して適當に運ばるゝを要するは勿論其他の民衆生活の利便を增進すべきあらゆる他の施設と共に將來の社會組

織改造の要素であることを考ふる時は、此問題に就て相當深き研究をなすは必ずしも時事問題であるからと言ふ浮薄な意味ではなく、最も眞摯なる社會組織の根蒂に觸れんが爲めである。今日吾人が我國に於ける住宅の供給に就て考究せんとするのは其眞摯なる問題の中に就て最も急切なるものであるを信ずるからである。

住宅供給の問題は之を二つの方面より見るの要がある。其一は住宅の窮乏を救ふべく多數の住宅を建設することで其他は從來の住宅を改善して更により好適なる住居たらしむることである。而して改造の最もよき機會は其建設の急要なる時であるから、此問題は其努力の方面こそ異なれ實際は同時に運ばるゝことを以て理想とするのである。之を言ひ換ゆれば住宅供給は量と質との問題であつて之を同時に並行重積して進行せしめねばならぬのである。住宅の量問題は所謂社會施設中の住宅政策として三四十年來英獨等に於て盛んに論議せられて已に法律により、行政の運用により其實現は或る程度に運ばれつゝあつたことは本誌に於ても數次紹介された通りであるが、其質の問題に至つては餘り深く研究さるゝところまでは行かなかつたのは事實である。然るに大戰後の住宅欠乏即ち量の要求は俄然として勃發し、英國の如きは大戰前二十年間に漸く供給し得たるよりは更に多くの住宅を一時に要求さるに至りたる如き一大變化が社會組織上に現はれて來たのである。而してその要求は獨り英國に限らず各文明國は一齊にその傾向に襲はれ我國の如きも矢張り住宅欠乏の風潮に曝さるゝに至つたのである。

住宅の量の問題は國家の社會政策として又一方財政策として或は地方廳の行政上其解決難を憂へられて居る可なり苦しき當面の問題であるが、此處に吾人の最も深く憂へねばならぬ事柄は我住宅の質の問題である。住宅の質の問題は歐米各國に於ては我國のそれに比すれば左程重大のものではないかと思はるゝけれども、我國に於ては住宅の内容外觀及その設備に於て從來の捉はれたる形態より脫却してそこに一大革新を加へざれば、到底現代の文化が招徠したる適實なる生活を營むことは出來ないのであつて

即がて國際的生活より脫退せねばならぬことに立至るかも知れぬ。である。吾人は我國現時の住宅欠乏の聲を知らざるものではない。むしろ官民の緊張せる努力により一日も早く其多數の建設さるゝを期待するのであるが、それと同時に其質の改良即ち改造住宅の適實なる立案を得ることを以て其建設の根本を培ふべく努力せんとするのである。

〔三〕 文化生活と改造住宅

吾人は其生存の意義を透徹せんとせば從來の捉はれたる生活より脫却して、文化的に合理合適の生活に移ることを考へねばならぬのである。然らば其所謂文化生活とは如何なるものを言ふのであるか、近時文壇に於て數次論戰を見る如く其解釋の差異よりして黑白兩極端の結論に到着し、一方に於ては之を高唱せんとするも、他方に於ては之を呪はんとするに至るを遺憾とする。吾人の見るところでは文化生活の偏物質的方面のみを掲げて其精神的方面を缺ぐものと見る時にそこに文化生活を呪はんとする議論が生ずるので、兩極端の黑白論は何れも正鵠を失して居ることは爭ふべからざる事實である。要するに現代の文明國民は其精神的の向上を圖ると共に、物質的にも現代の文化が敎ふる至善を味ふべき生活に移らねば、其生存の意義を透徹する譯には行かないのである。强いて其改善を壓へんとする精神訓練をなすが如きは不自然にして且つ現代の物質文明を否認せんとする無法の考であることは敢て說明を要するまでもない。

現代の物質文明は蒸汽利用をその初陣として、電氣、瓦斯の應用より進んで各種の機械的化學的發明を利用しつゝ其進路を開拓しつゝあるので、吾人の生活の實際は中古時代のそれに比し甚しき變化をなしたのみならず、月に年にそれよりもより以上に變化をなしつゝあるの狀態にある。而して此物質的方面の變化即ち文化的進展は必ずしも精神的方面の進展を直接に招徠するものではないが、又之を排斥す

るものでもない。若し精神的方面の進展を欠きて唯近代の物質的方面の此の著しき進展のみを以て文化生活の本體とするならば、文化生活の價値や知るべきのみであつて、敢て吾人生存の眞實の意義をなすものではない。併しながらその物質的文化生活の進展を否認せざるのみならず益々その進展を圖り健全なる生氣著き此の現代文化を攝取して、其上に堅實なる精神的文化の建立をなすべく努力することが現代人の生存の眞實の意義でなくてはならぬのである。物質的の文化生活は恰かも人間の肉體であり、精神的の文化生活はその精神であるかの如く兩々相待ちそこに初めて現代文化の光輝が見出さるゝのである。

上述の如く現代の文化生活は先づ以て其肉體たる物質的文化の健全なる發達を計りそれを以てあらゆる文化的活動の基礎とせねばならぬのであつて、其第一の要綱は從來の提はれたる無意味の傳統的生活狀態より脫却すべく、而して現代の文化に合適する生活狀態に移るべく其住居の改造を考究することである。歐米各國に於ては合適なる現代式の住宅は可なり深刻に研究されて漸次その實現を見つゝあるけれど、我國の實際を見る時は其改造の急切なる程度は到底彼のそれには比すべくもない程に甚しいのである。彼にありては十九世紀以來或は更に遡りて羅馬帝國時代以來好適なる住宅に就ては相當考慮されて來たのであるが、我國の住宅なるものは鎌倉時代以來殆んど何等の進展らしいものを見出し得ないのであつて、明治維新以來各般の文物制度は一大刷新を受けたるも拘らず、獨り住宅のみは依然として德川時代二百年間に養はれたる習慣よりも一步も踏み出して居ないのである。その生活上の不合理と現代文化に對して適合性を缺ぐことは顯著なる事實であるけれども、我社會の鈍感なる未だ以てその急要を覺らず、其住居狀態に於て特に古慣陋習を株守して居るのは、如何にも現代の一大不可思議の現象である。

何故に我社會が住宅改造の急要なるを覺らざるやは如何にも不可解の事柄であるが、その理由を考ふ

る時はそこに大小多種多様の直接間接の原因なるを知るのである。故に其等の原因を如何にして取除くかを研究する爲めには其主要なるものを一々列擧してその取扱方を考究するのが順序であるけれども、此處には其細目は省略しそれ等の細目を網羅し得るような大綱に就てのみ述べて見たい。

〔四〕住宅改造の要點

我國住宅の改造案を計畫するには先づ第一に吾人家庭生活の座式を廢することを先驅とせねばならぬ談話食事或は書見の際に疊の上に膝を折るの習慣は最も甚しく傳統的に捉はれたる不便不快且つ有害なる作法であることは此處に贅々そるの要はない程明かな事實で、現に活動の方面には座式は全く廢止されて椅子テーブル式を當然として居るのである。現に官廳の執務はもとより一般の事務所及交通機關の座席、學校、病院、圖書館等の內部は凡て座式を廢して居るのに家庭生活のみは殆んど全部未だ座式を保存して其不自然なる傳統的苦痛に甘んじつゝあるの狀態は之を冷靜に觀察すれば甚だ謂はれなき事柄である。從來座式廢止に關し各方面の意見の發表されたるものなきにあらざれども、唯之を部分的に又理論的に批評するに止まり、眞摯に之を取扱ふの誠意なきを常とせる爲めか、此の不合理なる作法を改造するまでに社會を刺擊し得なかつたは如何にも殘念であつた。

座式廢止の必要なるは今日は全く問題とするの價値を有せぬ程明瞭となつたのであるから、此處には其評論を悉くする事は省略して唯其改造の實現を如何にせば最も滑かに普遍的に行渡るかの實際的計畫に觸れることゝする。即ち議論を棄てゝ實行案を提出し、社會一般の批評を受けて其短を削り其不便を補ひ、そこにあらゆる改削を加味して立案の實用化を企つるだけの手段を取るを順序とするのである、今回我協會が主催者として開設せんとする住宅改造博覽會に於ては、原則として常用室を椅子式とし寢室を疊敷とせる改造住宅の數棟を建設し、其實際生活上の便否を社會に問はんとするの手段を採つたの

である。固より右數棟の改造住宅に於ては各室の配置及設備に於て從來の和風住宅に向つて適度の改造を加へ、我過渡時代の生活に適合すべく各種の試みを敢行したのであるが、其中に就て最も重きを置きたる改造要旨は常用室を椅子式となしたことである。而して今その長所及實用上の觀察を述べるよりも其實物の內容が公衆に與ふる印象の方が最も有力にしてしかも最終の陳述であると信ずる。

第二の改造要旨は常用室と寢室とを或る程度まで明瞭に區分したことで、子供常用室を設けたことや客室なるものを設けざることや其他一般の配置を稍歐米の住宅配置に近きものとなした點は近來の我壯年者一般の切なる要求であると信じたからである。又室の內容及外觀に於ては必ずしも從來の形式を排斥したのではないけれども、從來の形式中最も不便としたものは凡て之を取らざることゝしたのである。假令へば雨戶の如き椽側の如き或は次の間の如きは其の不便と不利益を日々に感ずるのであるからそれ等は全く之を廢止することゝした。

第三の改造要旨は其防寒設備である。從來の住宅には一般に冬期の防寒設備を欠くので、其期間の苦痛は容易からぬものがあるのは御互に體驗しつゝあるところである。其家庭生活上の不快と不利益は擧げて數ふべからざるものである。而して其設備は必要ではあるが實施不可能に近しとされて居たのであるけれども、それには多少の犧牲を拂へば必ずしも困難ではない。扇風機や掃除機と同樣に電力を以て採暖するの方法もあり、又輕便なる溫水罐を設くることや、或はペチカを利用すること等も其設計よろしきを得れば其結果甚だ好快なるものとなるであらうと思はれる。

以上の外各方面に亘り部分的に又綜合的に各種改造の施こすべき點は甚だ多いのであつて、その案出の又實現の巧妙にして周到なる運用は吾人の最も深く留意すべきところであると同時に、それ等の復雜にして變轉極りなき有機體的組織の進展は一擧にその好適なる理想に達し得るものでないことを知らねばならぬ。要は從來の因襲傳統に捉はるゝことなくして現代の文化に適合するよう步一步と改造の方向に進み行くべく努力し、漸次彼岸に到達することを以て我國の現時の急切なる問題とするのである。即ち我國の住宅改造の機運を促進することは經濟、軍事、外交等の重要問題を超越した我民族發展の將來に關する基礎的問題であつて我社會一般の最も深く留意すべき急切なる事柄とする。

小住宅の改良に關する感想と希望

工學士　池田實

一

住宅難!!!といふ消極的な悲哀な叫び聲につゞいて、積極的な勇健唱導が起つた。住宅改良!!!住宅改造!!!衣食の問題を通り越して、生存の根底たる住の問題に到達するに至つて、こゝに初めて現社會狀態の欠陷に對する人間眞生活味の半面を表現するもので、人生の眞意義に向つて更に一歩を進めたものと見ることも出來る。

今や既に住宅改造の必要なる所以を說くべき秋ではない。住宅を如何に改造すべきかの具体的方法を講究すべき時機に進んで居る。而して其の目標とすべきは少數者なる上流若しくは中流以上の生活程度に對する住宅よりも、寧ろ目下焦眉の急務としては、下流の方面に存するので、從つて最も簡單に實行し得られ、且つ其の効果の影響を蒙ること の可成多數なるべき方面に就いて先づ研究の歩を進め、熟慮するの必要があると思ふ。

右の立脚地からして、晩近說かれて居る所の二派の內、全然直に西洋化せしめんとする急進派論者の說は別として、和風に洋式の一部を折衷的に加味せんとする漸進派論者の說よりも尙一層下つた極めて幼稚な程度の改造住宅に關して一瞥を投じて得た感想の一部を擧げて研究の資料として聊か批評を試み終りに私案の一を附加へることゝしやう。

二

最近市内並に近郊に於て住宅の新しき試が所々に起つて來たことは誠に喜しく結構な傾向である。

今此處に引用する例Aも其の一で、しかも比較的優秀な方である。先づ其の大体を觀察すると、整然たる道敷割の許に建築敷地も間口奥行共相當に區割されて、從來の長い一棟の三戸、四戸、五戸……其の甚しきに至つては八戸、九戸にも及ぶ長屋の形式と全然其の選を異にし、新しき試の二戸長屋である從つて一寸見ると長屋らしい感じもなく、一戸建の樣で、異つた間取の二戸長屋の甲乙二種を一つ置きに交互に配置して氣持良く、建物の前方は、建築線との間に相當の距離を存し後退して前庭を設け、しかも其の間に板塀などを設けず、植樹、芝生などで境した開放的のものである。又外觀も『プラン』の異るにつれて甲乙二種を用ひ、一ほ全部『モルタル』塗で、他は上半部『モルタル』塗、下半部板張の建物で家賃は前者が少し高く、後者か少し安いのである。全然同一型のものを多數繰返し並列して單調に失するの弊を避け可成變化の快感を與へんと苦心せられた跡歷々たるものがある。大体に於て成功したものと賞讃するに吝でない。

三

其の長所は誰も氣附き易いのと、所謂隴を得て蜀を望む心、又之を模範として一層研究し、改良を加へ行く資料にもと茲に、其の欠點短所を長憚なく縷述して見やう。しかし決して其の美點を沒却して敢て誹謗せんとする積でないことは諒とせられだい。

先づ最初に一寸考へさせられたことは、此の甲乙二種の建物(二戸長屋)を一つ置きに配置したことで配置上誠に良い心地がする。之は一は借家人が自他を區別し易い一助にもとのことであつたそうであるが、其の點は斯く前庭を設けた場合には其の植樹の種類を異にして自彼區別の目標とするも一方法であらう。而して一そのこと、二種は三種、場合に依つては四種にしても良いかも知れぬ。

乙種の方は下半部の板張が誠に粗野で一見甚だしくいやな感じが起る。之は『モルタル』塗と板張との各部分が眞半分宛である爲めで、六分四分位か七位にでもして、板巾をも一層考慮しも少し輕い氣分を表はす樣にしたら良からうと思はれる。

家賃の高下の差のあるものが交互に配列せられたことは如何かと思はれる。『プラン』及外觀を異にしても、家賃は同一程度のものを配列し、其の差のあるものは寧ろ道筋を異にした方が可なりすやと考へられる。併し之は其の借家人の心理狀態を氣遣うた次第であるが、經營者側の觀測に依れば、何等不都合はないとのことで、此の點は先づ安心した譯である。

四

椽側を開放して外板塀で取圍んだ從來の比較的閉鎖式の家に住み馴れた人々は、此の椽側を廢して窓式とし、外塀を徹して道路から內部の見え透く開放式の家に入つて果して『プライベーシー』の點に於て滿足し得るであらうかといふ疑問が起つた。之は元より住む人々の心持に依ることではあるが一般的には如何なる感想を齎すべきか聞きたい心地がする。

其の開放的な建物に比して、裏側の敷地境界は甚だお粗末な板塀で仕切つてあるのは元より家賃から割り出した建築費の關係に基くのではあらうが、此の家の全體としての調和上から見て變な感じが起る。前述の如く開放的に行く以上は、いつそ植木か生垣の方がいくらましか分らない。殊に一体に植木の少ない大なる欠點を補う一助ともならう。序ながら住宅には、其れ相當の植樹は當然として建築費の一部又は設備費の內に考慮せらるべきもので、疊建具類の附貸し程度の住宅としては殊に注意すべき事柄の一であると思ふ。

五

次に内部こ這入つて見ると、流石に間取の具合が便利良く出來て、採光上の注意など小住宅として大なる欠點はない。此の點に於ては新しき試として設計者の苦心の存する所で、其の勞を多とする。しかし兼好法師の『家居の樣は夏を旨とすべし』とか言ふた語は一面の眞理を包むものであると思ふ心からか、又見た時が特に酷熱に近からむとする時の殊に午後の日中であつたせいもあつたらうが、之はあつそうだと直觀せられた。聞けば設計せられたのが冬期であつた爲め、夏期に對する注意が足らなかつたとの事であつたが、兎に角日本に於ける、少くも關西に於ける住宅の旨とすべきは、洛陽に近く住んだ兼好法師の言を鑑みるべきである。冬期はまだしも、何とかなる、夏の暑さ凌ぎは、たまつたものでない。殊に階下は、まだしもとして、階上の瓦の燒ける影響は最も留意すべき事柄である。其は第一天井を高でである。どうせ小住宅のことで室面積は小は三疊から大も六疊に過ぎないから『エアー』の『キユービック、コンテント』を增大する爲め、天井高で調節する必要も起る。建築法規に基く天井高は七尺で、無論それに違反してはゐないと抗辯する人があるかも知れぬがこゝが考へ所である。法規の制限は止むを得ざる場合の最低限度の規定である。之より一步も下ることを得ないといふ『クリチカル、ポイント』を示したものである。從て相當のものにしやうとすれば、其所に多少の餘裕の必要がある。あゝ餘裕といふ感念は建築家の凡ての方面に向つての必須條件の一であることを、忘れてはならぬ。

乙種の方の道路に接近して玄關傍に突出した便所は一見便所と見られて餘り芳しくない上に、下屋建の爲の、其の天井高の低さ、其の床面積の狹きだけ、盛夏の日中しかも西日に照りつけられた際にても其の大便所に這入づたら、それこそ流汗淋漓たるものがあらう。とても裸體でなければ這入れまい。加ふるに臭氣でも烈しかつたら、とても御話になるまいと氣遣かはれた。

六

もう一つの欠點は換氣の點である。窓は相當に設けられてあるから、日中及晴天の日は其の開放に依つて敢て差閊ないことは明であるが、夜間——殊に夏の夜並に風雨の際などに於て、窓の閉鎖を餘儀なくせらるゝ場合の考慮である。昔から在來の住家に設けられた欄間——それがたとへ洋式の住宅でも此の欄間の利用といふことを輕んずるは比較的新しい洋式心酔建築家の欠點の一である。一面に於て夜間一部の開放を衞生上不可とする論者もあるが、或る實驗に基きて、夏冬を通して夜間一部の開放が一般的に衞生上最も良好で、殊に或る種の疾病の治療は、此の方法によることが最も有効であるといふ事實もあることを附加へて置く。

又床下の通風に對する注意の缺如たるものがある。ほんの申譯的の通風孔、とても床下の濕氣を去ることは出來ない。濕氣の及ぼす衞生上の影響の慮るべきものあると、木部腐蝕の程を早めることを能く了解して貰ひたい。

其他煙突に關する注意の不充分、杜際、屋根際あたりの壁仕舞の粗漫、など餘りに苦言に過ぎる嫌があるので、以下之を省畧することゝするが、外壁が出來て間もなく、風雨にさらされて、所々剝落して骨をあらはすに至つては、間取、外觀などの一方面のみに注意が向けられて、建築全體としての必須條件に關する留意の頗る粗漫——用意の周到を欠ぐとの素人の批難も免れないのも止むを得ない次第である。之は一面に於て今日の建築教育の欠陷の一部を雄辯に物語るものであると見ることも出來る。

七

次に他の實例一二に就いて其の欠點を指摘して見やう。

田邊方面の或るBの新住宅で、外觀は一寸氣のきいた洋風建築、それに引きつけられて早速住み込んだ或るハイカラ君は、一日少し烈しい風雨にツくとりして翌日直に他に轉宅したといふ一例がある。之

も今日の若い建築家の欠點を遺憾なく曝露したものといふべきである。軒の淺い木造住宅のしかも安普請で、一寸見の外觀のみに腐心した結果、洋風の窓式、敷居越しに雨水の浸入、壁の濕潤、加ふるに、戸障子が風に吹き飛ばされそうな爲め、家内總掛りでの防禦騒ぎ、不安と不愉快、これでは住宅としての根本的價値がない。外觀間取のみの偏重と、自然に對する防備の輕視、否無頓着、素人の言は正に傾聽に價すべきものがある。

八

又櫻の宮方面に於ける新住宅經營の一例を述べて見やう。階下と階上とを全然別箇の住宅としての設計に出來上つたものである。下流の長屋生活の常として、どうせ二階は他の世帶人に又貸する。それよりは初めから階上階下を全然區分して建てる方がましだとの譯であるが、そう簡單な理屈通には行かない。其處には又それ相當な注意を加ふる必要が起る筈である。階上と階下とは全然無關係な住人、しかも在來普通の木造建物、階下に病人があらうが、二階では酒飲んで大散財の浮かれ騒ぎ、下では安靜どころか、まるでたまつたものではない。二階の水場の水は遠慮なく階下に漏つて來る。共同の便所は無責任な人々の遣ひつぱなし、心ある人の時々の掃除も其の効はない。どこもこゝも階上と階下との小言の起りどうし、其の監理人こそいゝ迷惑、殆んど閉口の體たらく、氣の毒至極である。住む人の生活狀態にもよることではあるが、木造長屋そのまゝの『アパートメント、ハウス』式の缺點の一例とも見られる。これも若い建築家の新しき試みの失敗の一例である。

新しき試みは誠に結構な次第である。益々其の發達を熱望する。其の間多少の缺點は止むを得ざる場合もあることを諒とする。しかし一面に於て出來得る限り充分周到な注意を拂ふことを最も必要とする所以を力説する譯である。さういふ不注意に基く缺陷が、單に一部分の缺點瑕瑾として世人は觀過して

免れないで、新しき試みの建築全部に對する批難となり、輕侮となり、甚しきに至つては改造住宅なんて、あんなものは、とても駄目だ、矢張り大工にやらした在來の長屋の方が餘程ましだとの結論に歸着せしむるに想到すれば、改良住宅の發達を沮害すべき點に於て、うたゝ寒心に堪へぬものがある。

九

住宅改造の方針としては、前述の如く全部を一躍西洋式の倚子卓子及寢臺式の革めんとする急先鋒がある。先頃伽羅橋とかに此の種の改良住宅が經營されたそうだが、乍遺憾多忙にして未だ實見するの機會を得ない。しかし一面に於て洋行歸りのハイカラ氏が全部洋式住宅を新築して後、間もなくその一部を改造して和式に逆戻りをしたといふ例もある。兎に角それらは少くも相當資產家の先つ上流生活者の問題でこゝには暫く別とする。

次の折衷派は和風を元として、之に洋式の長所を相當加味せんとするもので、或は階下の全部若しくは一部を椅子式とし階上を座式とするか、又は藤井工學士案の如く一室内に椅子式の部分と座式の部分とを半分位宛併用するものなどである。其所迄行けば餘程の進歩であるが、之も中流以上でなければ行はれ難い。

今茲に問題として居る下流向の小住宅の改造に關する私案の一を述べて見やう。誠に姑息な方法で識者の嗤笑を買うかも知れないが、最も實行し易い丈けは間違ひない積りである。

結局詮じつめた所は、腰掛式と座式との問題に歸着するに過ぎない。曾て本誌上に於て佐藤工學士が座式の寧ろ進歩せるものなることを說かれたこともあるが、其れにも一面の眞理はある。

要するに今日の日本人は永き因襲の結果、大體に於て住宅内では座式生活である。しかし、學校生活事務所生活などの倚子式の影響をも受け、又肉體の生理的作用にも基いて、時には寢そべつても見たく

時には一寸腰掛けても見たいと思ふ様な心理狀態の人が多數を占めて居るやうだ。之は必ずしも少壯の男子ばかりでなく、婦人にもあり、老人にもある。其座ると寢そべるとに便利なのは從來の式であり、腰掛るには之に倚子を備ふれば良い様なものであるが、倚子に倚りかゝると一寸煙草を喫し、茶を呑むにも、すぐ卓子の必要が起る。下流の借家生活には其の設備費も考へものだし、殊に其の不用のとき其の片付けに邪魔になつて、狹い小住宅ではやりばに困る場合もある。

併し在來の儘では、座る寢そべる外一寸腰掛けて見たい氣分のとき、家の中を見渡すと僅に玄關の上り框か、椽側の端か、臺所の板間の端位で、室内には何處にも腰掛けるべき部分がないといふ不都合がある。其處で、私案は大部分を現狀に從ひ、一小局部に腰掛に便する所を設けんとするのである。

其の方法は、例へば、從來の肘掛窓の名稱を改めて腰掛窓とする。即ち床上約一尺二寸位、出は二三尺、長は一間位の出格子樣のものにする。其の格子は必要條件ではない。其の形狀がそれの如くであれば可なりて、敷居鴨居は外方に設ける。そうすると面積も小で、時に腰掛けて見たい氣分のときに一寸之を利用する。其處に座蒲團を置いて二人並んで對話するにしても、其の間に煙草盆と茶呑位は置ける之は男子のみならず、婦人にも老人にも確に有効に利用できて敢て不都合のないことは實驗上保証する所である。

又此の所謂腰掛窓は時に物品又は盆栽などを並べることに利用もきくし、其の床上約一尺二寸の間は地袋的に利用しても宜しい。其の上方の内法は腰掛窓の地板から五尺七寸以上にすると上方の壓迫は避けられる。而して此の方法は必ずしも窓式には限らぬので、床脇の地板の高を床上約一尺二寸位とし、其の下を地袋とし、地板上の内法を五尺七寸以上にして利用することも前同樣にすれば宜しい。此處迄來れば、序に床の間の高も從來よりは相當高め、其の落掛下の内法も適當に大ならしめても宜しいと思ふ。

以上は或はつまらぬ愚案と評する識者もあらうが、下流の小住宅の改良は斯かる成し易き卑近な方法からして漸次座式を椅子式に誘導し行くことが、却て有効で、殊に少壯の男子は別として、多數の老人並に婦人の座式を椅子式に進歩せしむべき』ローヤル、ウエー』であると確信して疑はないのである。敢て素人の一考を煩す次第である。

十

尙新しき改良住宅として留意を乞ひたい點二三を摘記して見ると物干の設備は其の一である。とても一々洗濯に外に出すことは出來ない程度の生活者の住居であることを忘れてはならぬ。街路から見て不體裁でなく、又便利で、一日中日當りの良いやうに一段の工風を要する。井戸を掘ることは其の二である。如何に水道があるからとて、井戸を設けざることは不可である。甚だしきに至つては水道の出來たる爲不用として、在來の井戸を廢して埋めるものさへあるは無知の極である。現代の幼稚な科學に基く水道は只衛生上稍良好であるのと、消火上多少有効であるといふに過ぎない。夏はぬるま湯の如く、冬は身を切る冷たさ、自然の力、恩惠に比して遙に遠く〳〵及ばないことに想到すべきである。震災に際する水道鐵管の破損なども考慮に入れ置く必要あることは既に其實例の示す所である。一面雜用水の利用は、水道の負擔を輕減し、冬は暖かに、夏は冷かに、尙又防火上にも多少の貢献を齎らすの利がある。各所に各部分に於ける地下水の利用——自然の恩惠の利用を重大視すべきである。（了）

住宅問題は交通問題

法學士　小川市太郎

一

住宅問題の解決と云へば、人は大抵住宅供給の方面のみを考へる。即ち市役所をして公營住宅を建てさせるとか、工場主に勸めて職工長屋を造らせるとか、或は住宅組合や建築會社のやうなものを、保護奬勵して、住宅を增設せしめるとか、凡て住宅の數と量を增すことに力を注がうとする。之れは誠に至當のことで、住宅の供給を增さない限り、住宅難を救ふことの出來ないのは、云ふまでもないことである。

二

併しながら、今日の住宅難なるものは、單に住宅の供給を增すことのみに依つて、解決し得らるべきものでない。之と同時に都會に於ける住宅の需要を減ずる方法を講じなくてはならぬ。ナゼなれば如何に、公共團體の力を以てしても、工場主の奮發を以てしても、組合や會社の協力を以てしても、供給すべき住宅の數には限りがないし、トテも絶えず增加する住宅の需要に應ずることが出來ないからである殊に我國のやうに、政府では、碌々住宅組合には金を貸して呉れず、工場主は眼先の慾ばかり强くて、職工住宅などを建てやうとせず、殊に大阪のやうな大都會では、家を建てるにも市の附近には地所がな

く、地所があつても、地代が非常に高くて、家が建てられないと云ふやうな處では、イクラ焦つてもなか〳〵そう多くの家は出來るものでない。

三

そこで住宅問題を解決する策としては、都會に於ける住宅の需要を減ずるより外に方法はないのであるが、然らば如何にして、都會に於ける住宅の需要を減ずべきかと云ふに、それには都會の人々を遠近の郊外に分散せしめる外はない。之に於てか人口分散の問題が起つて來るが、人口分散の方法としては次の二つを擧けることが出來る。即ちその一つは工業分散（Industrial Decentralization）であつて、モウ一つは居住分散（Residental Decentralization）である。

四

然らば工業分散とは何かと云ふと、それは今日市の内外に在る各種の工場を、郊外の諸處に移轉せしめ、之に依つて都會の人々を、分散せしめやうと云ふのであつて、之れが思ふやうに行はれたならば、著しく住宅の需要を減じ得るのは言ふまでもない話である。ナゼなれば今日大都會の人口の大部分を占むるのは、工場勞働者と、工場並に工場勞働者に、商賣上の關係を有するものであるから、此等の工場を他に移轉することが出來るとすれば、勞働者を初め之に關係ある多くの人々を、それと共に郊外各地に分散せしめるのが極めて容易であるからである。

五

さりながら今日、各種の工業と工場が大都會に集中して居るのは、何れも然るべき原因があつて、茲に

至つたので、一朝一夕に之を移轉せしめやうとするのは容易のことでない。即ち今日いろ〳〵の工業が大都會とその附近に本陣を構へて動かないのは、要するに都會は田舍に比して、交通取引の便が多い上に、資金を得るにも材料を買ふにも、需要家を求むるにも、萬事に便利で都合が好いために外ならないから、此等の條件の具備しない田舍に、工業を追ひ遣らうとしても、それはナカ〳〵行はれるものでない。殊に一度大資本を投じて設置した工場などになると、タトヒ他に各種の點に於て優る處があるとしても、一度備付けたものを、他に移轉するについては、多くの經費を要し、且つ種々な困難を伴ふことろから、結局移轉が出來ずに終る場合が多い。

六

それであるから、工業の分散と云ふことは、理想としては甚だ可いが、實際としては先づ難かしいものと、見なければならぬ。そこで都會の人口分散策として、吾れ〳〵の採るべき方法は、居住の分散より外にないことになる。即ち工場の方は、現在の儘として置いて、工場勞働者をして、出來得る限り郊外に居住せしめ、其處から工場に通勤せしめるやうにするより外に途がないことになるのであるが、之に於て交通機關の問題が起つて來る。

七

今日勞働者を初め多くの人が、何故に比較的高い家賃を拂つて、塲末の汚ない豚小屋のやうな家に住つて居るかと云ふに、それは僅かな時間で工場（若くは會社）に通勤も出來、且つ電車賃も要らぬと云ふために過ぎない。それであるから、若し都會の郊外に於て、閑靜で低廉な勞働者の住宅が得られ、彼等が住處から、安い乘車賃で、迅速に、愉快に工場に通勤が出來るものとすれば、何人か好むで塲末の陰

鬱な陋屋に生活して居るものがあらうか。倫敦や紐育で、勞働者や薄給の會社員が、餘程遠方から毎日工場若くは會社に通つて居るのを見ても、それが明かに知り得られる。そこで吾れ〳〵が、住宅問題を根本的に解決しやうとするには、ドウしても先づ交通機關を改善しなくてはならぬのであつて、獨逸の學者が、住宅問題（Wohnungsfrage）は交通問題（Verkehrsfrage）であると云つて居るのは、極めて眞相を穿つた言葉である。

八

然るに我國は如何。大阪は全國中でも、交通機關、殊に電車の最も發達した處として稱せられて居るしかもその電車たるや、輸送力が極めて少ない上に、乘車賃が比較的高いので、ナカ〳〵之れで以て、居住の分散を行ふなどは思も寄らぬことである。例へば紐育などであると、薄給のサラリーメンや勞働者の住む二百四十町目あたりから、白銅一枚を出せば何の苦もなく、十三哩も隔つた下町に通ふことが出來るが、さてそれが大阪になると、直き目と鼻の間にある郊外から、大阪のオフイスなり工場に通ふとしても、郊外電車で割合に高い區間制の乘車賃と通行稅を拂つた上に、更に市電に乘替へて、乘車賃の外に、通行稅を拂はなければならぬ。今假りに茲に一人の勞働者があつて、それが京阪電車沿線の守口（市の境界から四哩四三）から毎日大阪市内の工場に通ふものとすれば、郊外電車に於て片道十錢を拂ひ、市電に於て六錢を拂ふ外に、京阪電車と市電に於て通行稅各一錢づゝを拂はなくてはならぬ、從つてこの勞働者は、毎日この僅かの距離を往復するために、三十六錢を電車賃に費やすことになる。（双方とも往復を買ひ、市電は割引電車に乘るとしても、三十一錢を要する）しかも我國の郊外電車は、倫敦の地下鐵道などゝも異ひ、遠距離遞減制を取つて居らないから、若しもそれが遠方から通ふ段になると、實に驚くべき高い乘車賃を拂はなくてはならぬことになる。之れは到底安月給取や、勞働者などの

堪へ得る所でない。

九

しかも今日の狀態では、市電でも、郊外電車でも、輸送力が少ないために、朝夕のラッシユアワーなどには殆んど乘ることが出來ない。乘降の際の混雜亂暴は、名狀すべからざる有樣で、氣の弱い私などは、この戰爭の如き狀態を見て、呆然と三十分も停留場に立盡すことが往々ある。私も一昨年外遊して到る處西洋の都會の電車にも乘つて見たが、日本の電車ほど野蠻な電車に出合したことはなかつた。從つて我國では、今日毎日郊外から都會に通ふと云ふことは、非常に不經濟である上に、又非常な苦痛である。コンな事ではトテも都會の人口を外方に分散せしめて、住宅難を緩和せしめることは出來ない。

一〇

そこで私の考へでは、住宅問題解決の最良の方法は、市が早く高速度電車を敷設して、少くとも都市計畫の區域に屬する範圍まで四方に之を延ばし、その沿線に於て各處に一定の計畫に基いた住宅區を造るにある。而して安い乘車賃で速くドン〳〵多數の乘客を郊外の住宅區に運ぶことが出來るやうにしたならば、人は段々其處に移住するやうになるであらうし、ソウすれば今日の密集居住の狀態から、都會を救ひ、大に住宅難を緩和することが出來やうと思ふ。尤も高速度電車の建設には非常な巨額の金が要る。而して外國の例を見ても、多くは缺損勝である。併し如何に算盤上引合はないにしても、高速度電車の如き居住分散の大任務を有するものは、公益上の見地から大都市として必ず之を敷設しなくてはならぬものと思ふ。而してイヨ〳〵引合はぬとなれば、路面電車から擧る利益金を以て埋合はすなり、又電車沿線の土地の値上りに課稅して、之を補ふなり、如何やうにも方法がつくので、その點は必ずしも

顧慮するに足らない。

之について『エバーシュタット』教授は次の如く言つて居る。蒸汽鐵道は、十九世紀の前半に於て、非常な大なる牽引力を以て、諸方の人口を都會に吸收し、其處に大なる工業中心を造つた。然るに十九世紀の後半に、電車が敷かるゝに至つて、それが主として都市を擴張する方に役立つたが、今日となつては、從來のやうな範圍の狹い擴張では、追付かなくなつた。ソコで之から先は更に力の大なる電車を藉りて、都會の人口を郊外に分散せしめるより外に途がなくなつた、云々と。更に『アドルフ、ウエーバー』教授は之に裏書して、鐵道の持來した人口の集中は、電車によつて分散せしめなくてはならぬ、云々と、言つて居るが何れも至言である。

秋

○しみ〳〵と竹に時雨の音すなり

△烏羽田の沼に鴨の下り居る

住宅改造博覽會の主命

——我が女子の化學的智織の普及を切望す——

工學士　橫濱勉

住宅の設計は趣味を基調として取扱はれねばならぬことは一面の眞理であることは爭はれぬ。併し一方に於て實生活に觸れること、即ち日常生活の能率を向上することも充分に考慮せねばならぬ。否、寧ろ此方面に關して改善研究の必要ありはせないか。大體に於て趣味は一人々々に依りて異なる……多少は共通點はあるとしても……性質のものであるが、日常生活は何人にも適用し得べき共通性を見出し得るものと思ふ。

幾等客間や食堂は立派に出來上つても、臺所とか便所などは衞生的に出來上らなかつたら、生活の上には意義のない……尠くも實生活には意義の薄い……ものであらねばならぬ。一般の主人、主婦といふ方々は客間や居室のことに關しては隨分希望もあり註文もあるやうだが、臺所とか便所に對しては用意も研究も極めて淺薄なやうである。

現代科學の進歩は生活……住宅……改善の上にも喰ひ込むで來て、到底ラストゼネレーションの人達……五十年前の人達には想像も及ばなかつた程に生活の實際は變遷して來てゐる。

一々管々敷實例を擧ぐる要もあるまい。蒸氣や瓦斯や電氣の應用は最近に至つて一段と家庭生活の上に押し寄せて來たやうだ。近來、生活改善、文化生活、能率增進を主張し宣傳する人達は、實生活に對する科學的應用を徹底的に研究もし。又同時に普及する必要もあると思ふ。

私は二三年前に英國に遊んだ時に、倫敦大學に於ける、改造省の委託に係る生活改善調査會の研究室を訪問をしたことがある。この研究室に於て大學の教授達は、何んな研究をやつてるかと思ふと、臺所の竈を幾十種も据え付けて、薪や石炭やコークスや果ては瓦斯や電氣のもあつて、その各種の竈の能率を研究して、その各々に就いて熱量の所要數から、建設費は勿論のこと、所要時間の長短、取扱の便否など、極めて明細に學理的に報告書を起草してゐた。

又暖房裝置に就いても、古風な英吉利爐から、瓦斯ストーブや、レジエーターや、温水暖房や電氣ストーブや、レジエーターなどの夫れ自體に就いて研究する許りでなく、室の壁體に就いて、煉瓦壁や、コンクリート壁や又其ホーローな場合とか、木造の木屑壁などの傳導率なども研究し、建物それ自體と實生活とを科學的に改善研究をやつてることには、私自身、英國のやうな保守主義な國に於て、この一事を目撃して、感大なるものがあつた。英國で生活改善……國民能率增進といふことを眞劍に考へるやうになつたのは、歐洲大戰爭の後のことである。……獨逸では無論、遠の昔に研究もし、且つ實際に應用もしてゐたことであるが。……住宅改善運動も亦同じ頃から起つて來た。

我國に於ける生活改善……住宅改善……の運動も、その頃より遲くとも早くはなかつたやうだ。生活改善同盟會は創まり、その宣傳に實行に努力……現在では大して目新しい活動はして居ないやうだが……をやつた。次いで文化村の出現となり……一般の期待には多少物足りない感じがしたかも知れないが……住宅改善の機運を促したことは事實である。氣運は近く本協會主催の住宅改造博覽會の實現といふ點に歸納されて來た。

要は生活改善……能率增進……住宅改造の世界的潮流の波及である。

我國に於ける生活改善の要件は、歐米文化國に比して遙かにその分量に於て大なるものがある。

尠くも、歐米と並行してやるのには、偉大なる勇氣と努力とを要する。

閑話休題、何故に吾人は二重生活の煩に堪えずして、猶且つ、それから脫却することは出來ないだらうか。二重生活から脫却することは、我が生活改善を解決する要諦として、特に主要なる點である。

二重生活から脫れることは、到底一朝一夕に可能性のものでないと誰れでもいふ。併しやらねば何年たつてもやれぬのだ。而も一年遲れると二年の損となり、二年遲れると四年の損となるのである。

最早理屈でなくて果斷にある。國民全體の偉大なる勇氣と決心に期待する外はない。

住宅改造の基調も、要は二重生活打破にある。今秋開設する住宅改造博覽會に於ては、その出品たる實物住宅に於て、確かに二重生活の解決を近からしむる氣運を作り得ると信ずる。

更らに話題を換へて述べるが、我が生活改善、住宅改造に當りて、一般國民の科學的智識の發達と普及を促したいことである。

現代科學的應用の實生活に及ぼして居る範圍は廣汎なものである。

例之、夏時は冷却用の氷は人造的に供求され、電力扇に依つて凉風は送られ、冬時は薪炭採暖から脫却して、蒸氣や温水の暖房となり、電力温氣となつて來た。昇降機にも喞筒にも電力は應用せられ、浴室や洗場には何時でも湯は汲み取らるゝ。水道に依つて給水はいづれの室にも持つて行ける。炊事用の燃料は薪炭から瓦斯となり、現今では電熱となつて來た。

開くところに據ると家庭用の電熱應用器具は、其數七十も超ゆるといふことである。

而して吾國民は歐米先進國に比して科學的智識の他の智識に比較して普及してないことは事實である殊に女子……主婦……に於て科學智識の淺薄なること或は皆無といつても宜しい位のもある。

主婦は實際上の住宅の運用長の主命を帶びてゐる。文化生活を基調とする改造住宅は科學的應用を徹底するにあるとせば、その運用長たる主婦はその諒解と活用の妙を極めねばならぬのは當然のことである。

私は二三年前に英國に遊んだ時に、倫敦大學に於ける、改造省の委託に係る生活改善調査會の研究室を訪問をしたことがある。この研究室に於て大學の教授達は、何んな研究をやつてるかと思ふと、臺所の竈を幾十種も据え付けて、薪や石炭やコークスや果ては瓦斯や電氣のもあつて、その各種の竈の能率を研究して、その各々に就いて熱量の所要數から、建設費は勿論のこと、所要時間の長短、取扱の便否など、極めて明細に學理的に報告書を起草してゐた。

又暖房裝置に就いても、古風な英吉利爐から、瓦斯ストーブや、レジエーターや、温水暖房や電氣ストーブや、レジエーターなどの夫れ自體に就いて研究する許りでなく、室の壁體に就いて、煉瓦壁や、コンクリート壁や又其ホーローな場合とか、木造の木屑壁などの傳導率なども研究し、建物それ自體と實生活とを科學的に改善研究をやつてることには、私自身、英國のやうな保守主義な國に於て、この一事を目擊して、感大なるものがあつた。英國で生活改善……國民能率增進といふことを眞劍に考へるやうになつたのは、歐洲大戰爭の後のことである。……獨逸では無論、遠の昔に研究もし、且つ實際に應用もしてゐたことであるが。……住宅改善運動も亦同じ頃から起つて來た。

我國に於ける生活改善……住宅改善……の運動も、その頃より遲くとも早くはなかつたやうだ。生活改善同盟會は創まり、その宣傳に實行に努力……現在では大して目新しい活動はして居ないやうだが……をやつた。次いで文化村の出現となり……一般の期待には多少物足りない感じがしたかも知れないが……住宅改善の機運を促したことは事實である。氣運は近く本協會主催の住宅改造博覽會の實現といふ點に歸納されて來た。

要は生活改善……能率增進……住宅改造の世界的潮流の波及である。

我國に於ける生活改善の要件は、歐米文化國に比して遙かにその分量に於て大なるものがある。

尠くも、歐米と並行してやるのには、偉大なる勇氣と努力とを要する。

閑話休題、何故に吾人は二重生活の煩に堪えずして、猶且つ、それから脫却することは出來ないだらうか。二重生活から脫却することは、我が生活改善を解決する要諦として、特に主要なる點である。

二重生活から脫れることは、到底一朝一夕に可能性のものでないと誰れでもいふ。併しやらねば何年たつてもやれぬのだ。而も一年遲れると二年の損となり、二年遲れると四年の損となるのである。

最早理屈でなくて果斷にある。國民全體の偉大なる勇氣と決心に期待する外はない。

住宅改造の基調も、要は二重生活打破にある。今秋開設する住宅改造博覽會に於ては、その出品たる實物住宅に於て、確かに二重生活の解決を近からしむる氣運を作り得ると信ずる。

更らに話題を換へて述べるが、我が生活改善、住宅改造に當りて、一般國民の科學的智識の發達と普及を促したいことである。

現代科學的應用の實生活に及ぼして居る範圍は廣汎なものである。

例之、夏時は冷却用の氷は人造的に供求され、電力扇に依つて凉風は送られ、冬時は薪炭採暖から脫却して、蒸氣や温水の暖房となり、電力温氣となつて來た。昇降機にも喞筒にも電力は應用せられ、浴室や洗場には何時でも湯は汲み取らるゝ。水道に依つて給水はいづれの室にも持つて行ける。炊事用の燃料は薪炭から瓦斯となり、現今では電熱となつて來た。

聞くところに據ると家庭用の電熱應用器具は、其數七十も超ねるといふことである。

而して吾國民は歐米先進國に比して科學的智識の他の智識に比較して普及してないことは事實である殊に女子……主婦……に於て科學智識の淺薄なること或は皆無といつても宜しい位のもある。

主婦は實際上の住宅の運用長の主命を帶びてゐる。文化生活を基調とする改造住宅は科學的應用を徹底するにあるとせば、その運用長たる主婦はその諒解と活用の妙を極めねばならぬのは當然のことである。

我國の女子は一般に文藝などには相當の智識を具有してゐるが、科學的智識、殊に科學應用に關する智識に至つては深からぬやうである。

吾人は女子に高等普通學を敎養する程度に於て實踐家政として、生活に對する科學應用を課程の上に學ぶことがなければ、文化生活、生活改善、住宅改造の促進に對して故障を來すのみならず、折角の改造も改善の實果を擧ぐることは到底困難なことであると思ふ。

繰返していふが、國民の科學的應用智識の普及特に女子に對して切望するものである。（了）

秋

○夕月に後れて渡る四十雀

△秋を憂いてひとり戸に寄る

住居問題の發生に就いて

大阪高等商業學校教授　伊藤眞雄

住居に關する社會問題も亦他種の社會問題と同じく、理想の進歩に依る個人及び社會の自覺を基礎とするは勿論であつて、恰かも勞働者に眞の自覺起らぬ間は眞實の勞働問題は起り得ざると同じく、個人及び社會が住居改善の意義及び必要に關し眞に自覺せざる間は、住居問題は假令其の形影はあつても未だ眞實に存立し得ない。

住居問題の中心をなすものは住家の問題であつて、住家問題は、住家の品質に關する方面と、住家の數量に關する方面、及び住家の配置に關する方面の三方面から成る。故に住居改善に關する自覺は先づ以て品質優良なる住家の十分なる供給に對する要求となつて現はれ、更にそれが發展して住家の適當なる配置に對する要求となり所謂都市計畫の問題となるのである。故に廣き意義に於ける住居問題の一部として發展すべき都市計畫なるものは、やはり品質優良なる住家の十分なる供給といふ中心問題を以て其の主眼となすべきであつて、それが唯都市の外觀修飾を以て眼目と爲すが如き態度を以て行はるゝことあるを見るのは是れ其社會が未だ眞に住居問題に就き覺醒せざる場合と謂はなければならぬ。又個人が住家の品質如何を省みず單に其の供給の豐富をのみ要求するが如き場合も、是亦個人が住家改善に關し眞の自覺なきことを示すものである。

住居問題に就き個人及び社會が最も夙く覺醒したる英國に於ては、先づ社會人口の主要部を占むる勞働者の住家の品質に關し衞生上、道德上、延いては國民生產力の發達、及び次代國民の養成等の觀點から甚だ不滿足を感じ、一八四八年に發布したる公共保健法を藍觴とし、次いで一八五一年に發したる勞

働者住居法を端緒として、爾來幾多の修正法及び新法を制定し、就中一八六八年のトーレンス法、一八七五年のくろす法、一八九〇年の勞働者住居法及び一九〇九年の勞働者住居及都市計畫法に依て、勞働者住家の品質改善に主力を盡すと共に優良住家增加の奬勵に努めた。而して此等の法制は從來自由主義個人主義甚だ旺盛を極め專ら私益を尊重したる國であるに拘らず、個人及び社會の理想の進步に因る社會的正義の觀念に基き、公益と私益との調和均衡を精察熟慮したる結果として制定せられたのであつて而かも其の規定が公益の爲に私益に干涉制限を加ふること著しく、且つ公益の爲にする公權の發動及び私權の制限は其の範圍及び程度に於て甚だ急速なる增進をなしつゝあるに徵し、又他方には公益を目的とする私團體及び個人の行へる堅忍不拔なる住居改良事業及び其の成績に徵すれば、英國の個人及び社會の住居問題に關する覺醒は如何に深刻なるものあるかを知り得るのである。隨て又其執りつゝある政策及び方法は、多年の研究實驗を經て其目的上眞に適切有効なるものとの確信に基いたものであつて、住居問題の解決に就き未だ實驗少き後進諸國民に取つては、最も有益なる參考資料を供するものである。試みに一九〇九年の住居及都市計畫法に依て修正せられた住居改良に關する規定の主要點を擧ぐれば左の如くである。

地方團體は、必要ある場合には、其の所有地に於て勞働者の宿舍又は小住宅を建設又は取得することが出來、又其管區外の場所に於ても之をなし得る。此等の目的の爲め土地を收用することを得る。四名の住民から、地方團體が必要なるに拘らず其權能の行使を怠りたるとの抗議あるときは、上級團體は自ら代つて此等の權能を行ふことを得る。又四名の住民又は上級團體から此抗議ありたる場合には、中央廳は地方團體に對し一定の期限內に之を實行すべきことを命ずることを得る。若し此命令を遵行せぬ場合に、上級團體が同意するならば、之に其の實行を命ずることを得る。

地方團體は、其の管內の住家中衛生上危險又は有害であつて人類の住居に適せざる狀態に在るもの

なきかを確むる爲め、時々臨檢を行ふ義務がある。而して保健醫員の申告又は其他の者の通知に依て或住家が人類の住居に適せぬと認めたときは、之が閉鎖命令を發することを要する。其の所有者が閉鎖後三ケ月内に適當なる改修を行はぬときは、之が取毀を命ずることを要する。所有者が取毀を實行せぬときは地方團體が自ら之を執行することを得る。又四名の住民又は上級團體から、地方團體が此等の權能の行使を怠りたるとの抗議あるときは、中央廳は地方團體に對し、一定の期限内に之を實行すべきことを命ずることを得る。此命令を遵行せざる場合に上級團體が同意するならば、之に其の實行を命することを得る。

地方保健醫員は、或地域が人類の住居に適せずと認めたときは、地方團體に申告することを要する。地方團體は之を是認したときは、之が改造設計を立つることを要する。之が爲に土地の收用をなすことを得る。改造設計には、之が爲め立退きを命ぜらるゝ勞働者の數に應じ、中央廳の命ずる人數に對し、其土地又は其外の土地に於て適當なる住家を設備すべき設計を含むことを要する。中央廳は地方團體が改造設計の作製遂行に關する義務を怠れりと認むるときは、一定の期限を附して之が實行を命ずることを得る。

而して此等の規定運用の實際の方針としては、從來は住家改善の方面に主力を盡し、優良住家の供給增加に關しては、國庫資金の寬大なる貸付等に依て、主として私團體、個人、及び地方團體の任意的事業を奬勵することに重きを措いたのであるが、歐洲大戰の起ると共に住家改良運動は殆ど中止せられ、加ふるに戰時に制定せられた家賃制限法の爲に住家の新築が妨げられ、殊に平和克後兵員の歸來と共に大に住家の不足を感ずるに至つたので、豫ねて戰時中から準備せられた調査に基き、一九一九年新たなる勞働者住居及都市計畫法を發布し、個人又は其他の者が勞働者の住家供給をなさゞる爲に住家の不足を感ずる場合には、地方團體が之を建築供給すべき義務を大に加重するに至つた。即ち地方團體は、

新法發布後三ケ月以内に、其管區内の勞働者住家の不足數を調査し、之を保健省に報告することを要し且つ建築を要する住家數、其の構造、敷地の面積、位地、一エーカーの上に建築すべき住家數及びその實行方法等を示す處の補充設計を提出することを要し、若し地方團體が此等の義務を盡さず又は其設計を實行せざる場合には、上級團體又は保健省が代つて之を執行することを得せしめ、又保健省は地方團體に對し、貧民窟の一部又は全部の住家取毀に依て之が改造を命ずることが出來、若し地方團體が之を實行せぬ場合には上級團體又は保健省が之を實行することを得ることとした。

斯の如く、住居改良に關し、先づ住家の品質及び數量の方面から、幾多の難問題に逢着しつゝ多年の實驗的努力を重ねたる後に於て、遂に住家配置の問題に到達するのは當然の順序であつて、英國では一九〇九年の住居及都市計畫法に於て始めて都市計畫に關する法律を作るに至つた。即ち地方團體をして都市の區域内又は區域外に亘つて、現に建築地として開發せられた土地、又は將來開發せらるべき土地に對し、其土地及び近隣地の適當なる衞生狀態、風致、及び便利を確保すべき設計を立つるを得せしめ、此設計は中央廳の認可を受けた後は、議會の制定したる法律と同一の効力を有せしめたのであるが、其後更に一九一九年に發布した新たなる住居及都市計畫法では、國内一般に都市計畫を實施する必要を認め、人口二萬以上の市及び保健大臣が必要と認むる町村は一九二三年から三箇年間に都市計畫の設計を立つることを要することをした。斯の如く英國の都市計畫は住居問題の展開の結果起つたものであつて其法律が常に住居及都市計畫法なる名稱を附せらるゝに觀ても之を知り得るのである。即ち英國に於ては都市計畫なるものは、一國人口の主要部を占むる勞働者階級に、健全幸福なる家庭の本據を得せしむることを以て目的とするものであつて、單に少數上流者の審美的問題ではなく、國民全體及び其の子孫の健康及び品性の問題として發展したものである。國民全體の福利增進は下級民の生活の改良進歩に俟たなければならぬといふ平凡なる眞理は、個人及び社會の理想が相當の進歩を遂げ、社會的正義の觀念や社會的良心の發動著しきものあるに至つて、始めて確認せらるゝに至るのが常であるが、此確認が

其の根柢を成せることが、英國の都市計畫否寧ろ其の住居政策全體の特徴であつて、歐洲大陸及び米國で行はれた都市計畫の多くとは頗る其の趣を異にする點である。此等の諸國に於ける重もなるものは多くは主として都市全體の構造の統一便利を針ると共に都市を美化し壯觀を添へんが爲めの修飾に重きを措いたものである。勿論、之に依て市民の環境を改善し其の精神的及び社會的進歩に貢獻する所尠からぬ事は明かであるが、而かも同じく住居に關する方面から市民の環境を改良せんとするならば、先づ以て人の最も密接の環境である住家の改善を以て第一と爲すべきである。然るに此主眼點を顚倒しては其の犧牲の大なるに比して其の効果小なるべきは免れぬ所である。而かも此顚倒が往々行はるゝのは、要するに、其事業は、其社會が人類の環境改良に關し住居問題の意義本質を理解して其の必要を自覺したる結果起されたるものではなく、寧ろ主として專制君主の榮譽欲や都市爲政者の活動慾の滿足と云ふが如き、他の動機に出でたる事に基くものであつて、斯かる行動の効果は、恰かも未だ自覺せざる勞働者の勞働運動と同樣に、其事の理想上の目的から觀て、徒勞に屬する所少からぬ。此事は歐洲大陸や米國の壯麗なる大都市を訪ぬる、多少心ある視察者の容易に認め得る所である。

我國に於ても、大正八年三月に都市計畫法案及び市街地建築物法案が議會に提出せられ、殆んど何等の議論なしに原案通り、忽ち兩院を通過して、四月に公布せられ、都市計畫法は翌九年一月一日から、市街地建築物法は同十二月一日から施行せらるゝことゝなつた。社會政策上深甚なる意義を有し且つ個人及び社會の各方面に重大なる影響を有すべき此の如き大法律が、斯く迅速容易に制定發布を觀たのは殆んど立法上の奇蹟であると稱せらるゝのも無理ではない。是れ一つは我國の都市計畫法の發生は必ずしも此時から突發したものではなく、實は明治二十一年以來行はれた東京市區改正條例を淵源としたるものであつて、社會は既に長い間市區改正等の事業には此の如き法律の必要なる事を覺認した爲めであり、又一つは、我國の都市膨脹の現狀が歐米先進諸國に於けると同一轍の弊害に陷りつゝあるに當り、

殊に大戰後我國の地位は大に向上したにも拘らず、先進諸國に於ける都市政策の發展顯著なるものあるに比し、之に對する我國の無政策は餘り甚だしき對照をなせる事を感知したるが爲めでもあろうが、又他方には、我國の個人及び社會は未だ眞に住居問題の眞意義を覺知せざるに因る所も少からぬと思はるゝのである。我都市計畫法に於て都市計畫とは交通、衛生、保安、經濟等に關し永久に公共の安寧を維持し又は福利を增進する爲めの重要施設の計畫であつて、市の區域內又は其の區域外に亘つて施行すべきものを謂ふ(同法第一條)のであつて、其の所謂永久に公共の安寧を維持し又は福利を增進する爲めの重要施設とは、要するに市民の環境改良の爲め重要なる施設を意味するものであつて、環境改良の爲め最も重要なる施設は、先づ以て住家改善の施設でなくてはならぬ。而して住家改善の施設は、先づ以て住家の品質の改善及び其の供給の豐富を計るを以て根本とするのである。故に都市計畫法に於て市民の環境改良の爲め重要なる施設に關し規定せんとする以上は、同法の中に、又は同法は住家に關しては只其の配置に關する方面から觀た一般的規定を主とするものとするならば此場合には同法と必ず同伴すべき他の法律を以て、住家の品質改善及び數量供給に關する有效なる規定を設けなければならぬ。而かも都市計畫法には唯だ都市計畫區域內に於ける土地に就て其の宅地としての利用を增進する爲め、土地區劃整理を施行することを許し(同法第十二條)土地區劃整理の爲め又は衛生上若くは保安上の必要に依る建築物の整理の爲め必要あるときは建築物其他の工作物を收用することを許す(同法第七條)ことを定め居るのみであるから、住家の改善等に關する實體的規定は、必ずや市街地建築物法か又は其他の法律に於て設けられなくてはならぬ。然るに市街地建築物法に於ては其の規定は主に新たに建築さるべき建物の取締に關するものであつて、既存住家の改善に關係あるものとしては只、行政官廳は或建築物を保安上危險と認むるとき又は衛生上有害と認むるとき、又は本法若くは本法に基きて發する命令に違反して建築したる建築物に對し、其の除却、改善、修繕、使用禁止、使用停止又は其他の必要なる措置を命ずることを得る旨を規定

しあるのみである。新たなる住家の建築に關して周到なる規準を定め將來の住家の改善を計る事は住家改善上甚だ必要なること勿論ではあるが、其れよりも更に緊要なる事は、劣惡なる狀態にある既存住家の改善である。蓋し住家は永年間存續する所の永續的消費物であつて、若し其の劣惡狀態の存積を許すときは永き間繼續して年と共に劣惡の度を增し、益々一般の住居改良を困難ならしむるばかりではなく、新築住家も亦年月の經過と共に舊設の既存住家となり、終には强制的改修の必要に陷ることあるべき運命を有するものである。然るに我建築物法に於ては、新築住家の取締を主となし、既存住家の改善に關しては、僅かに上述の如き規定あるのみで、而かも地方團體は、此規定に依て與へられたる權能を行使して積極的に劣惡住家改善の爲め之が除却、改築、修繕、使用禁止又は使用停止等を命ずるの義務を負ふものではなく、又何人も地方團體の斯かる權能の勵行を命ずべき積極的責任を負ふ者はない。而して都市計畫法及び市街地建築物法以外には此等の事を規定せる他の法律は一つも無いのである。要するに我法制は夫の英國の住居法が住家改善の爲め地方團體及び上級官廳に對し强大なる權能を與ふるのみならず之が實行を期する爲め多大なる積極的義務を負はしむるに比すれば、其の住居政策上の態度に著しき差異あるを見るのであつて、是れ畢竟、我社會の理想上の進步が未だ住居問題の心髓に觸れ能はざる所あるが爲めであり、隨て未だ之に伴ふ實際上の難問題に觸るに至らぬか、又は之に觸るゝことを避けたるが爲めと觀ることを得べく、而して是れ亦我都市計畫法及び市街地建築物法の制定を奇蹟的に容易ならしめたる一因と觀ることを得べきであろう。而かも此の如く未だ困難なる根本的重要點に觸れざる都市計畫の遂行は、兎角、單に都市の皮相的外觀の修飾を以て目的と爲したるかの如き結果に陷り易いのであつて、勿論之が爲に市民の比較的間接の環境改善の効果は大にありとしても、其の健康や品性に最も緊密の影響ある直接の環境をして却て益々劣惡ならしめ、之が頽敗を奬勵するに至り易きことを注意せなければならぬ。例へば、此種の都市計畫があまり勵行さらるゝときは、益々住家の缺乏を促し、新法

に依る優良なる新築住家も亦住民過集の爲に忽ち腐敗せらるゝに至り、又は善良なる家庭生活の自然的要求と逆行する所の不自然有害なる蜂窩住宅の簇生を餘儀なからしむるに至るが如き、是れである。

住居問題に關する社會の覺醒の不充分なるは、畢竟之に關する各個人の自覺の足らざるに因る。今日我國に於て人々の叫ぶ所謂住宅難は、單に住家の數量の不足を訴ふるものであつて、其の品質の如何は深く省みぬのである。是れ其の數量不足の甚だ急なる爲め品質を問ふの遑なきが爲めではなく、假令數量は豐富であり家賃は安くあつても、人々の住宅の品質を批判する標準は甚だ低く、其の住家に關する欲望は、劣等なる設備に依て容易に滿足せらるゝのである。之を中流階級一般の人々に就て見るも、住居の爲に費し得べき資力は、常に衣食の欲望の爲に犧牲とせられ易い。住居費の支拂能力は、國民の所得問題、人口問題、及び物價問題等と密接の關係があつて、複雜なる研究を要するは勿論であるが、人々が著しく衣食を重んじ住居を輕んずるのは、我國の現狀では其の支拂能力の消長如何に拘はらぬのであつて、即ち概して言へば、衣食の急要に追はるゝが爲と云ふよりも、寧ろ住居欲が衣食の欲望に比し著しく低いが爲めであると云ひ得べき傾向がある。例へば我國の中流階級又は智識階級に屬する人々でも、家族の全員が毎日必ず使用する所の便所及び洗面所の設備の改良をすら、眞に要求しつゝある者は甚だ稀である。況んや勞働者階級に於ては斯かる要求は殆んど皆無と云ふも差支ない。英國に於て人類の住居に適せざるものと認められて閉鎖命令や取毀命令を受けつゝある所の住家を實見した人々は、我國の中流及び下流階級の住家の殆んど大部分は、皆之に該當すべき程度にある事を知るであろう。

住居問題は、人類の最も主要なる物的環境を改善して個人及び社會の理想の進步を助け、以て人類の進步社會の改良を促さんとするものであつて、最も進步したる重要なる社會問題であるが而かも住居問題は他の社會問題と同じく、理想の進步と相互的因果關係を有し、理想が相當の進步を遂げたる後に於て始めて眞實に存立發展するものであるから、未だ理想の進步十分ならざる社會に於ては、其の急速な

る眞實の發達を望むことは無理であつて、寧ろ此問題存立の階梯として其の端緒を得たる事を喜び、之か助成指導に努むべきである。而して之が助成指導は、主として先覺識者の社會的責任であることは、夫の勞働問題の現狀に於けると同樣であり、又此問題が眞に存立したる場合に、之が解決に關して特に經濟學者の研究に待つ所甚だ多き事も亦之と同樣である。

□秋□

水底に青
砥が錢や　けさの秋

住宅建築に對する希望

工學博士　武田五一

夏になるといつも考へさせられる事は、我邦の濕潤なる氣候に對して日本式住宅は如何にもよく適したる家である、と云ふことであること、廣い軒の間と庇とを有して居る書院作り、又は幾間かの襖障子を取り拂ひたる奥座敷から、燒き付くやうな外光と、張り切つた猛烈な勢で生長する草木を見たときの心地、露地の繁みを透して打水したる庭を、茶室の窓より眺めたる味ひは、到底他の國々の建築では味ふことは出來ない妙味を持て居る。日本の夏の氣候に最も適したる建築は、如何に考へても、日本建築である、と云はなくてはならない。冬の季でも、我邦の寒さなら多少防寒的に出來て居る北國又は高山地方の建築で充分凌ぐことが出來る。

しかし、日本家屋は構造上から見て、木造の樣式であり、總てが開放的で、火災、震災、水災、盜災に對して、甚だ心細く建築である、と云ふことは誰れでも異議はない筈である。城堡建築の如きものであれば、多少水、火、震災に對抗することが出來るが、まだ充分安心する程度のものではない。畢竟一時的の仮設構造に過ぎないものである。

日本家屋のかくの如き不安なる構造なるが爲に、今日まで、有形無形の内に我國民の受ける損害は、非常のものである。

毎年水、火、震災に因て喪はるゝ財産は億を超え、其れに因て傷けられる人命は、數百を下らず。加之災害に對して、家屋絶對の信用なきを以て、日常の生活に常に不安を伴ひ、人心自ら財産生命に關して

一種の無常觀を懷くに至る。家屋、財産と云ふ考へも、歐米人に比較すると、其永久性がない。之等は其原因とする所は家屋の構造が木造本位であるからである。

我邦の築建は、何故に木造本位であるかと云ふことは、我邦の地質が森林もに富で居て、木材産出の豊富である、と普通は云ふて居るが、それだけの原因では一寸解釋が付き悪い。木造本位であると云ふことは、結局、構造が木造構造以上に研究されなくて、鐵材、石材又はコンクリート等の構造まで進んで居なかつたからである。かくして建築の主要なる材料が木材である關係上、殖林に努め、木材の蓄積が今日の如くなつたのであらふう。斯く考へて來ると、木造建築の必ずしも、我邦に適して居ると云ふ理由もなく、今後に於て、吾人は、餘り木材に執着するの必要はないと思はれる。

木材の構造に執着することは、天災に對して吾人が屈從することゝなるのであつて、文化生活を高唱する現代人には堪へ難き苦痛である。科學の進歩は到底木造本位の住宅を滿足さしては置かないであらう。若し、住宅の構造が木造本位を去つて耐火耐震材料本位となれば從來吾人が親しみ來り、數百年來何の不滿もなく、寧ろ滿足して住居し來た日本建築、即ち我邦の氣候を最もよく凌がして呉れる解放的な日本流の住宅は自ら其形を變化せねばならぬ。其形の變化とは、如何なる形となるであらうか。之れは構造の問題でなくて、意匠の問題である。而も最も吾人に利益關係の深い問題であるが、まだ充分なる解釋を得て居らぬ。加州の晩霞樓はこの問題に對して一道の光明を與へて呉れる。晩霞樓の二階造りとなつて居るものは、加州ではジャパネスク型と呼ばれて居て、大に我國の住宅建築からヒントを得て居る、と傳へられて居る。パサデナサンヂエゴ邊の小丘の岩の上に建て居る住宅は、其瀟洒なる姿、天然の背景と融合して居る點に於て、大に日本建築の趣がある。其勾配の緩なる庇の異狀に突出した屋根、及突飛的に大なる逼平なる窓、及階上階下の勾欄の形などは、今一と變化を與ふれば、耐火、耐震材料こそ、日本建築の特徴を帶びさせる可能性を吾人に敎へて呉れて居る、亞米利加まだ行て見なくとも、

現に東京の帝國ホテルの新館も、亦石材及コンクリートで日本建築の眞髓を表現し得ることを充分に語つて居る。

建築意匠家は、徒に外來の型のみを摸倣せずにせめては住宅建築だけでも、何とか日本特獨の形を考へ出すことは出來ないものか。

京阪地方の郊外新住宅地には、日增に新住宅を增して行くがどうも、外國殖民地の樣な家しか見當らない。尖つた庇のない屋根、時とすると舶來そつくりのドーマー窓、遠方から見て居ると怎うしても、日本の國のものとは見えないものが多い。小粒でも辛い山椒のやうに、どこか嚠ツと言はせる所が一ケ所づゝでもあるやうな住宅を考へてもらひたいものである。

東京の平和博の文化村では、自分は全く失望した。何れを見ても西洋の拙なる眞似であつて、日本人でなくては出來ないと云ふ點は、どれにもなかつた。唯疊の敷いてある室がある位のもので、これとても病院の病室程度以上の工夫はして居なかつた。住宅の作業室の重なる部分である所の臺所、浴室、便所等の設備に至つては、全く論外である。若し建築家は明き家を建てるばかりの役目なら、其れでもよからうが住ひ得る住宅Habitable dwellingで設計するのが建築家の任務であるとすれば、文化村の建築家には甚だ遺憾の點が多かつたと思ふ。

耐火、耐震材料を以て住宅を作るとなれば、一層細心の注意を以て計畫をしないと、日本人としては住ひかねる家が出來上ることを覺悟しなくてはならない。強い日光を避け風通しのよい、稍や解放的でしかも防盜の工夫を充分に爲し、耐火耐震構造で、日本家の好もしき點を充分に具備する住宅の工夫を望んで居る。

自分は又住宅として、塀がなくても、門がなくてもよい建築の一日も早く出來ることを希望する。

日本住宅では如何にしても、門と塀は不可分なものである。如何に小なる貸家でも貧弱ながら、門と塀

が付いて居る。少々家らしい家になると住宅建築費の一割以上は、塀と門にかゝつてしまふ。それを全國として計算して見ると、恐らく數十億圓の上に出づるであらう。若し此の費用を以て住宅建築費に加ふるとすれば其改良は易々たるものであらふ。しかも門と塀との利益はよく考へて見ると、何もない。唯習慣の惰性がそれを作ることを餘儀なくさせて居るに過ぎない。塀がなくとも、他人の宅地に無斷に立入ることは出來ない。強てうろついて居れば巡査に引き渡してもよいわけである。塀があれば盜賊には却つてよい隱れ場所を通行人環視の内から與へることゝなる。それで家屋と異り、破損もし易く其修繕費だけでもなか〳〵容易ならぬ經費である。現在の住宅の形を少しく工夫すれば其の無益有害なる門塀から、吾人の解放されることは大して六づかしいことでもあるまいと思ふ。全く門塀は封建制度の遺物である。文化生活を唱ふる現代人はもはやチヨン髷と共に振りすてゝもよいものであらふ。門塀がなかつたならば住宅町は廣々として、小公園の如き體裁を具へて來ることは外國の例を見ても判ることである。左右高塀で、溝の内を通行するやふな日本現今の住宅町よりはこればけ市街美を增すか知れない。郊外住宅では多少斯の傾向ば見えて來るが市街の住宅町にも之れが行はれて來ることを希望する。此秋には日本建築協會で、住宅改造博覽會を催されると云ふが、吾人の此の如き希望に添ふやふなものが出來て呉れるよふに眞心から希ふて居る。

〔秋〕　今朝秋と知らで門掃く男かな

住宅改造と暖房設備

建築士　小笠原　鈅

數年來頻りと絶叫せられたる住宅改造も愈機運が熟しまして各所に實地に試みられる樣になりました。其公的施設としては本春平和博に文化村を出現して一般の耳目を聳動せしめ今又本秋を期して我日本建築協會は箕面櫻ヶ丘に住宅改造博覽會を開催し其實物模型として實際的の建築をなし直に之に住居し得らるゝ樣に萬般の設備を施して一般の觀覽に供し且所望者には之を直に賣却せんとする極めて徹底的の行爲をなさんとして居ります。

幸に一般識者の贊同を得て着々其準備進行し本月末に至れば所謂理想的の現代中流住宅の代表的街區を出現する事で御座いませう。

我邦に於ける此過渡期の住宅改造は如何なる方法に據るべきか已に識者に於て十分研究せられ其結果が目今各所に實地に施行せられて居りますから大體に其具體案を知る事が出來ますが今之を列擧して見ますれば

一、先以て構造は木造建築の二階建てにし延坪三十五坪前後のものを以て現代的中流住宅とし、專ら簡易生活に適するものとせられ、其外觀は大體西洋舘形になすものゝ樣です。

二、間取は應接書齋客室等は全然椅子式とし、居間食堂等は半ば椅子式半ば居座式として、之等は大體第一階に配置し、寢室は之を二階に置きて大部分疊敷になすものとすれども、中には寢臺を用ゆる向もある樣です。

三、便所は洗滌式を使用せんとするも公設大下水の不完全なるが爲矢張り汲取式になし居るも、此點に就ては種々苦心して大正便所又は城口式簡易淨化法等を採用する向も大部分ある樣です。

四、暖房設備に至りましては只今の處先づ電氣か瓦斯位を使用する事にして居るのが普通の樣で御座います。

抑も住宅を改造して現代的生活に適應せしめ居座式を改めて椅子式の室に致します事は最も必要な事でありますが、冬期にありましては居座式は置慣上幾分寒氣を我慢し得るも椅子式としては暖房設備なしでは到底居住し得られません。此故に住宅改造は之と同時に其暖房設備を十分に研究しなければならぬ事と思ひます。

在來の日本家屋は『オープン』が非常に多く、且建具も殆んど皆抽違構造で隙間が多く、天井の如きも兎角隙間を生じ易き、爲到底かゝる隙間の多き構造の室内には暖房設備を施す事も出來ませんでしたが、前記の如く漸次改造せられて紙張障子は硝子に代り、天井の如きも漆喰塗等に改められるゝ爲、暖房設備は大層施設し易くなりました。

就ては如何なる暖房設備が之等改良住宅に適切なるか此上更に進んで研究せなければなりませんが、今回博覽會に出品せらるゝ住宅では壁付煉瓦造石炭暖爐の外電氣蒸氣温水『ベチカ』熱氣暖房を設備せられまして、色々比較的研究に供せられて居りますが、之等は何れも暖房設備としては十分なる理想的の方法で、此の如き設備がありますれば無論椅子式の生活をなし得ますが、蒸氣や温水の如き能率の十分にあるものは矢張相當の高價な建設費を要しまして、成るべく安價に構造せんとする建物の程度に比較しては少しく贅澤に陷いる樣にも忠はれますから、今少しく簡易なる暖房設備がないでしうか之を實際的に研究する事が更に必要でないでしうか。

丁度便所の設備が洗滌式にするには餘り多くの設備費(單獨に淨化裝置をすれば相當高くなります)を

要しまするど同樣に、暖房設備も徹底的によきものを設備するには相當金がかゝる。さりとて椅子式では火鉢位の暖房法では到底だめである。今少しく進歩したそして餘り高價ならざる所謂容易になし得る方法がないでしようか。

只私が考へて居る事を申上まして、諸彦の御敎示を乞ひたいと思ひます。

申すまでもない事ですが現在の儘で椅子式の室に用ゆる方法は、

一、矢張火鉢に適當なる『ジョタン』を冠せ、其金屬面積より放熱せしむる事。

現今各所に賣りつゝある圓筒櫃形湯沸付暖房の如きもの、又は石油暖爐等の樣なものですが、之等は總て顚覆等の危險あり、且又室內の換氣を十分に致しませぬと瓦斯發生甚敷換氣をよくすれば暖房の効能十分ならず、到底之等を推奬する事は出來ません。

二、矢張一番安くて暖房の効力十分あるものは石炭の置『ストーブ』で、鐵筒の煙出しあるものですが之も危險が伴ひます。

三、壁付煉瓦造煖爐は最も安全で築造費も廉價ですが能率が少ないです。

四、次には電氣反射爐又は瓦斯暖爐ですが先以て之等が一番簡便で目下の椅子式に適するもので御座いませうか。乍併瓦斯は土地に依り供給が不自由ですし、電氣は相當に消費量が多い樣です。

五、『ペチカ』は二室乃至三室に共通し築造費も蒸氣や溫水工事に比すれば非常に安く、殊に最近賣出しました宮崎式ペチカなどは割合に簡單安價の樣に思はれます。

六、近頃米國あたりで實施せられ、非常に好成績を擧げて居りますそうですが『スチームサプライ』と云ふ方法が至極理想的の好方法であります樣ですが、之等は住宅の集團地等でなければ一寸實行が六ヶ敷く、今直に之を我改造住宅に適用する事は不可能かと思ひます。

故に私は家屋の根積煉瓦壁を應用して朝鮮の『ヲンドル』式のものを何か適當に工夫したらどうかと思ひ

ます。今一つは石炭の置『ストーブ』を利用して一定の場所、即臺所か地下室に固定せしめ、鐵筒煙道を眞鍮又は銅板で造りまして之を室内の床上の隅か又は内法鴨居の上などに露出して固着せしめる樣に、何か改良する方法はないでしようか。之等につき今後大に研究する事が矢張改良住宅を廣く實施する上に於て、極めて必要でないかと信じます、何卒諸彦の御教示を願ひます。

秋

闇となりて

猶面白き星の空

予の住宅觀

代議士　紫安新九郎

一　住居權と機會均等

蒼空に變通無碍の飛翔する禽鳥は、無邊の境空こそ被れの住居である。地に匍ふものには、王公の金殿裡も、曠野の草叢も、街衢の中も、往くとして、彼れが住居の境地ならざるはない。禽鳥の翼裡にも昆虫の纖脚にも、走獸の嗅覺にも、彼れが爲に、住居の機會は常に均等に收められてある。『狐に穴あり空の鳥に巢あり』況して、人の子に家なかるべからずである。住居權は、之を形而上的に又自然法的に觀て、生物通有の德道的權利である。而して、人生問題の發祥たる我等現實生活そのものに基底を與ふのは、實に、住居そのものであり、斯くして、人生問題は、斯の上に建築されるべきである。されば、人生に於ける生活を否定せない限り、我等の住居は、當然、一つの權利——然り生活保障の一權利として承認されなければならぬ筈である。

何れの邦に於ける立法も、生活保障の權利として住居權なるものを認めざる處はない。『住居權承認』なる體樣より觀れば、吾人の住居の選擇、住居の事實、乃至は、住居の移轉等、其處に、資本階級（ブルヂョア）もなければ、無產階級（プロレタリヤード）もなく、等しく『人』として——平等價値ある『人』として、法は常に住居權を保障してゐる。然り、寔に、住居權は平等である。

けれども、住居權そのもの即ち住居權の體は、斯く平等なる立法を有つてゐるに反して、住居權の用たる處の、住居の選擇、住居の獲得、及び住居の移轉等に關して要求を充たすべき機會そのもの、——

換言すれば、住居權を自由に好適に行使し得べき機會を、何人の前にも、殊に、中產階級以下の前に、決して均等に置かれてゐない事實は、如今の所謂住宅難——就中過當な家賃と雖も容易に獲られない意味に於ける住宅難そのものが雄辯に之を證明してゐる。

現代の所謂社會問題は、往昔、佛蘭西革命が產める處の、所謂平等權の承認問題にあらずして、實は生活の前に供せられある『法的保障』の滋養或は『法的個人價値保障』の意味に、手を附けむとして附け得ざる斯の機會不均等を匡正せよ、といふにある。而して、住居權が實質的に空位と虛名に畢る現代の住宅難の解決こそ、當にその一つにして、何人でも容易に而も好適に住居權の行使と充實を爲し得る機會を、凡ての人の前に均等に置かなければならぬ。維れ、現代人の生活に於ける痛要な叫びである。

斯の事實は、殊に歐洲戰後に於て、心ある識者が、社會問題を提げて、相當に力ある叫びを擧げつゝあるにも拘はらず、それ等の叫びが、殆むど住宅問題に觸れてゐないのは、一體怎うした事であらうか。勿論、所謂社會問題なる抽象的名辭の裡には、人生々活と交涉ある事實の多種多態にして而も多分な量を含有してゐる、と同時に、孰れとして、人生の福祉的問題にあらざるなき重要さを有つてゐる。けれども、住宅問題の如きは、今や一種の社會問題たる實質と重要なる位地を有ち來りしことの、單り日本許りでなく、殆むど世界の都市を通じての事實である。人生凡ゆる問題の發祥場所であり、生活安定の基底たる關係に在る如今の住宅問題は、多くの社會問題に向つて對案を攻究すべき前提的關係を有するものと謂つて可い。

殊に、現下の住宅問題は、千金敢て吝まず、萬金必ずしも重からざる底な階級に於ける問題でない。實に、社會の中堅であり、社會組織の多衆分子たる中產以下の問題である。即ち我國家を組織する少數者の利害問題でなくして、寔に以て、我國社會を動し得べき多衆者の休戚的案件である。吾人は如今唱へられある處の、所謂社會改造なるもの、理論が如何にもあれ、社會改良政策が何んであるにもしろ、

斯の民衆多數の生活を脅す住宅問題の如きは、實に、社會改造若くは社會改良の基本的問題であるが故に、國家として、若くは地方團體として、將た政黨として、最も暢達的に眞面目なる研究を要する。

二　生活改善の一策

這回、我政府は、物價引下げの策案を決して發表せる中、國有林の材木及び薪炭を、便利なる方法の下に、廉價を以て供給すべきやに傳へらる。吾人は、政府の斯る折角な策案に、百尺竿頭一歩を進めて斯の事實を住宅問題の方に今一入振り向けて貰ひ度い。扨は、上述の住居生活に安定を得せしめ、住居權行使の機會均等を實際に遺憾なきを期するには、現に行はるゝ建築立法を外にして、賃貸家屋建築を保健、保安、乃至は美觀の方面より立法的干渉を爲すの要あると同時に、他面には、住宅建築費の低下を圖り、斯の場合、國有林材を低價に便宜に供給するの途を啓くに在る。現行『住宅組合法』の如き、住宅問題解決の一過程たるには相違ないが、その實効は、世人の識れる如く寔に遺憾な狀態にる在。寧ろ、之と併有して、或條件と統規の下に、住宅建築に對する建築費の補償的方法を設へ、國有林材を特殊な低價と方法にて給與するが如きも、その一つであり度い。又は、保安と建築費低下の關係上、鐵筋混凝土建築の如き、木造建築よりも有利なりと稱へられる今に於て、その研究を爲し、扨が建築材料の供給に特殊な方法を攻究するも亦必要である。

その他、地方自治團體に建築局の如きものを設けて、常に、建築上の積極的福利政策を攻究せしめ、就中、上述建築材料及工費の研究、或は、先づ五千圓以下位なる建築費を標準として、幾種な建築設計を備へ、中産以下住民を安目とする住宅建築に關しての凡ゆる相談相手たらしめ、又は進むで有利な設計を發表して對住宅建築資を誘發する如き、尚ほ幾多な方案の存すべきとは贅言するまでもない。

けれども、斯る施設は、由來、政府又は地方團體の行政的事項に屬すべきものにあらず、との議論あ

るかも知れない。併し、民衆福利の問題は、決して、政治學そのものではない。行政法規あつて、民衆生活があるのではない。民衆は政治の目的と謂ふよりも、政治は民衆の目的と謂つた方が合理である。行政法規が民衆の生活を規定する、といふよりも、寧ろ民衆の生活こそ行政法規を創定するのだ、と謂ふべきである。前者は、國民を以て玉公の所有物と看做す時代の觀念である。後者は、實に、民衆の利害こそ政治を規定し行政を產む、といふ觀念に基く現代立憲政の要諦である。云ひ換ゆれば、民衆凡ての——少くともその多衆の生活に出發する政治でなければならぬ。故に、民衆多數の生活に觸れざる政治は、眞の意味に於ける政治でなく、又は實に、爲政者の政治の爲の政治、權力の爲の權力行使、少數者の爲の政治的遊戲に過ぎない。蓋し、民衆を賊ひ、國家を毒するもの是れより大なるものはない。されば、多數民衆の休戚問題なる敘上住宅建築を中心とせる施設をして、地方團體又は政府の爲すべきものならすとせば、須らく政治の要諦に突き入つて、斷乎法規の改廢を爲せば可いではないか。然らざれば民衆の生活は法規の從なる患に陷れるもの、といふの外はない。

三　打ち開きたる構造

以上は、住宅改良に就いて予の卑見を概敘せるに外ならぬが、更らに予の所見を一轉して、此處には住宅構造の一部に就き考へてみたい。但し、予は、住宅の構造に關して特殊な趣味又は理想を有してゐないから、縱むば、その構造の一部を述ぶるにしても、建築學又は建築技術に觸れることは出來得ない、唯、此處に、從來の住宅建築に關して、多少社會問題と接觸を有つてゐる一事の氣付いたものがある。扨は、實に社會の上流階級に屬する人達、又は成金輩が、その邸宅を築くに、實生活と餘り痛要な交涉のない處の、所謂大厦高樓を以て宏壯環美を誇るのはまだしも、必ず周らすに、威嚇的な高塀を以てするの一事である。

如何にも、彼れ自身としては、種々な意義に於て或は當然な構造かも知れない。げれども、一歩彼れを距てたる社會そのものより觀れば、如何にも實世間と隔離し、實社會に背立してゐるかの感、恐らく心ある者の等しく禁し得ない處である。殊に高塀の上に、尖れる鐵筋を植へ、鋭く毒々しき硝子の破片を並列せる如きに到りては、熟く々々人間性の淺薄さと果敢なさを覺へしめる。

吾人は、必ずしも、門と塀の構造を無要視するのでなく、要は、外部即ち一歩相接せる實社會と全く隔離するが如き構造を非とするに在る。事聊か兒戯に類するの感なきに非るも、斯の隔離的事實の一挿話として、此處に誌すべき事がある。幷は、予の在京一友人の邦宅に隣りて、近時、成金某君の新邸が出來た、で多分に漏れずして、その宏壯なる邸宅を周らすに鐵筋混凝土の高塀を以てした、而して彼れが建築用材を運搬するに方り、幾度かそが搬車を件の友人邸へ衝觸せしめて、屢々多少な損傷を貽せるにも拘はらず、彼れはその事實を知るや識らずや、恬然顧みざるものゝ如きであつた。仍て件の友人某は、茲に一策を案じ、自家の書生をして、態とそが工事場の人達に聽ゆるが如く揚言せしめて曰く『今度俺れの隣地へ新邸を造つてゐる某は、何にか非常に悪い事を遣つた者と見へ、世間の人達に顔を見られるのを恥ぢてか、監獄にあるような高塀を拵へてゐるが、ほんとうに氣毒な人だ、と俺處の先生が云つてたッケ！』と、果せる哉、斯の策戰は圖に當り、某は夕惶として挨拶に來たとの事であつた。

斯るは、所詮、一笑話に過ぎざらむも、件の書生君の皮肉、亦以て、現代斯る建築の愚を嗤ふべき眞理の一發露である。惟ふに、日本式家屋の構造より、その著しき非文化的な缺點を指摘するならば、斯くの如き、監獄氣分の漂へる高塀を築くこと、確にその一つである。通路より行人の視界が住家を貫いて、臺所も奥の間も容易に透見し得るが如きは問題外なるも、可成り廣濶なる邸宅に、社會の眞中に生息して社會と隔離する如きは、生活の大なる矛盾である。蓋し、日本住宅建築の改むべき一主要事と觀て可からう。

予は、去る七日、片岡直温翁と共に、福島市に於ける縣民大會に出演せる折、同市に於ける一等旅館なりと云へる某所に投宿した。室は、眸下清流に枕み、遠く絲波打てる平野を收め、そが環境の風物、寔に心すがしきものがあつた。されど、斯の飽ぐなき快感も、軈ては、就寢に繰り締むる數十枚な雨戸の轆りに、こよなく掻き濁されて了つた。翁曰く『大層な雨戸だ、常に雨戸繰りの擔當者一人を要するであらう』と、勿論、一場の戯言に過ぎざりしが、日本式住宅の雨戸も、亦以て、改善方面に於ける住宅問題の一つであらねばならぬ。（文責在記者）

拾ひ上げて扇に
はさむ落穗哉

……秋……

喰ひかゝり殘すべ
からず唐辛子



江戸城の殿閣と大奥

工學博士　大熊喜邦

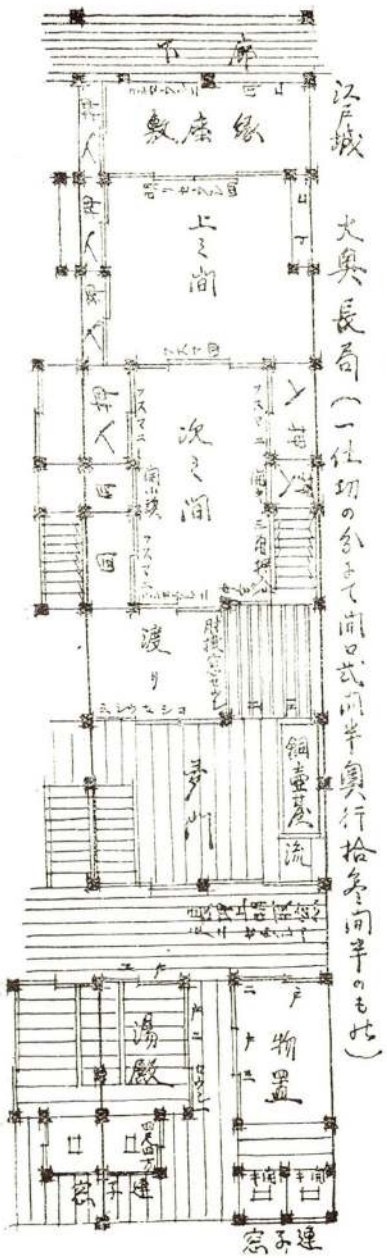
我國の住宅に關する建築文化の上から見れば桃山江戸兩期を通じて書院造を基本とした住宅建築の時代であつたことは言ふ迄もないが、其の桃山期は書院造の立面的大成時代で宏壯華麗な殿閣の出來た時期であると共に、江戸期は其の平面的熟成時で時を經るに從て因襲になづんだ趣味的時期となつてゐることは曾て自分が論じて置たところである。さてこの書院造を基本とした住宅の、その典型たるものは何であるかと言へば先づ伏見や聚樂の第を推さなければならぬが、それよりも更に平面的に整備した規模の大きな、明瞭に其の全般の窺はれるものは江戸城の殿閣である。而して江戸城の殿閣は三家三卿の第宅の見本となり、大きな大名の屋敷も亦これに則つて其の規模を縮少したものである。旗本屋敷に於てすら猶ほ其の一部に整備した書院造の俤があり名稱にも大書院、小書院、大納戸、小納戸、錠口、御鈴口などが用ひられてゐたのは明かに柳營の面影であると思ふ

されば茲に近世住宅史上に於て大なる位置にある典型的建物である江戸城殿閣に就て設計圖の數種を添へて其のアウトラインを述べやうと思ふが今は將軍の居館である本丸殿閣に筆を止める。西丸は本丸の縮小したるもの、二の丸三の丸は其の更に小規模のものと思へば差支ない。

一　江戸城廓の概要

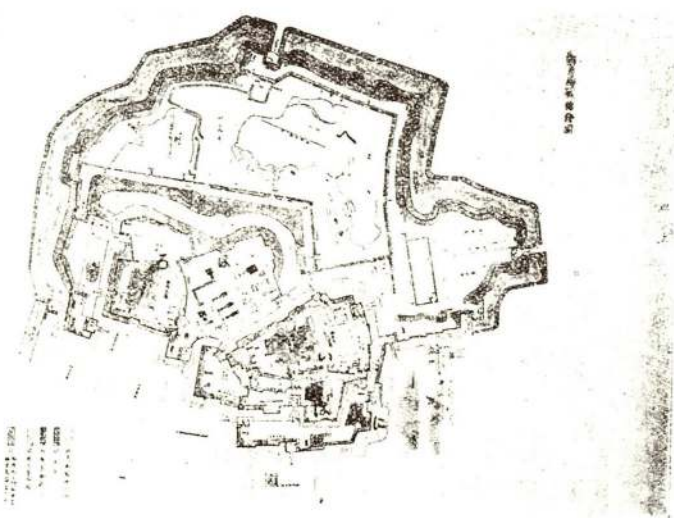
江戸城は本丸、西丸、及吹上林泉を主要部分とし、これに二の丸、三の丸、紅葉山併に田安門内舊北の丸を併せたるものを一廓とし、更に西丸下の一廓を加へ再び外廓を廻らした規模頗る宏大な城廓である。

本丸を將軍の居館に充て西丸を隱居とし二の丸は後世主として前將軍待女の居館に充てられて居つた。天正十八年八月朔日德川家康入城して其の居城となり、文祿二年西丸が創建された。家康將軍となつてから慶長九年江戸城增築の工を起して其十一年に本丸殿閣石壘と、二三の丸東北雉子橋か



ら西南溜池落口迄の外廓が出來上り、同十二年北側の廓、同十五年に西丸石壘を修築し引續て工事を督勵して寛永十三年外廓全部竣工となつて茲に城廓の規模全く整つたのである。本丸、西丸、二の丸、三の丸、紅葉山、吹上御庭併に代官所を併せた中心部の一廓の總面積は二十二萬二千百八十二坪で内吹上の御庭地が十萬八千三百九十八坪と數へられて居た。而して舊北の丸と三の丸とを連ねて名高い帶曲輪といふ兩方に濠を構へてゐる細長い壘堤がある。

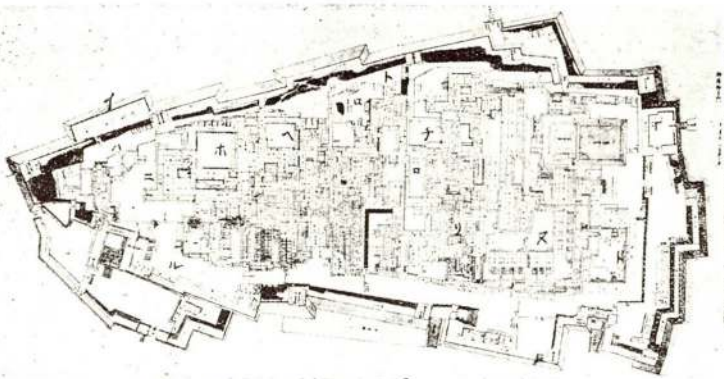
城門は外廓の御門と稱するものが廿五、内廓の御門といふもの十一、城内の諸門……時期によつて多少の增減はあるが……八十七。といふ驚く可き多數で、城橋は極く小さいものは別として外濠の分をも併せて約三十一橋を數へることが出來る又櫓多門の類では、大天守臺小天守臺が各一。三重櫓六、二重櫓が拾、單層の櫓が四、多門が約二十六箇所といふ數になる。城廓として規模の大きな丈けに城門、櫓、多門など建造物の數は頗る多かつたものである。



江戸御城惣繪圖（家藏）

江戸城内廓の總繪圖で本丸、西丸、吹上林泉、井に二三の丸の舊觀を窺ふに足るものである。圖中い、本丸、ろ、西丸、は、二の丸、ほ、三の丸、へ、吹上林泉である。

江戸城本丸表奥惣繪圖（〇家藏）



圖中　イ金藏、ロ耐震構造にした地震の間、ハ能舞臺、ニ大廣間、ホ白書院、ヘ黒書院、ト休息間、チ大奥表御殿、リ廣敷向、ヌ長局

明暦大火後萬治二年造營したる本丸殿舍の惣繪圖で長局其他に多少の消長はあるが改築の都度この通りに建築されたものである。

二　江戸城内の建物

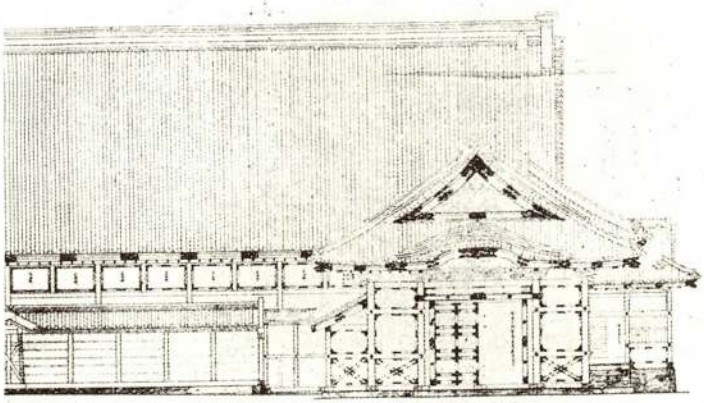
櫓、多門等を除いて城内にあつた殿舍其他これに附屬する建物の數はまた頗る多かつたもので、一々其名稱を擧げる手數を省略して其の中の重なるものに就て記せば本丸殿舍、西丸殿舍、二の丸及三の丸殿舍、能舞臺、紅葉山に於ける東照宮を初め各代の靈廟、各所の番所併に腰掛、御厩、下勘定所、御春屋、御壘小屋、御茶屋、數寄屋の類で寶藏は本丸表能舞臺の西の方、金藏は内櫻門から濠を距て、西側富士見三重といふ櫓の下の方に在つた。この外小さい建物は數へ盡せない程であるが珍らしいものでは或時期に地震御殿が建てられてゐた。然しこの數ある建物の中で將軍の居館である江戸城の殿閣としては、本丸の殿舍が最も注目に價するものでこれに次ぐものは西丸殿舍である。二の丸三の丸の殿舍は西丸のそれの規摸を大ぶんに縮め、程度を數段下げたものと思へば誤はない。以下これ等の殿舍について述べる事にしよう。

三、殿舍の經歷

天正十八年に徳川家康が入城した時は其以前長祿元年四月八日創建された本丸の在來の殿舍を以て假の殿舍とされた。勿論粗末な御殿で其玄關などは船板を以て張つてあつたと云ひ傳へられて居る。其後江戸城下の經營が畧ぼ目鼻がつく樣になつてから文祿三年に西丸を創建して其殿舍を建て慶長十一年には本丸殿舍の造營初めて成り、寛永十三年には二の丸、寛永廿年には三の丸殿舍の造營が出來上つた。こゝに江戸城の殿舍は豐臣時代併に德川時代初期に大成した住宅の形式である書院造りで、而かも其典型ともいふべきものであるが其の正殿ともいふべき表向の晴れの御殿は、鎌倉武家の家作に則つたと傳へられてゐる。

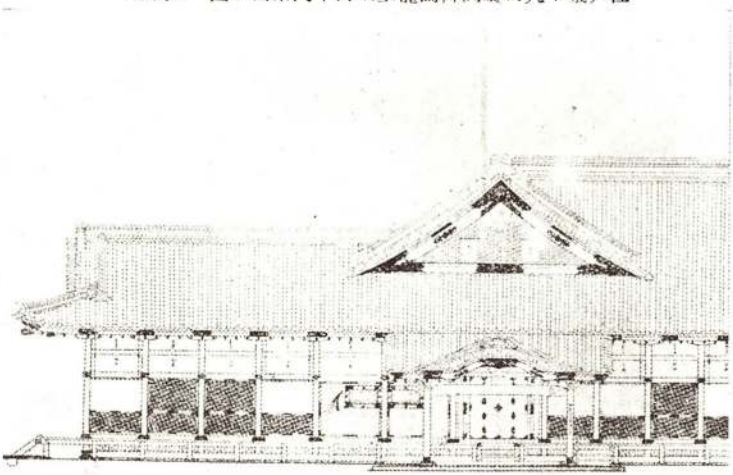
明曆酉の年、江戸城回祿せしかども、酒井空印なと存命にて先格の如く城營作り出さる。凡此江戸城の古へ、慶長の初改め造らるゝ時には、鎌倉殿の差圖(設計圖)を以て殿營等は作らせらるゝ。其後公方と稱せらるゝより車寄殿上の間上壇御帳臺に總角懸らるゝなど室町殿の差圖を以て作り出さる。大廣間松の間等は伏見の御城

江戸城本丸玄關及遠侍南面の圖（家藏）



玄關は東西京間五間、遠侍は東西京間十六間屋根は銅の瓦葺で破風其他に金鍍金の金具が打てある

江戸城本丸大廣間御間鴛籠鴛籠羽及御中門東面の圖（家藏）



中門長さ五間、鴛籠臺二丈五寸で屋根其他遺侍同斷この部分に限り武家造の形式を存し瀝戸建である、圖中イは實見窓である

の格に作らるゝ實檢の窓盛久杜などは鎌倉の古風をも今以作改らず……（柳營秘鑑）

將軍家作事方大工棟梁の古老ともまうし傳て曰江戸城大廣間、御殿營作は常盤樣（ときはやう）とて鎌倉右大將家廣間の作樣なり……（大城應聞）

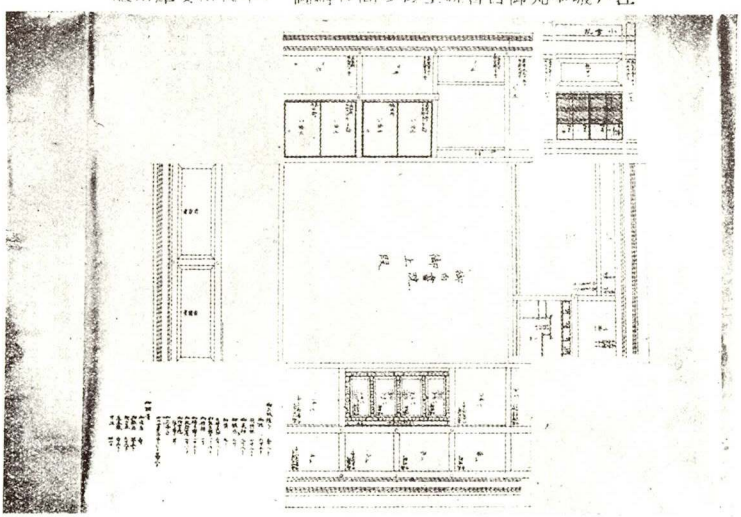
などは其の記事の一例である。江戸城殿舍の表面の形式が果してこの言ひ傳への通りであるか否かは直ちにこれを斷ずることは出來ないが、德川氏が源氏を以て起つた關係から特に鎌倉武家に執着を以て其の家作の形式……實は鎌倉時代の武家の家作でなくして、室町時代の武家家作の形式であるが……に據る方針であつたと考へる事も出來る。更に其當時に於て單に古い武家の家作に範を採る事にしたとも認められる。而してこの殿舍の造營に關與した棟梁は、何れも伏見城などの造營に預つたもの共であるから、伏見の城の格に作つたといふ事も強ちに否定されないと思ふ。何れにしても女關遠待、大廣間等が所謂鎌倉武家風に出來て居つた事は、其間取併に形式の點に於て夫れを認める事が出來る。然しながら綱吉公以來江戸

の柳營に萬事上方風を學んだ事と六代文昭院の岳父近衛公が新井白石と共に堂上の古實を關東へ殘らず移さんとした事とが、江戸城の殿舍にも或る影響を與へたことがある、城内の中間を韓聘の時四脚門に改められて落成の時『新造の門を中門と唱へ、今までの中門といひし御車寄を中門廊と唱へ、いまゝでの御駕籠臺を御車寄と唱ふべきよし仰下さる』と文昭院殿御實記に記されるのは、禁中諸親王攝家の風を學んだ實例で、新井白石などの建策の結果である。

然るに吉宗公將軍職を繼ぐや、直ちに其四脚門を徹して塀重門の舊制に復さしめた。

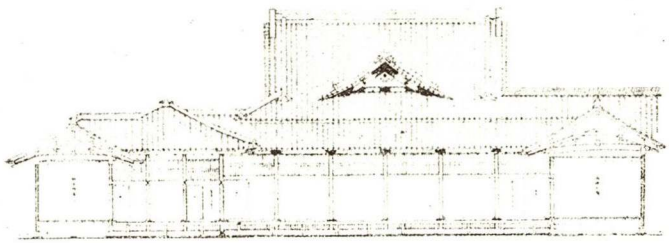
御先代文昭公には其御奢つよく、萬事上方風に被遊、禁裏雲上を學び給ひ、常憲公の御奢侈尤強かりしが、引續昭廟も近衛殿御聟君にて近衛殿江戸表へ御下向ありて、三ケ年御逗留、愛宕山の下にて御屋敷被下、公儀より御普請結構善美を盡して、爰に住居し給ひけり。されば近衛殿の御すゝめ、新井筑前守といへる儒者、文昭公へ御すゝめ參いらせ、堂上の古實を關東へ殘

江戸城本丸御白書院上段の間圖繪圖（千代田文庫所藏）



萬治造營の本丸白書院の内部を示す圖で、改築の都度常にこの形式を改めない。

江戸城本丸黒書院南面之圖（家藏）



東四九間、屋根其他は遠侍に同じである。左の松の溜りで竹の廊下を經て白書院に連なる。

らず移さんとて、新井上京致し、禁中公事の秘法を學來り、君をすゝめまいらせて、奥女中などゝも皆々禁裏の女官の如くし、節會の舞姫等まで出來、大典新典二局の局を立給ひき。そのうへ禁裏の不老門を學び四ツ足門を御玄關の脇へ立させ給ひけり。有章公にも其まゝさし置けれるを吉宗公天下の御讓位を請繼せ給ひて、未だ將軍宣下の勅使御下向無之御中陰なれども、是を忽ち破却可仕旨、被仰出たり。人々も暫く御見合候てもくるしかるましと申止め奉るといへども、御聞入不被遊、公祖の不義をば忽ちに改て一日も他人の謗りを除を以て孝とすべし、一刻遲くば一刻の恥なり、一日遲せば一日の天下の恥なりと上意にて、其まゝ御打こほさせ給ひぬること難有御操成ける。（享保明君錄）

といふ記事は能くこの時の樣子を語るものである而して實際に名稱も亦以前の通りに復舊したので其後の殿舍はいつも略ぼ寛永又は萬治の造營の規模に則つて造營される習慣となつて居つた。

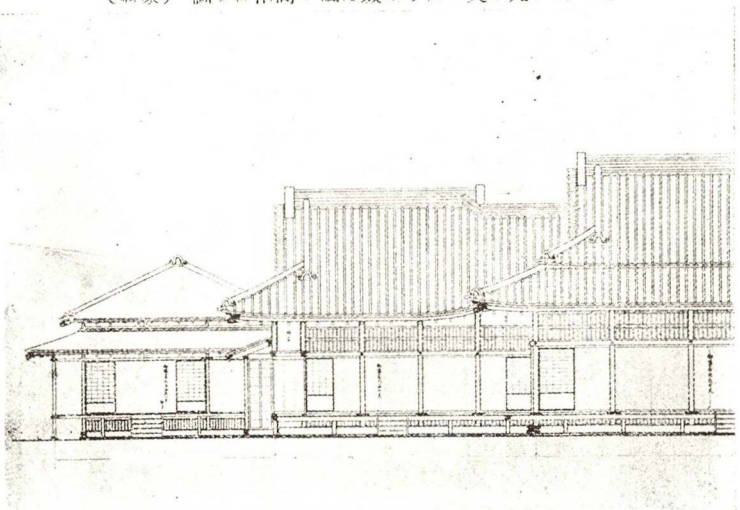
四、殿舍の造營

江戸城殿舎の造營は幕府時代を通じて一再にして止まらなかつた。本丸殿舎は慶長十一年の改造を初めとして元和元年寛永十四年の改造と寛永十七年、萬治二年、弘化二年、萬延元年の再築とがあつた。而して、寛永十六年、明暦三年、天保十五年、安政六年、文久三年に各火災の爲に燒亡した。即ち五回火災に遭ひ七回造營があつたわけで文久三年十一月十五日の火災後は遂に再築されなかつた。この間長祿元年四月八日の創建以來四百七年間である。

西丸殿舎は文祿創建の後寛永十一年、天保九年嘉永五年、文久三年、明治六年の五回の火災に逢ひ、寛永元年、同十三年、慶安三年、天保十年、嘉永五年、元治元年の七回に造營されて居る。文祿の創建から明治六年迄其間二百七十五年間、明治の初年一たび皇居に充てられたが遂に其の六年五月五日炎上した。後は舊江戸城殿舎の面影は遂に永遠に見られなくなつた。

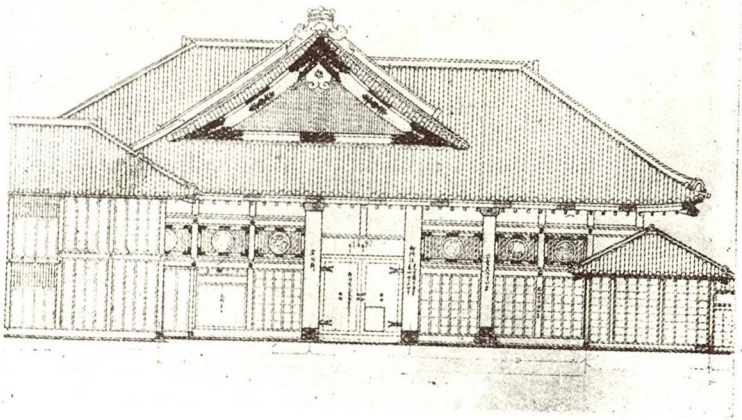
二の丸殿舎は寛永十三年の創建以來慶應三年十二月廿三日燒亡に至るまで二百三十二年に、五回

江戸城本丸中奥の御小座敷及楓の間南面の圖（家蔵）



中央の棟が御小座敷右は御休息、即ち將軍の晝間の居間で左は楓の間である。御小座敷は東西京間四間半である

江戸城本丸御表御臺所東面の圖　（家藏）



柱其の他總朱塗で欄間彫刻は極彩色、破風其他には金鍍金の金具を打ち、左は表小間使及小間使頭部屋、右は御庭方部屋である

の造營と四回の火災とに出會つて居る。三の丸殿舍は寛永廿年の造營を初めとして三回造營され、一回燒亡した。而して文久三年に撤廢されたといふ事である。

この樣な大規模の殿舍の度々の造營は如何なるものゝ手に依つて行はれたか、幕府の方針として作事方と小普請方の手によつて成就したもので、本丸西丸共に其の表御殿の方と表舞臺は作事方の受持、其の大奥の方は小普請方の領分であつた。而して作事方がいつも表立つた營作に從事して居つたのである。作事方大棟梁として手腕を振つて居つたのは初め甲良、平內の二家であつたが、後ちに辻內家が加はり、更に石丸家が加はつて四人となつた。造營の期間は常に十箇月を標準とし、其間にこの大規模の殿舍を竣成させる習慣となつて居た。さればこの期間の大棟梁の苦心は容易なものではなかつたといふ事である。

五、殿舍の模樣

江戸城の殿舍では、本丸の殿舍が規模最も宏壯で西丸は稍々これに劣り、二三の丸は更に格段の

差違がある。これは先にも述べた通りである。されば茲には本丸の殿舎がどんな風のものであつたかを説明しよう。

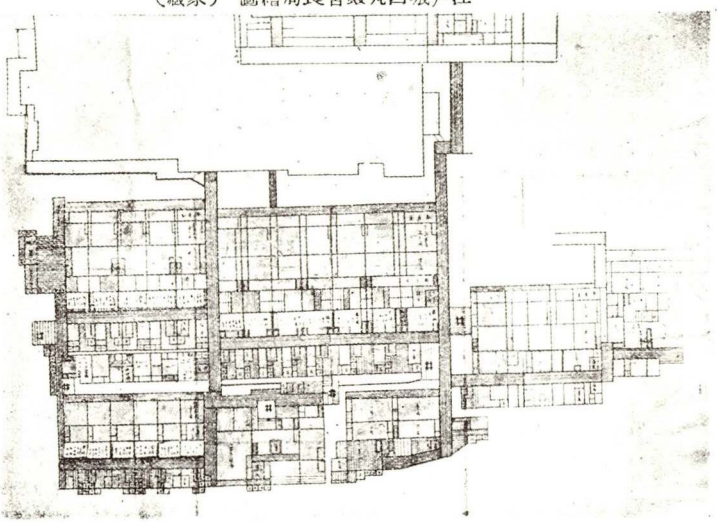
本丸殿舎は將軍の居館で表向と大奥向との二つに大きく區分され、この表向と大奥向とが明暦以前は一筋の廊下で、明暦後は二筋の廊下で連絡されて居る。表向と稱へて居る部分はまた表御殿向と中奥向とに區別され、大奥向は御殿向と廣敷向と長局とに大別されて造營の時期によつて多少の異同はあるが一般的に

『表御殿向』、玄關、遠待、虎之間、大廣間、柳の間、松の廊下、白書院、紅葉の間、菊の間、竹廊下、黒書院、羽目の間、蘇鐵の間、蹲蹌の間、桔梗の間、表臺所、諸役人詰所、老中以下詰所、表能舞臺等

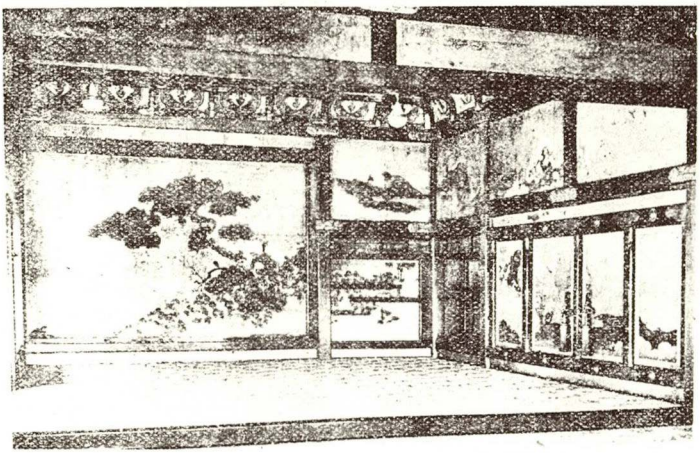
『中奥向』、休息所、小座敷、御座の間、楓の間梅の間、笹の間、膳立の間、側衆談部屋、能舞臺、臺所、小者詰所等

『大奥御殿向』、御小座敷、清之間、御座の間、御休息の間、對面所、客座敷、新座敷、壹の御

江戸城西丸殿舎長局圖繪圖（家藏）



最後の江戸城殿舎として幕末迄存在した、西丸大奥長局の平面で和宮附大奥女中の住居となつた處で、附箋は其の部屋の女中の名である。筆者の祖父が御用人頭在職中手扣にせる圖面である



京都二條城書院上段の間

慶長年間造營の二條城二の丸黒書院上段の間で整備したる書院の典型といふべきもの、江戸城大廣間、黒書院上段の間はこれと全く同じ形式のものである

殿、呉服の間、右筆の間、奥膳所、御廣座敷、御使座敷等

『廣敷向』、廣敷役人詰所其他廣敷附屬の座敷、長屋向等

『長局』、一の側乃至四の側長局、東長局等

以上の様な多數の座敷から成り立ち、それがまた各々數室宛に別れてゐるから、全體としては非常に多數の座敷を備へて居る事になる。而して總て御殿向の部分は平家建で、長局や役所向の部分に二階建がある。

表は大奥に對する表向の用に充つる所で上は老中、若年寄奏者番、詰衆、諸奉行、諸番頭、諸番士より下は黒鍬、掃除の者に至まで日々其詰所に出仕して事務に從ひ、將軍宣下の大禮參向勅使の引見を始め、年始、五節句、三朔、月次式日等の大名旗本の登城謁見は大廣間を用ゐ、其他の儀式は黒書院及白書院を用ゐ、有ゆる表向の儀式は總てこの表で執行はれた。從てこれ等に要する諸座敷は前に羅列した様な名稱で遺憾なく配置されて居る。また中奥は幕府の奥向の一部で表に屬し將

軍自己の諸用を辨ずる所であるから、それに相應した座敷が設けられてゐる。大奥は將軍の御臺所併にこれに奉仕する女中の居る所で將軍の寢所である御座敷もこゝにある。されば御臺所の居室である御座の間を始め前に列記した樣な諸室を中心として配置され、奥向役人の詰所、女中の住所を併せて大奥一切の建物は茲に整頓して居るのである。而してこの宏大なる殿舍は、大凡何の位の面積を占めて居たか一寸想像し難いが、天保度の造營では

表向及中奥向　四千六百八十八坪餘
大奥向長局共　六千三百十八坪餘

で表奥併せて一萬一千坪餘である。なほこの殿舍の工費としては幾何の經費を要したか調べて見ると、明暦大火後造營の本丸殿舍の分が金九十三萬四千三百四十七兩一分餘、米六萬七千八百九十三石五升六合五勺で天保九年西丸殿舍の分が金百七十萬四千三百六十六兩三分餘、銀三十五貫三百目餘であつた。而して造營の場合には大名旗本町人百姓から夫れぞれ上納金のあつたもので、天保度の本丸殿舍造營に就て見るのに

幕府の支出金七十五萬四千三百四十五兩餘萬石以上高割上納金（金五十二萬百三十八兩一分銀二百二十目五分六厘六毛）
御側衆高割上納金　金一千五百六十兩
萬石以下百俵以上高割上納金（金六萬九千四百二十五兩二分二朱銀三貫二百三十九匁八分）
百姓町人其外上納金（金十二萬八千五百八十四兩一分銀四十一貫二百七十目）

で其總計は二百四十七萬四千八百兩餘である。これを先の建坪數一萬一千坪に割宛ると一坪平均二百二十五兩に當る。更に造營の經費と納金とを比較して見ると天保度は經費百三十七萬餘に對し納金百七十萬餘兩であつたが、弘化度は經費百七十五萬餘に對して納金七十萬餘兩となり、嘉永度になつては經費百五萬餘兩に對して納金僅かに大名出金々十一萬餘兩のみであつた。以て時勢の變遷を見ることが出來る。

六、大奥御殿

表御殿向と中奥向とは繪圖の示すところと、先に述べた大體の使用方とでこれを想像するとして、興味を以て迎へられるのは其の大奥である。大奥

は一括した名稱でそれがまた『大奥御殿向』『廣敷向』『長局向』の三つに區分されてゐること丶、其の重なる座敷の名稱とは先に記した通りであるが江戸城の大奥は所謂謎の大奥ともいふべき所であるから、御廣敷御用人頭を長官として、奥向一切の用務と女中の取締を司る大奥の役所向である廣敷の部分は暫らくこれを別として、茲に大奥御殿向の大體と、有名な長局に關して少しく記して見る。先に記した數々の座敷の中御小座敷は將軍御臺所が式日その他祝ひ日に女中よりの祝詞を受け、又た御流(祝の盃)を下さる時に用ふる座敷で、御清の間は平生は御臺所兩親の位碑を安置し、毎朝禮拜する處であるが、分娩又は婚禮の良夜、寢入のある時墓目の役人が墓目の法を修する處である。御座の間は式日其の他の時將軍此に成らせられ、御臺所と對面あつて種々の式を執り行ふ處で、二の間三の間は其日女中共の控てゐる處である。以上が式日その他の祝ひ日に大奥で式を執り行ふために設けられた座敷である。而して御臺所の平生樂居の間は即ち、將軍大奥へ御成なき時御臺所の安息の座敷である御休息の間で、女中の詰處である三の間、女中の給仕する二の間、臺子の間、浴室等が附屬し、切形の間と稱する御臺所の寢室もある、この外御化粧の間、御納戸、大納戸があり、また別に御臺所が若君姫君と對座する御小座敷もこの一廓にある。

更に將軍が大奥に御成のとき寢所として使用さる丶座敷は中奥から上御鈴口……御鈴口とは中奥と大奥の境の出入口で常に締切り、相方より鈴の紐を引いて合圖して開き、表役人と大奥女中の間に於て將軍を受授する時別な出入口……を大奥に這入つた直ぐの御小座敷で、此の一構の中央である小座敷へ將軍は御臺所若くは中臈と御寢になるので、次の間は女中の控の間である。而してこの一廓には御中臈控所と御茶屋とがあり、一構の内の鳥の間は將軍が御臺所若くは中臈とくつろいで物語する座敷である。

對面所は御臺所が親戚などに對面する座敷で、この附近には嫡男嫡女の住ふ部屋である宇治の間や佛間がある。時期に依つては新座敷といつて將軍

生母の住むために設けられてゐた座敷も亦この大奥の一部にある。この外大奥の御殿向には以上の座敷に附隨する色々の座敷が設けられゐたが、それは暫く圖に讓ることゝする。而して大奥には時期によつて消長があつた。大奥の權威盛な時代に出來た殿舍には大奥は規模大きく、改革の後をうけた時の大奥は多少縮小された傾がある。然し其の最も影響の大きかつたのは長局である。

七、長　局

長局は大奥女中の住居で、一棟を十數部屋として一部屋を一人若くは數人の女中に宛て、かゝる棟が四つも五つも並んでゐた。而して何れも長廊下で連ね、更に出仕廊下でこれを御殿向へ繋でゐた。一棟の長廊下の長さが四十間で、奥の長局から出仕廊下の奥迄が七十三間餘になる。かゝる長局は大奥の消長に影響を受けることが多く、圖の上から見た長局の規模に依て其の當時の大奥の消長は寧ろ判斷される。寛永時代。萬治時代の長局は規模が大きいが、一般には一の側より四の側迄の四棟と時として新側長局、東側長局の設けられてゐるのが普通で、幕末に近いては頗る縮小されてゐた。一の側は第一列といふ義で御年寄、上﨟、中﨟、中年寄、御客會釋、お小姓等重い女中の住ゐであるが、大體に於ては同に樣な造りで

南の椽に接するを入側とし幅一間である。こゝで化粧し又鐵漿をつける。その次は八帖で南北に襖を建て西に床がある。間口一間奥行三尺の板敷で黒塗の框があり、檜糸柾の床柱で違棚は槻のタメ塗である。東には間口一間奥行三尺の佛間があり、坐敷から三尺上つて中敷居を設けこれに黒塗本骨の障子を嵌め、中には一段の壇を設けて女中親族の位碑幷に將軍御先祖代々の過去帳を備へる。四邊の貼付天井とも金泥で蓮花の模樣が中々莊嚴である。次の間は六帖で南が襖北が障子で東西に押入がある。こゝは女中の樂所する所、即ち飲食坐臥の間で衣裳なども藏つて置く。次に二帖敷の入側があり、更に八帖の部屋がある。部屋方のある所で左右は貼付南は襖北は障子建になつてゐる。この間の西東部に階梯があつて二階に上る。二階の間取は下と

同じで北に窓がある。北の椽を跨いで向ふに間口三間、奥行三間半の處があつて、其の東側に湯殿用所、西側に薪炭置場及部屋方タモンの用所がある。而して洗濯場は二階南の方に設けてある物干場で干す樣になつてゐる

といふのが長局の一部屋を語る模樣である。兎に角こゝは名高い大奥の長局、女中部屋の集合であるから種々の噂さも出れば骨稽もある。

しの字返へしにきりゝとやの字

火のもひのもと　程のよさ

などゝ唄ふ曰挽うたは火の番の女中が長局を見廻るときの樣子をいつたもので、また

我ながら思へば輕き御奉公、水の重荷を肩に掛け、井の端行けば夏の夜の、明け方寒く烏鳴く

待つ身につらき代りあひ、實に遲いじやないかいな

も亦長局の女中に召使はれの水汲御末の戲れ唄である。女三人寄れば姦しゝとの譬へにもれず、かく多數の女中の割長屋であれば新參ものゝ面型を詰所の爐の灰へ留める悲慘も、鞠つき遣り羽子など季節々々の遊びの賑かさも、みなこの長局の内に見らるゝのである。秋の夜長の百物語に一人歸り得ぬ淋しさも、能衣裳に鬼女の面つけて密かに局に通ふた物語も、またこゝの長廊下でのことであり、江島生島の粹事もこゝから生れ出たのである。江戸城本丸殿閣の話も細く言へば限りがないから一先づこゝに筆を止めるが、其の表向は將軍の居館としての外に、日毎に大老以下の諸職が出仕して幕政を執つた今の内閣に相當する役所もあつたから、更に規模の大い必要があつた事を附加へて置く

（大正十一年八月十九日稿）



換氣と所要氣積

醫學博士　藤原九十郎

我々人類が其の生活機能を平靜に營んで、而も充分に生活能力を發揮せしむる爲めには外氣の如何を論せず克く之を調節して生活に適當なる氣候を作り、同時に生活に有害なる異常の刺戟を防止することが最も肝要である。即ち云ふまでもなく住宅の眞の目的は實に茲に存するのである。故に住宅の完全であるか、不完全であるかは人類生活物件の中で最も大なる意義を有するもので、國民健康の指針となり一國の能率良否の分水嶺ともなるべきものである。元より住宅の問題は其の範圍が甚だ擴くあつて、諸種の方面と關聯するのみならず、歷史上の經驗に基く所が極めて多いが由來我が國に於ては住宅の衛生的要件を餘りに輕視し來たる非難は到底免れ得ないのである。即ち今日まで喧しく住宅問題が論議せられたけれども其の多くは量的方面の事のみで質的問題に就ては今尙等閑に附せられたる傾がある、之を西歐の先進國に於ける狀態に對比すると實に雲壤もたゝならざるものがある、即ち彼等諸國に於ては十九世紀末葉から銳意住宅の改善に熱中して、人類の生活に適當fit for human habitation;を住宅の眞の主眼として發達し來つたのである。之が爲めには換氣採光等の重要なる衛生要項に基いて、第一に貸家の取締、第二に適當なる新住宅地域の制定及住宅の設立と同時に不健康住宅の除去整理、第三に土地區劃の整理國庫補助並に資金調達による健康住宅の經營及び之に必要なる交通機關の設備等何れも生活の改善生活の適當と云ふことを元として達成せられたのである。

飜つて我國の大都市特に東京、大阪、神戸等の

一部勞働者住宅を見、且つ傳へ聞く所に依れば如何に其れが『バラック』式の造構であつて換氣作用に比較的良好でありとは云へ其の一人に對する占有立積が狹小であることは實に驚くに堪へたるものがある。中には一疊につき二人以上の恐るべき過群生活をなし又甚だしきは一室に異夫婦が共同生活を營むものさへあると云ふ始末である。加ふるに晩近の住宅難、即ち住宅の量的缺乏に連れて或は納屋とか、倉庫等を寢室、居室となし、又は蜂の巢の様な、硝子窓一個の家屋までが建設せられて居ると云ふ狀態であつて住宅の衛生も何も全然等閑視せられて居るのである。

元來、一般の在來日本家屋は甚だ原始的なものであつて大變な隙間がある故に住宅の衛生要項中でも換氣の問題は今日迄全く考へられて居ない。實際に於て和風の住宅に於て主なる衛生要項は如何にして恒温を維持せしむるか、即ち冬季の防寒方法を講ずるは最も緊要なるものである。又換氣の問題も暖房と同時に論ずべきものであるが、余は茲には單に換氣のことに就て述べて見よう。

然るに粗末な日本家屋なればこそ其れで通つたろうが、今では其が左様に行かぬ様になつた。特に西洋文明が輸入せられて洋式の建物が殖へて來て純洋式又は和洋折衷の家屋が都市の住宅に甚だ多く見らるゝ様になり、斯る家屋が緻密であつて隙間即ち日本家屋に於て換氣作用に與り居る所の隙間も從來の日本家屋に比すれば殆んど問題にならない程少ない。從つて室の換氣作用も甚だしきは其十分の一位にまで減少して居るのである。然るに傳統的慣習の恐ろしさは、縱令斯る洋式の住宅に居住しても矢張り和室に在る場合と同様な生活方法を續けんとして居る。實に恐るべき冒險だと云はねばならん。思ふに西洋の衛生學的歷史は身體の恒温維持のみを顧慮して物質代謝即ち『エネルギー』轉換に必須の役を演ずる所の空氣の性質を等閑にする事が如何に恐るべき結果を生むべきであるかを明かに示して居るのである。即ち彼等は幾千の世霜具さに之について苦しき經驗を嘗めて來て漸くにして今日彼等の行つて居る所に到來した次第である。故に吾々日本人が洋式又は和洋折

衆式の家屋に住む場合には必ずや現在彼等が行つて居る所の住居方法に就くのが合理的であつて、若し然らざる場合ありとせんか、數世紀前の彼等の轍を甞めんこと火を睹るより明かである。

然らば換氣の問題は只洋式家屋に於てのみ論ずべきものであるかと云ふに決して左様ではない。如何に換氣の良き日本家屋でも居住の人數が增せば其の空氣は汚染せざるを得ないのである。而して居住人が一定以上に增した時には日本室と雖も西洋室に住むと同じき用意をせねばならんことは勿論である。又一方から考ふれば換氣の方法さへ講じたならば如何程多數者が居住しても宜しきかと云ふに左様に簡單には行かない、何となれば住宅の衞生要項は單に換氣のみで盡きはしない、他に最も重要なる恒温維持と云ふ問題がある。換氣のみで住宅の目的が達するならば宜しく外氣生活をなすべしだ、何を苦んで家屋の中に籠居するの愚をなさんやである。即ち餘りに換氣が旺んなれば恒温を維持する上に於て大なる障害が起る譯である。即ち換氣は暖房と離すべからざるものである。然らば普通の居室に於て一時間に幾回位の換氣があつたら宜しきと云ふと約二回位を以て適當とせられてある。茲に於て居住の標準即ち一人の占むる室の立積と云ふことが必要な問題になつて來る理である。而して其の立積の問題は日本室であると西洋室であると及び和洋折衷の室に於けると依つて各異る理で今左に是等三種の室に就て居住者數と室の立積の關係を示さう。

第一表　和室氣積と其換氣量並に該室内空氣の清淨期間及び持久滯在時に於ける炭酸量概算

氣積 ＼ 換氣回數（毎時）	和室 密	粗 三〇回 換氣量（立方米）一分 a	粗 三〇回 一時 a	粗 三〇回 b	中 二〇回 換氣量（立方米）一分 a	中 二〇回 一時 a	中 二〇回 b	密 一五回 換氣量（立方米）一分 a	密 一五回 一時 a	密 一五回 b
四疊約八立方米		二四	九分	二一	一六	八分	一九	一二	四分	一七
三疊約六立方米		一八	七分	一六	一二	六分	一四	九	三分	一二
四疊半約一〇立方米		二二	九分	一九	一五	六分	一七	一一	四分	一五
六疊約一二立方米		二六	一〇分	二二	一七	七分	二〇	一三	五分	一八
八疊約一六立方米		三四	一一分	二八	二二	九分	二六	一七	六分	二三
一〇疊約二〇立方米		四二	一四分	三五	二八	一一分	三二	二一	八分	二九
一二疊約二四立方米		五一	一七分	四二	三四	一三分	三九	二五	一〇分	三五

備考

a　ハ成年男子一人在住時、炭酸瓦斯一%ニ達スルマデノ時間

b　ハ同持久時滯在時ニ到達スベキ炭酸瓦斯量%

第二表

和洋折衷	換氣回數（毎時）	氣積	換氣量（立方米）毎時	a	b
一、〇回	一六	疊約四立方米	四八	八分	五四
	一〇	八疊	二七	七分	二、九
	八	一二	一九	六分	二、一
	六	一二	一四	四分	一、五
	四	一八	一〇	二分	一、〇
	三	二二	八	一時	九〇
	二	二二	六	三時	六〇
	一	二二	四	六時	四〇
	半	二二	三	一二時	二〇

第三表

粗洋中密館	換氣回數（毎時）	氣積	換氣量（立方米）毎時	a	b
〇、七回	一六	疊約四立方米	四八	八分	五四
	一〇	八疊	二七	七分	二、九
	八	一二	一九	六分	二、一
	六	一二	一四	四分	一、五
	四	一八	一〇	二分	一、〇
	三	二二	八	一時	九〇
	二	二二	六	三時	六〇
	一	二二	四	六時	四〇
	半	二二	三	一二時	二〇
〇、五回	一六	疊約四立方米	四八	八分	五四
	一〇	八疊	二七	七分	二、九
	八	一二	一九	六分	二、一
	六	一二	一四	四分	一、五
	四	一八	一〇	二分	一、〇
	三	二二	八	一時	九〇
	二	二二	六	三時	六〇
	一	二二	四	六時	四〇
	半	二二	三	一二時	二〇
〇、二五	一六	疊約四立方米	四八	八分	五四
	一〇	八疊	二七	七分	二、九
	八	一二	一九	六分	二、一
	六	一二	一四	四分	一、五
	四	一八	一〇	二分	一、〇
	三	二二	八	一時	九〇
	二	二二	六	三時	六〇
	一	二二	四	六時	四〇
	半	二二	三	一二時	二〇

元來日本室の換氣は大部分が隙間に依つて行はるゝので從來障子等に依つて行はるゝものと思ふたは大なる間違ひで前者に比すると殆ど問題にならないのである。而して建附の良き和室の換氣量は無風時、内外温差攝氏五乃至七度の時分に大略一回半位である。地上を毎秒大凡一米の風が吹けば尤も風の方向、室の換氣面の方面等に關係はするが凡を毎時三回位は換るのである。而して第一表に於ては日本室の換氣量を大體三種に分ち、毎時一回半、二回及三回の場合に於て成年男子一人が室内に在住した場合に、炭酸瓦斯が制限量一‰に達するまでの時間、並に同一人が持久滯在時に到達すべき炭酸瓦斯量の概算を示したのである。即ち本表に依つて三種の和室に於て成年男子一人に必要なる室の氣積は幾何を要するかゝ略々知ることが出來る。例へば建附の粗なる和室、毎時三回の換氣量がある場合に、疊一帖敷（一帖につき便宜上四立方米と概算したる場合）の室に於ては催

かに九分にして其空氣は不良になり制限量一‰を超過し、二帖敷の室なれば二十五分後に不良になり、持久滯在時には一、二‰の炭酸瓦斯が含まるゝことになる、次に三帖敷の室に在住した場合には、無制限に長く居つても其室の空氣は限介量一‰を超過せず、持久滯在に於ても一‰を超すことは無い。換言すれば、換氣量三回の和室に於ては成年男子一人に對して約三疊敷(十二立方米)の氣積を必要とする即ち六疊敷の室があつたら成人男子は二人位の在住に適する、其以上は不可であることを示すのである。

次に第二表に於て和洋折衷の室を假りに自然換氣のみに依るとして換氣量を毎時一回と見做したる時に、三十二立方米(約八疊敷)の室で初めて成人男子一人を在住せしむるに足るので其以下の小なる氣積に於ては一人の在住にも不適であることを示して居る、尤も前述の如く自然換氣に任じたる場合であつて人工換氣を施して毎時數回の換氣量ある場合は論外である。

第三表の洋館に於て自然換氣法に依る場合其換氣量を假りに毎時〇七乃至四分の一回と見做したる場合は莫大なる氣積の室を要することは勿論である、即ち毎時半回の換氣量の室に於ては成年男子一人につき六十七立方米(十六疊半)の氣積を要する理である。

斯くの如く洋館並に和洋折衷式の居室に於ては之を自然換氣に任せて何等人工換氣法を施さゞる場合には一人の在住に甚だ廣き室を要する次第である、若しかゝる場合に在來の日本室同樣に取り扱つた時には、衞生上由々敷障害を招來するものである、即ち斯る建築に於ては恒温維持を害せざる程度の換氣法を講ずるの要存する理がかゝる建築に當つては宜しく考慮せざる可からざる問題なりと信ず。

× × ×

住宅煖房に就いて

株式會社作山鐵工所
專務取締役　作山義鵬

歐洲大戰後我が國に於ける一般生活の程度が向上せる結果所謂『文化生活』の聲高くなり從來洋風大建築物のみに限られて居りました冬季暖房裝置の設備も漸次洋風住宅にも及び自然種々の新しい試みが策てらるゝようになりました。從つて此等の住宅暖房裝置は未だ統一的のものでなく多種多樣でありまして或る家屋には蒸氣暖房を用ひ或る家には熱氣暖房を試みると云ふ有樣であります、

私は此處に洋風又は和洋折衷の住宅に對する暖房裝置に就き何れの型式が最も適當でありますか極く簡單に申述べ此の稿を結び度いと思ひます。

先づ順序として輓近我が國に於て文化的住宅暖房裝置として採用せられて居ります諸裝置を類別いたしますと大略次ぎに掲ぐるようなものであります。

一、電氣暖房裝置
一、蒸氣暖房裝置
一、溫水暖房裝置

一　熱氣暖房裝置

次ぎに住宅暖房として如何なる要素を持つ事が必要であるかと申しますと

第一、設備費及經常費の低廉なる事
第二、裝置に故障の少なき事
第三、取扱ひ簡單にして便利なる事
第四、安全にして危險の恐れなき事
第五、衛生的なる事
第六、裝置が建築と調和し美觀を害せず且室の能率を減せざる事

第七、室内の溫度を絶えず一定に保つ事
第八、夜間就寢後と雖も長時間放置の儘適當の溫度を保ち得る事
第九、人に親しみを與ふる事

以上九項のものが完全に備つて居れば住宅の暖房として頗る理想的の裝置なりと斷定し得るものにして此の各條項を前記各型式に參照して夫々其の優劣を比較して見度いと思ひます。

一　電氣煖房裝置

電氣暖房裝置とは電流によりて電熱器を熱し此れが放熱する熱によりて直接室内の空氣を溫むる裝置であります。

此の裝置の最も秀でたる點は電熱器（熱源）を家屋内欲する處に自在に移動し得られ又『スウヰッチ』によりて必用の際隨時使用し目的を達し得る點であります。從つて取扱上並に使用上簡易にして住宅用としては甚だ相應しきものと思ひます。只だ此の裝置は比較的多量の電流を要する爲め現在に於ては經常費を增し又電熱器高價にして設備費の安價ならざる缺點を有するのであります。故に此の裝置を住宅の暖房に使用せんと欲せば其の優秀なる點を利用して此等の缺點を緩和するのである即ち多數の室を同時に絶えず溫むる場合には全然用ひず比較的短時間使用する室例へば客室應接室等の如き室へ使用し又電熱器の移動し得らるゝ事に因りて一箇の電熱器を晝間は居間に客室に夜間は寢室に此れを用ふる等成る可く少數の電熱器を利用して多くの室を溫むる樣にせば經常費及び設備費の高價なるを充分補ひ得る事と信じます。尙此の裝置に用ひらるゝ電熱器は熱源の溫度非常に高く且放熱面積は此れに反して非常に少き故熱の分布狀態惡しく最初は局部的に溫め室全部を溫むるには比較的時間を要する缺點あり（在來の火鉢の如く）從つて他の裝置の如く室内の空氣を溫めそれによりて人體に暖を與ふると云ふより寧ろ直接熱源より放射する熱によりて人體に暖を與ふるのである。それ故に在來の日本建築の如き換氣烈しき家屋に對しては他の裝置を施して不自然にし

て調和惡しき放熱器を日本間に置き美觀を害するより此の移動性のある電熱器を前記の室に使用し室を温むるより人を温むる目的に用ふれば其の効果は充分あるものと思ひます。

要するに此の裝置は電流の供給安價となり且電熱器の破損少なき完全なるもの出來得る時代に至らば相當前途のあるものと思ひます。

今參考迄に電熱器の價格之れに要する電流量等を概略申しますと次の樣な結果になります

室ノ大サ	電熱器ノ容量	電熱器ノ價格
六　疊	一、五キロワット時	約七十圓
八　疊	二、〇同　同	同八十圓
十　疊	三、〇同　同	同百　圓
十二疊	四、〇同	同百三十圓

以上の表より一キロワット時大阪に於て五錢として此れを換算せば八疊の室に用ふる電熱器にて一日十時間約一圓となり後述の温水暖房裝置の二十坪を温むる燃料に相當し以て如何に經常費の高價なるかを想像し得らるゝものと思ひます。されば現在に於ては歐米諸國に於ても此の裝置は家庭用としては甚だ贅澤なものと見做されて居ります。

一　蒸氣煖房裝置

蒸氣暖房裝置とは汽罐内にある水を蒸發せしめ、此の蒸氣を鐵管により各必用なる室内に導き室内に設置せられたる放熱器に連結し此の器内に蒸氣を充滿せしめ此れが放熱する熱によりて空氣を温め以て暖房の目的を達する裝置を云ふのであります。

此の裝置は住宅暖房として種々の缺點を有する爲め現在に於ては殆ど用ひられず主として大建築物に使用せらる。其原因は第一裝置を簡單にする爲め地下室を要する事であります。此れは放熱器其の他鐵管内に凝結せる水を汽罐内に重力を利用してポンプ其の他の作用に據らず自然に還水せしむる爲め汽罐の位置を低くする必用上地下室を設くのであります。次ぎに室内を温むる熱源は右記の如く室内にある放熱器を充滿せる蒸氣でありまして此の蒸氣は壓力に密接なる關係を有し且蒸氣の性質上温度の變化の非常に激しいものであります

從つて汽罐の壓力に起因して容易に冷え易く熱し易き爲め絶えず汽罐の燃燒の具合に注意を要し就寢後の保温が非常に困難であり且又壓力を有する爲め取扱上留意す可き點も多々あり我が國の如き一般的科學の智識乏しき婦人の掌る住宅暖房としては頗る不適當のものと思ひます。其の他種々なる點に於て缺點ある爲め此の裝置は住宅用としては用ひられて居らないのであります

一　温水煖房裝置

我が國に於て輓近住宅暖房として最も多く採用せられて居るのは温水暖房裝置であります。

此の裝置は温水罐及び室内に置かれたる放熱器、其他此の裝置に用ひられたる鐵管系を總て温水にて充滿し温度の差異によりて生ずる熱の對流作用を利用して温水罐より生ずる温水を絶えず自然に循環せしめ以て暖房の目的を達せしむる裝置であります。

此の裝置の優秀なる點を列擧いたしますと第一に裝置の爲めに地下室を要しない事である。それ故に温水罐は常に居室又は比較的家人の多く集ふ處に置き一ツの放熱器として作用せしめ甚だ便利なものであります。それが爲め近來は温水罐を此の目的に副はしめんがため體裁の美を飾り室内に置くも毫も他との調和を缺がさしめざるよう努めて居ります。又或る温水罐の如きは焚口を閉しても外部より焔を視得るよう透明なる『マイカドアー』を技工し自然に人に親しみを與へる裝置を作つて居るものもあります（ラヂイヲボイラー）

次ぎに裝置全體が水である故に一度此れを温むれば容易に冷め難く蒸氣暖房の如く汽罐の壓力が直ちに放熱器内の温度に鋭敏に影響するが如き事なく適當に燃料を投入れば一定の温度は容易に保たれ蒸氣暖房の如き煩はありません。其故に大建築物中晝夜間斷なく使用せらるもの例へば病院及びホテル等が温水暖房を採用するのは一面此の理由から來るのであります。

尚最近輸入せられたる『ラヂイヲボイラー』の如きは一定量の燃料を自働燃燒せしむる裝置を附し此の裝置を利用すれば三時間乃至四時間は燃料の投

入をせずして燃燒を持續せしめ得らるゝ特點を持つて居ります。それ故に取扱上非常に簡便となり住宅用として甚だ屈強のものと思ひます。

只だ此等のボイラーは皆外國の石炭を標準として設計せられたるものでありまして日本の焰の短い粒の揃はない燃料では充分の効果を擧げる事は困難ではありますが此點に相當注意をいたし燃料の選擇をなさば新期に近い能率を發揮せしめ得る事と思ひます。

從つてかゝる温水罐を用ひ就寢前に適量の燃料を投入せば前述の理由に因りて翌朝迄相當の温度を保つ事が出來るのであります。

次ぎに此の裝置の缺點として缺源の温度低き爲め（蒸氣の場合に比し）蒸氣暖房の場合より放熱器の數量を增し從つて鐵管は太くなり自然設備費の增加を來す事であります。且放熱器の數量の增加は室内の能率を減じ不自然なる放熱器の並列は建物との調和を亂す恐れがあり尙此の裝置には工事上の不注意其の他の原因より他の裝置に比し漏水が多く素人の取扱上甚だ困難を感ずる點があります

私は前述の如く此の裝置は温度の保持、危險の皆無、衞生的等の見地より純洋風の住宅に對しては理想的のものであると信じますが最後の漏水問題がありますから餘程此點には工事施行の際注意を要する事と思ひます。

尙温水暖房裝置の設備費を建坪當りで概算いたしますを次の如き價格となります。

建坪（延）	設備費（坪當）	石炭消費量
二五坪	三十五圓位	約一圓
三五同	三十圓同	同一圓五十錢
四五同	三十圓同	同一圓九十錢
五五同	二十八圓同	同二圓二十錢
六五同	二十五圓同	同二圓五十錢

但家屋の延坪は暖房裝置を施す室のみを算入し石炭は塊炭として一日十時間の消費量を換算したものであります。

次ぎに電氣温水暖房裝置があります。此れは放熱器にある特種の裝置を施し此れに電流を通じ電熱によりて放熱器内の水を温め以て暖房をなす方法であります。此裝置は前記の電熱器の缺點を多少

補ひたるものなれども價格高値なると經常費の點より未だ多く用ひられて居りません。尙此の電熱器を用ふる際留意す可きは市場に供給せられたる電流の電壓は近來非常に低く百十ボルトと稱するものも時によりて九十ボルト位迄降下して居りそれが爲め電氣放熱器の温度は非常に低く到底使用出來ない場合がありますから此の裝置を用ふる場合には此の邊に充分考慮を要するものと思ひます

一　熱氣煖房裝置

熱氣暖房裝置とは家屋内地下室にファーネス（熱氣爐）を置き此れに清淨なる空氣を送風機によりて熱氣爐内を通過せしめ（直接焰に當らしめず）温められたる空氣を必用なる各室へ送風管によりて送り室を温むる裝置であります（尙此裝置に於て送風管の配管狀態良好なる場合は全然送風機を用ひず自然的に空氣を吸入し送風管によりて温氣を送る場合あり）此裝置の特點として特筆大書いたし度きは放熱器パイプ等の露出器物なく裝置全體が甚だ簡單にして取扱容易となり且不注意より生ずる故障又は危險が非常に少ない事であります。前述種々なる裝置は放熱器鐵管等の露出せらる可き器物があり住宅の如き比較的狹き室殊に客室應接室の如き裝飾の施されたる室には室の能率又は美觀上露出物は禁物である爲め種々隱蔽方法を講じて居ります。それが爲め種々の困難を生じ且萬一故障のあつた際其の修理に苦しむのであります然し此熱氣暖房によれば此等の缺點を充分に逐除する事が出來るのであります。即ち此の裝置は右記の如く送風管を床下、天井、壁等の内部を走らせ各室に配管し空氣出口に連結せしむれども送風管は其の性質上他の裝置の如く漏水等に起因して建築物の破損の恐れ絶對になく空氣出口は床上又は壁の適當なる位置に設くるを以て室の能率其の他美觀體裁等を毫も害する事なく全く理想的のものである。次ぎに此裝置は設備費の安價なる事であります。此裝置は前記載の如く熱氣爐、送風機送風管、空氣出入口のみより成り裝置自身が甚だ簡單なる爲め工事も容易にして設備費が低廉となるのであります。家の大小により多少の相違はあ

ります(但地下室の設備費は除く)

次ぎに熱源に用ゆる熱氣爐は燃料として石炭又はコークスを用ひ此れによりて爐を灼熱せしめ此處に空氣を導き温め送風するものなれば其の作用は蒸氣より鋭敏にして温まり易く且爐中に火氣の存する間は此の作用を持續するを以て恰も温水暖房の如く冷め難く就寢後の保温も充分保たれ住宅暖房としての要素を備へて居るのであります。米國の或る會社製のファーネスの實驗報告によれば一回適量の燃料を投入し放置せば七時間室内の温度を保ち得ると云ふ事であります。

以上述べました諸點より此の裝置は住宅用として和、洋兩樣の建築に對し一番善き方法ではないかと思ひます。只だ問題となるのは地下室でありますが成程現在に於ては地下室を備へた住宅は非常に稀でありますから今直ちに此れを慫慂いたしますのは甚だ無理な事であるとは思ひますが追々地下室も廣く採用せられ一般的のものになる時代は餘り遠くないと信じて居ります。私は建築に關しては甚だ素人でよく存じませんが在來の日本家屋は何れの型式を問はず皆表許りを飾りて所謂臺所方面には工夫が少なく折角出來上つた家も無遠慮な物置納屋等の爲め全體の調和を破つて居るのが多いように思はれます。此等は古い日本の習慣と住宅と云ふものを一般から輕視し無理解な大工に委されて居つた結果だと思ひます。最近文化生活の聲喧しくなり世人が等しく注目するようになりました結果近來は非常に立派な住宅が出來又便利な地下室も漸次設けらるゝ樣になりました。從つて彼の物置等も自然葬られ地下室が住宅の必需室として社會より認めらるゝ時代が必らず來るものと思ひます。さすれば地下室は暖房用の爲めに設けらるゝものでなく寧ろ暖房裝置に利用せらるゝ立場となり容易に此の熱氣暖房は施行採用せらるるものと思ひます。殊に日本式疊數の室には如何にしても放熱器鐵管等の露出は見苦しく假令隱蔽方法を講ずるとも相應しいものでありません。此れに反し此の裝置を適當に利用すれば相當完全なる暖房は出來得るものと信じます。

此等の點より考察して將來我が國に於ける住宅暖房は和洋の兩式に對し此の裝置が最も多く用ひらるゝであらうと考へます。

米國に於ける住宅暖房は約八割を此の熱氣暖房が占め他は溫水其他でありますが此等も皆地下室の關係から來て居るようです。

次ぎに此熱氣暖房を一層簡單にしたパイプレスフアーネス即ち無管式熱氣暖房裝置と云ふのがあります。此れは送風管と送風機を廢し各室に通風口を設け地下室の爐より生ずる溫氣を送風機によらず自然に上昇せしめ通風口より各室に循環せしむる方法であります。此の裝置は餘程建築の構造と重大なる關係を有し空氣の循環に充分の研究を要するものと信じます。

以上は甚だ概略ではありましたが住宅の文化的暖房裝置は先づ大體右の樣なものです、此等を結んで申上げますと住宅の暖房裝置は地下室のある場合は熱氣暖房地下室のない場合は溫水暖房が適當ではないかと思ひます。

— 秋 —

明月や下戸の建てたる藏引かん

住宅の改造に伴ふ衛生工事

日本水道衛生工事株式會社
池田健六

近來我國の識者、先覺者等が盛に文化生活、生活改善を唱導せられ各方面から一般公衆に注意を惹起し其新らしき趣味を誘致し智識を注入せられつゝある結果として追々と一般が此問題を眞面目に考へる傾向になつて參りました之れは實に喜ばしい現象であります。

住宅の構造とか室の配置とか云ふ樣な事は夫々專門家の御意見を承はる事として差し當り私共が日々直接關係して居る家屋内の湯水の供給、汚水の排泄、浴場及び便所の衛生的諸設備より冬期は煖房夏期は冷房等の設備に就きまして實際の立場から今後我國の住宅に如何なる程度の改善が必要であろうか、又吾人日常の生活に最も心地よく且衛生的にて經濟上の見地からも實行の可能性を有するであろうと思はれる程度に於きまして少々私共の希望を述べたいと存じます。

先づ第一に不潔極まる汚水や糞尿の處分に就いて考へても堂々たる我國の大都市の住宅が三等國以下に認められて居る南米のブラジルやアルセンチンの市街住宅にも劣る樣な現狀である世界の一等國として認められて居る我國としては甚だ恥しい次第ではありませんか。

諸君の已に御承知の通り今日世界文明國の殆んど何れの都市に於ても各戸から排泄せられる糞尿、汚水は地下に布設せられたる下水管を通じて大下水道に導かれ湖水や海の近い處では之を其中に流し込み海岸より遠い所に位する都市では谷間や低地に大規模の濾過裝置を施して其中に流れ込む樣にして處分して居る處もあり、又獨逸のフランクフルテルの如く糞尿から化學的に肥料を製出して

市の一財源として居る所もあります。如斯他の文明國では市が科學的方法で糞尿を衛生上完全に近い程度にまで處分して居る。然るに我國では上古以來の雪で隱くすが雪が解けると忽ち不潔物が再び表はれると云ふ意味から出たのか雪隱と云ふ程度より格別に發達もせず、農家の汲み取りを以て唯一の處分法とせられて居る爲めに都市生活に與ふる不潔不衛生は實に甚だしき者である。嘗て日本を歷遊して其本國に歸らんとする某外人に私は日本漫遊の感想如何と質問しました所が彼が云ふに日本は實に比類なき山水明媚の國である、たゞ糞尿の臭氣さへ鼻を衝かぬなれば永住したいと思ふが遺憾ながら町を歩るいても郊外を散歩しても糞尿の臭氣鼻を去らず甚だ愉快を殺かれたと云ふ答へを得て大いに赤面した事がありました。又私の友人で長らく米國に居りました人が彼地の某生命保險會社に其保險を附して居りましたが日本に歸る事になつたので其旨を右の會社に通告した所が日本の下水や衛生設備の不完全なる點を指摘してコレラ、チブス、赤痢等の流行した過去の年度や死亡の統計を示して掛金の增額を要求したと云ふ事である。唯臭氣が歐米人の鼻に感じる位の事なれば彼等が當分居る間に鼻が慣れて格別に不愉快を感せぬ樣にもなろうけれども、事實上今日我國住宅の普通便所の構造では夏期便所から出て來る蠅や蚊が其脚先きに汚物を附着させた儘で人の身體や飮食物、什器の嫌ひなくとまる。流行病の發生時には實に恐るべき者である斯樣な點から考へると一日も速やく下水(Sewage System)が我國の都市に布設せられんことを希はずには居れませぬ。然しながら此れは大資本を要する工事であつて財源の都合等よりさう手早やく着手する事も困難であらうしそれで只今の處では都市の大きな建築物は各々別箇に汚水淨化槽を設置して其内に汚物を流し込んで處分して居るが住宅になると各戸別箇にこの淨化槽を設置する事は多額の金が掛る爲めに一斑に普及せられる事が困難である。夫れで附近數十戸づゝ一團にして一箇所の淨化槽を設置したなれば各戸の負擔額を減じる事となつて其普及を促進するかと思はれる。

從來我國の住宅は唯珍奇にして高價な材料を用ゆるを誇とするとか、外觀の華麗ならん事のみを欲して却つて當然衛生上施設せねばならぬ所を不完全なる在來の方法に放置して意とせない有樣であつたが近來智識階級一般の趣味傾向が漸次變つて來て一枚の用材に數十圓數百圓を投じるとか節の無い板を撰びて高い金を拂ふよりも節が少しばから有つても安い板を用いて衛生的設備に充分に金を掛ける事が意義もあり又最も大切の事となつて來ました。斯樣な傾向から今日まで放棄せられたる然も最も重要なる便所、臺所、浴室、通風、暖房等が漸次注意研究せられ住宅と共に追々改良せらるゝ樣になつて來たことは衛生上、生活上誠に喜ぶべき事であります。

又浴室の事に就いて申しますと由來我國民は入浴好きの人種である歐米人や支那人等に比らべると屢々入浴をして身體を清潔に保つと云ふ點に於て確かに誇りとするに足ると思ふ、然し餘りに熱い湯に我慢をして入る熱いから自然と早く飛び出る仍で日本風呂に浴した後は一寸煩勞を覺えるこれは何人も等しく經驗する事である。所が西洋風呂に(Tub Bath) 入浴して居る間の氣分は何となく心が落ち付いて心身が延んびりとし煩勞が消失する。實にバスの湯の溫度を心持ちの良い位に調節して靜かに純白な清らかなそして肌さわり良き浴槽に足を延ばし頭を高くして靜かに仰臥すると身體の溫まるに隨つて自然に頭腦の血液が下がつて來て煩勞が消失し爽快な頭になる。一二度バスに入浴すると日本風呂に入るのが心持ちが惡るい樣になる。燃料の經濟にはなるが同じ湯に幾人も入浴する在來の日本風呂は勿論衛生的とは申されません。長い間の習慣で左程に感じないが事實人間の垢が浴槽の周圍に附着して甚だ不潔極まる物である。これ等の住宅の構造では家屋內に湯水のパイプを引き廻はさなつた關係からバスや洗流型便所(フラッシュ、クロセット)を取付けるにも給水排水に甚だ不便であつたけれども今日改善せられつゝある住宅には之れらのものを二階にても一階にても望むが儘の所に据へ付て更に水の漏れる恐れもなければ使用上の不便も無い。

從來浴室便所は必ず第一階に置かれなければならぬ者と習慣上せられて居つた者であるが、衛生上からも室の割當て具合からも今後寢室や客室を二階に取る樣に變はつて來るであろう。そうすると自然と便所浴室を寢室や客室のある所に近く造くる方が便利である。

例令滯在して居る御客でも有る時には其人を室の近くに化粧室や洗面場便所等が有るのは滯在して居る者に取りて住み心地の良い者である次にシャワバス(Showe Bath)でありますが之れが又健康上に甚だ效果の有る者で我國の紳士の家庭に是非共健康增進の爲めに御薦めしたいと存じます。肩から背胸部にかけて相當に强い壓力で噴出する湯滴で皮膚が赤くなるまで打たすと肩の凝りや身體の疲れが忽ち去る。そして入浴の方法としては一番清潔で心地の爽快になる點からも恐らく第一等でありませう。これは其設備にも多額を要しないし場所も取らないから今後は漸次多くの住宅に用ひられる樣になるであろう。現今私共の方へバスと共にこのシャワーバスを取り付けて呉れとの御下命が住宅方面から相當に多くあります。

私の友人の話に彼れが米國滯在中其旅館でロックフエーラーの研究所の肺勞科の醫者であると云ふ某博士と宿り合はして懇意になつた所が其醫者は歐米人の入浴嫌ひなるに以ずして朝夕二回づゝ必ず此のシャワーバスに入りそしてバクバクと身體を叩く音が浴室外に聞えるので不審に思つて彼れは其醫者に理由を尋ねた所が其醫者が云ふに肺病人や結核菌に毎日接近して居て之れに侵されない方法の一つとしてシャワーバスをなして胸部に輕い充血をさして其上を輕るく拳で亂打しつゝ深呼吸をなすこれが私獨特の强肺法であると答へたさうである。それから此の友人も試みに毎日シャワーバスに入つて胸部を輕打して深呼吸をやり始めた所が追々胸部の筋肉が發達して來て風も引かず以前とは打つて變つて健康體に成つたと云つて居りました。

以上の實例からバス殊にシャワーバスの健康上確實の效力がある事が判かります。青年會館、學校病院、ホテル等には無くてはならぬ物として歐米

では設けられて居ります。然らば日本の住宅に於いてこれ等のバスを据ゑ付けるには先づこれに要する湯を如何にして得るかと云ふに市街住宅で瓦斯の來て居る所では瞬間瓦斯湯沸かし器(Instantenious Gas Hteaer)を使用するのが一番燃料の經濟で且何時でも給水栓を捻れば自動的に瓦斯に點火して瞬間に湯が出るのであつて私の方でも使用者の御需めに依りて諸所の住宅に之れを取り付けましたが結果が誠に良好である樣です。この住宅内の給湯に就きして從來我國では湯を沸かすには鍋か釜を以てする爲めに多量の湯を得るの困難であるのと使用する場所と湯を沸かす所との間にパイプの連結がない爲に容器に入れて搬ぶそれに隨分勞力を要する。所が近時一般の家庭で子女に盛に西洋服を着せる傾向を生じて來た、それが主に白地の物であるし寢具にも白のシーツとかカバーを多く用ひられる樣になつて來た、それから又食物も洋食を旺んに食べる樣になつて來た、從つて從來の如く微温湯や少量の湯を用ひて居ては家庭に於て充分清潔な仕事が出來兼ねるのと家事に働いて居る下婢及び主婦が少しばかりの仕事にも終日忙しく働き通さなければならず婦人の立場にも同情すべき次第であります。

下女、下男等を得難き當節では成るべく家庭内の湯水の供給とか其配置及び食物の煮焚きや洗濯、鍋釜皿鉢等の洗ひ場所の設備や其方法の上に科學を應用して成るべく勞力を節約する樣にせねばなりますまい。で煮焚きをする傍ら其火力の餘裕で一方では湯が沸いて居る又冬分にはホットエーアヒーチングと申しまして新鮮なる外氣を地下室に取り入れて之れを適切なる程度に煖め適度の濕度を含ませて之れを室内に導き丁度心持ちの良い溫度に室内を保つ方法が米國あたりでは小型の一般家庭に用ひられて居る。其日稼ぎの勞働者や最低級の月給取りの家庭にても一通りこれだけの設備が家主から施して貸して居るのであります。さて之に對する月々の經費も甚だ輕微の額で足るので我國でもせめて之位の事までは中流以上の家庭に一般に普及せられる樣にならねばなりますまい。

我國在來の煖房方法たる火鉢に火を入れて手先き

を炙ぶるそれが段々身體に暖かみを傳導する悠長な方法や、背中が猫の如く圓く成るまで着込んで仕事をすると云ふ事は甚だしく動作を不活潑にする。又火鉢の火を澤山入れると早く室が煖つてよい樣ですが炭酸瓦斯の爲めに甚だ不良なる空氣となります。我國の家庭でも今後是非共多くの金を費やさないで衛生的な煖房方法を用ゆる樣にならねばなりますまい。

家庭内の之等の諸設備は昔は贅澤の物とせられて居たが文明の今日に於ては必須なる設備と認められる樣になつて參りました。主婦の努力で心理的に性的にスキートホームたらしむる事も勿論必要でありますが家庭を何んとなく心地よい即ちコンフオタブルの物とすると云ふ事は今日の我國の男子をして今一段家庭を樂園と感せしめて樂しみを敢て外に求めない樣に導くの一助とは成りはせんでせうか。

純和風の住宅調和によく煖房設備を施すには相當苦心を要する事で此の點に就きまして將來餘程研究の餘地がある樣に存じます。

次に我國の臺所に缺けて居る物で是非備へ付けて欲しい物は冷藏庫であります。夏季我國の家庭で食物の腐敗を防ぎ充分冷えた食物を膳に上ぼす事が困難である。小型な冷藏庫を臺所に設へて置くと甚だ便利である。しかし我國では氷が驚くべき高價で其上都市から遠く離れた別莊地などでは高價を拂つても勝手な時に間に合はない。元來氷の安いそして其配達が毎日牛乳を配達する樣に定まつて居る米國都市では勞働者、薄給取りの家庭にでも五貫目十貫目の氷が常に冷藏庫中に入れられて居るが、我國ではこう云ふ樣にも參りませんが追々極て小規模の冷藏機を据え付けて置く事が甚だしく食料問題の上に便益を得る事と存じます。今後我國の家庭でも漸次多量の牛乳を飲まれる樣に成らうし魚肉、野菜、凉清飲料等を冷やして保存するに夏季冷藏庫があつたならば頗る都合がよいと思ひます。

これ等文化生活上の諸設備に就きましては彼我の人情風俗にも自から相違のある事ですから此等の點もよく考慮して十二分比較研究の上長短相補ひ生活の改善に更に一段の努力を致したいと思ひます。

自然性助長の上より見たる

子供室と其家具類の一考察

松本儀八

偉大なる自然性助長の爲に子供の趣味に適した室と家具を

男女の別なく子供時代は我人間の一生を通じて總て赤裸々に事を要求し希望するの性格を有してゐる、即ち見えもわだかまりもなき天眞爛漫たる偉大なる自然性の所有者である。

斯かる麗はしき自然的性格を理由なき强制や、徒らなる干渉を以て之を扞げんとするのは甚だ誤つた考へである。

成程行儀も宜からう躾も必要かも知れぬが之が仲々にむづかしい事で子供を有つ親達は特に考慮を茲に拂はねばならぬ問題である。

あまりに人工的に强ひる事によつて往々子供の自然性を萎縮せしめて不知不識の間に不自然な即ち拗くれた性格の持主に變化せしむるの弊は已に識者の認むる所である。此自然其者の所有者である子供を自然其まゝに育てると云ふ事は洵に貴いものである。

由來我國では小供に對する親の干渉は寧ろ歷史的である。此傳統的强制は一面子供の性格に非常なる惡結果を齎らしてゐる。

子供の有する貴き自然性を遺憾なく發揮せしむるには具體案としては色々あらうが自分は子供に相應しい室を與へると云ふ事が最も肝要で然も夫れが急務であらうと思ふ。

在來の我國住宅はまだしも最近文化生活を標準とし、改良住宅を理想として建てらるゝ家でさへ、子供室などはあまり顧みられないものが多い。

客間や應接室乃至脫衣所化粧室まで完備した所ですら、すは小供室となると四人も五人も子供を所有するにも拘らず、親しみを捧げて子供が寄付く

一室だもない。恰も子供は其家の家族から除外された感がする。

勿論是等は沙汰の限りでない極端の例であるがこの家庭でもあり餘つた餘分な室としてはないだらうが子供の將來を想はゞ一室位の融通を喬んではならぬ。一體に子供の爲めの室などゝ云ふ事に付ては左程に大した問題にされてないのを寧ろ遺憾に思ふ。

思ふに子供らしき子供をつくるのは親の職分であり義務である。子供らしからざる子供は人間らしき人間になり得ないからである。私は少くも文化的住宅に興味をもち、文化生活を味はほんとする人々の子供に對する眞の愛は、當然茲に歸着すべきものだと思ふ。

子供室の設備　は子供の年齡男女の別によつて一概には言へないが、子供の性格は單純性即ち原始的であるから成る可く其本能的嗜好を滿足せしむるに足る設備が必要である。

然して子供が漸次成人するにつれて其要求を充たす可く設備の改造を行へばよい。

要するに子供室は、

○採光を完全にすべく少くとも二方面より光線を導き、天井を高くし床を頑丈にし、

○壁面腰廻りは、造り付書棚等を設けて堅牢と實用を兼備せしむるもよからう。

尙慾を言へば腰羽目の最下部に簡易なる通風孔を設け床面はラバータイル又はコルク床も經驗上良い樣に思はれる。

○室内の色彩はなるべく單色の調和が子供の嗜好に適ふ樣である。

家具類は一概に論じ難いが、なるべく動的で寓意的のものが比較的子供の趣味に合致してゐる樣である。自分は次の樣な家具類を五六ケ所の子供室に使用せしめて見て、其成績の可否と子供の心理狀態に就て今尙研究中である。

小供室家具類（小供の人數により數量を定む）

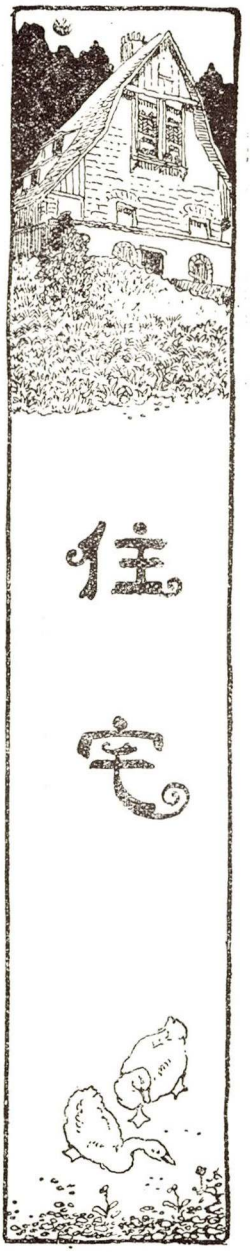
卓子（ライチングテーブル）　肱掛車椅子（ラウンドアームチエヤー）　書棚（ブックケース）

洗面臺（トイレットテーブル）　寢臺（ベッドステッド）　遊泳椅子（ロッキングチエヤー）

控卓子（オッケージョナルテーブル）　帽子掛傘立（スクリーン）兼用衝立

整理箪笥（チエストオブドロアー）

寸法は子供の年齡、體格等を標準とし、使用材料は檜又は櫻材が適して居るべ。ンキ塗、エナメル塗仕上は割合に早く飽が來る樣で、矢張り地味な地色に目止めを生かして心持よき色目の假漆仕上げとする法がよい樣である。



這回我日本建築協會の主催に係る住宅改造博覽會に出品されたる實物住宅二十七箇は夫れ〳〵特異の研究に成れるものにして、恐らく現代改造住宅の粋を鐘めたるものと云ふも過褒に非ず、今此處にその詳細を掲ぐることは、到底紙幅の容さゞるを遺憾とす。故に、以下その出品者がそれに對する説明と抱負の概要を載せ、其他は後日再掲するの機會に待つことゝせり。

——編輯者——

□

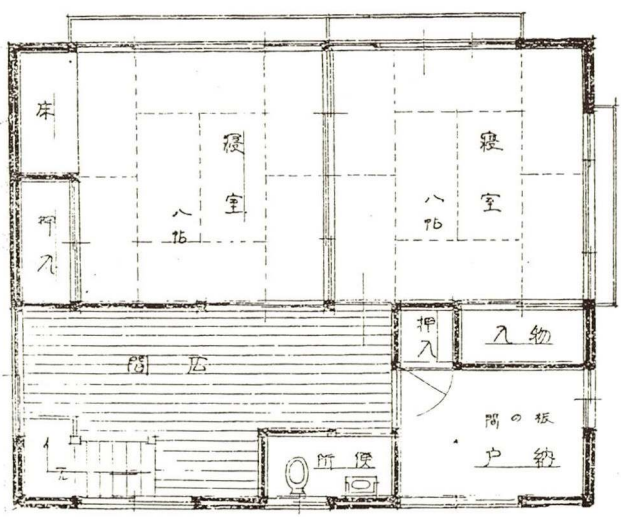
斯ういふ考へで設計しました

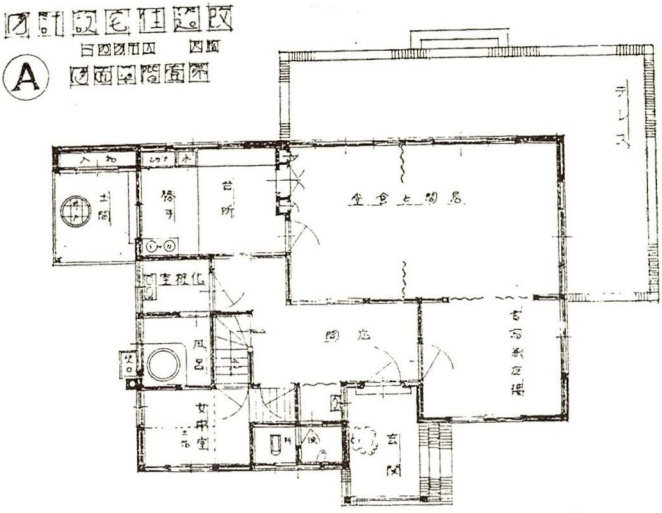
竹中工務店

出品住宅のAB共同一主旨からの設計でありますから間取、外觀、構造等殆ど同一のもので細部を除く他、何等變りはありません。

改造博出品住宅として相應しい改良點としては、特に指摘する程のものもありません。矢張出來上つたものは、平凡の誹を免れない事と思ひますが、多少設計に心しましたのは、氣候の影響や、風土の關係から、追々と發達して來、又私共が今日迄明け暮れ親んで來ました、和風住家の捨て難い所を出來得る限り其儘殘して、夫れに洋風建築で吾

梅雨期の烈しい多量の雨を防ぎ、階上階下共外部窓面積を出來得る限り廣く取り、殊に居間、食堂のテレスに面した方を床迄開け放し出來る樣にしましたのは室内に籠る重い濕氣を緩和し暑熱に苦しむ夏期に涼風を充分に取り入れんが爲であります



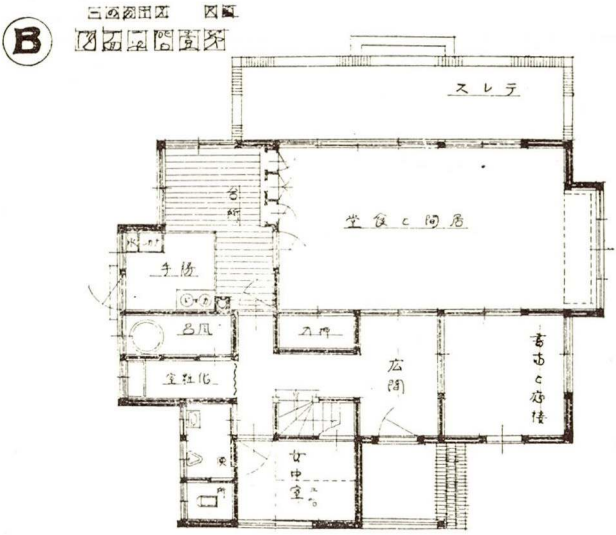


々今日の實際生活により好く適し且つ又容易に採用爲し得ると思はれる部分を二、三加味致しました點であります。

深い軒の出と窓上の庇は外國に例の少ない、あの

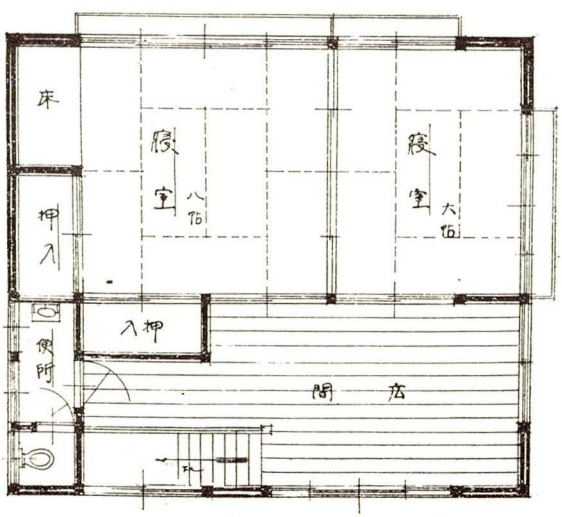
屋内の各處戸障子を成る可く引違にしましたのは部室や廊下の可成切り詰められました狭い場處では開き戸を開閉する度に椅子や卓等が邪魔になりまして、貴重な面積を徒らにスペアーせねばなりませぬ。其不便を避ける爲です。

階上寢室の日本間は疊の上に休養する甘い味を今



急に改められない老人や婦人の爲に殘したので、之も疊を取れば、直ちに寢臺を設置し得る樣な床構造に豫め設計して置けば、洋風寢室に替へるのに何の造作も入らないと思ひます。

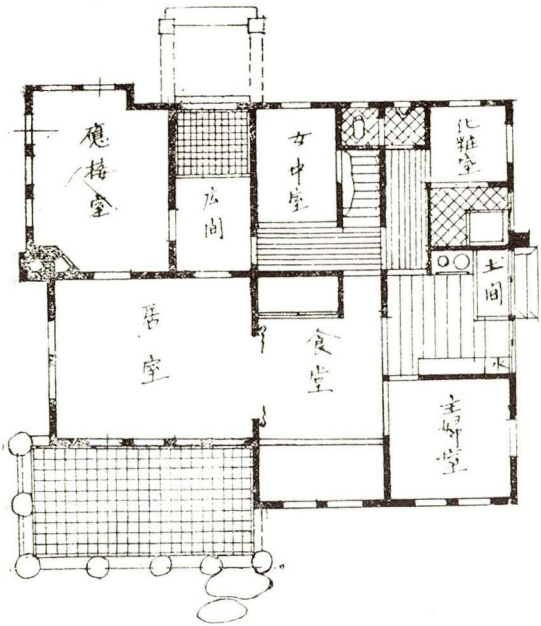
寢室前の廣い廊下に籐椅子でも置き、窓を開放して遠い山や近い庭園を眺め見下せば、外國のベランダーの感じを得られない事もないと思はれます



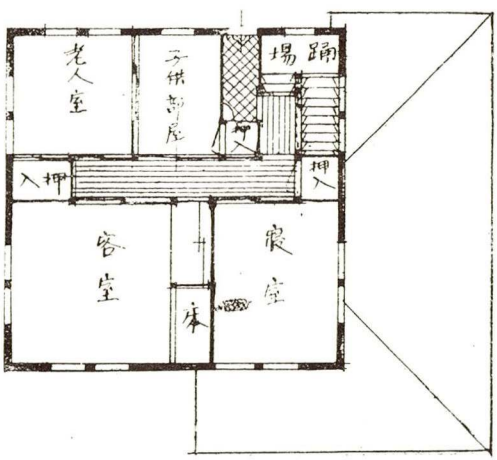
出品住宅に就いての解説

田村眞策

一敷地面積　約百廿坪
二建築面積　二十六坪二五
三建　坪　階下二十六坪二五階上十六坪
四延　坪　四十二坪二五
五構　造
基礎　割栗地形、側廻腰亂石煉瓦積、床束下コン



階下平面圖



階上平面圖

六様

クリート打、壁體　木骨大壁木摺モルタル塗、階上は眞壁板張防腐劑塗、床　洋間は木造板張日本間は疊敷玄關湯殿臺處等タタキ、屋根　千歳青瓦葺、天井　階下洋間は漆喰天井、階上日本間は棹緣、造作押入、出窓、腰掛用疊敷、建具　腰唐戸唐、戸等使用、窓は上下窓、階上引違日本間襖障子使用雜部　ベランダ一ケ處煙突一基

式　獨逸近世式

住宅改造博覽會出品實物住宅の設計に就て

株式會社　大林組

一　A號住宅

住宅の改良は焦眉の急に逼れる國家的重要の問題であつて既に世人は痛切に其必要を感じ、今や翕然として其要求を充たさんと企畫しつゝあるのである。故に建築を業とする技術者又は建築業者たる吾人の職責として、之か具體案を提供し以て住宅改良の指針たらしむることか目下の急務であり又社會に對する奉仕であらうと思ふ是即我日本建築協會の主唱たる實物住宅建設の本旨ではあるまい乎。そこで當組の出品に係るA號實物住宅設計の要旨は現代に於ける二重生活の醇化を目的としたのである……住宅の改造とは必しも破壞を意味するものではあるまい……數千年來の歷史を有する我邦從來の住宅建築を根本より破壞して、風土氣候習慣を異にし且衣食住等彼我生活狀態の全然相違せる歐米住宅建築を、其儘我邦に移植するが如き急進的の改造は、徒らに理想にのみ偏し我國情の實際と隔離すること甚しく、到底世間に實施應用さるべきものでない。故に生活狀態の變遷と推移とに順應し、着々として漸進的改良を試み住宅改善の目的を達するのが、最も穩健な識者の採るべき遥路と信するのである。

晩近文化生活とか又は簡易生活の向上改善に關する世論喧しく、旺に新聞雜誌等に唱導せられ、又は博覽會其他種々の方法により弘く世間に喧傳せらるゝに至りしは洵に結構なることで、誰しも異存あるべき筈なく、吾人も亦人類として天賦の幸福を享有することの最もより多く且其恩惠に浴するの一日も速かならんことを希望するのである……又二重生活の利害は今更論議する迄もなく、經濟上無用の冗費を伴ひ延て生活難の主因たるものであ

るが故に、願くは國民生活の簡易と共に大に其冗費を節し、以て之を資本化することは國家として重要の問題たるは勿論のことである……然れ共如斯理想的大問題は一朝一夕にして解決せらるべきものでない。生活改善の實が擧ると同時に、愈二重生活の廢棄せらるゝ迄には、今後尚幾くとも數十年の『タイム』を要し前途猶遼遠の感を懷くものである宜しく識者の誘掖と國民の自覺とにより、速に其期の到來を希望する所である……現中流階級以上、即ち多數の國民中男子は日常或は洋服を專用するも、婦人及老人等の家族にありては未だ舊來の習慣を脫するに至らず、常に和服を着用しつゝあるが如き、過渡期とも稱すべき現時に於る住宅問題の研究又は解決に就ては、理想と實際其孰れを採るべきや、無論實際を本位とせねばならぬ。凡そ住宅建築は世界各國其構造や形式を異にし、何れも數百年の歷史を有し、幾多變遷の後現今の形狀を構成せられたるものなるが故に、建物の構造は其邦に於る風土氣候習慣の權化であつて、其形式は風俗人情或は音樂趣味審美的思想の發露とも見らるゝのである。又其室内の設備は衣食住の反影とも稱することを得べく、故に各其國の住宅は輕々に之を改竄すべきものではなく、或は現代の要求に沿ふべく其缺陷を充補し、又は科學的改善を加ふるなど、能く其長短得失を考究し、以て實際的に住宅の改良を進むることが本義であると信するものである。歐米住宅建築の直寫は未だ我邦の國情と國民の生活狀態と相去ること遠く、譬へ理想上の名案なりとするも恰も一片の畫餅に過ぎず普く世間に實現せしむること能はざる可し。

要するに以上の見地より考ふれば、吾人の現代生活に適應すべき改良住宅は即ち二重生活の醇化でなければならぬ。故に實物住宅の設計に就ては務めて急進的改造を避け、實際主義を採れり、而して建物の形式及構造は舊來の習慣と國民の美術的趣味を尊重し、日本住宅風となし主として二重生活に對する構造上の矛盾を融和し、又は缺陷を補足し、各室の設備に對しては努めて果斷的改善を加へ、以て文化生活に適應すべき最も簡便なる改良住宅を案出せんことを企圖したのである……願くは大方諸賢の斧斫と指敎とを仰き、弘く世人

の批判を乞ひ、猶進んで改善を加へんことを冀ふものである。以下順を分ち各室の配置及大體の構造を解說し、併せて內容に於ける設計の主旨を簡單に說明致さうと思ひます。

A號實物住宅仕樣解說

一、木造二階建　一棟

階下　四十一坪五合

階上　十八坪〇六勺

延坪　五十九坪五合六勺

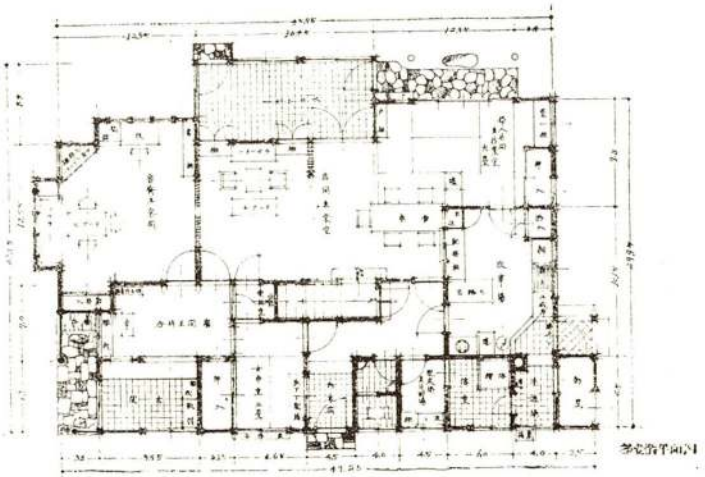
室の種類

（階下）表玄關、內玄關、廣間、書齋兼客間、居間兼食堂、ベランダー、主婦作業室、臺所、洗濯場、便所、階段室、浴室、化粧室、女中室、電話室、押入

（階上）主人寢臺、小供居間及寢室、廣間兼洗面所、納戶兼衣更室、便所、押入、

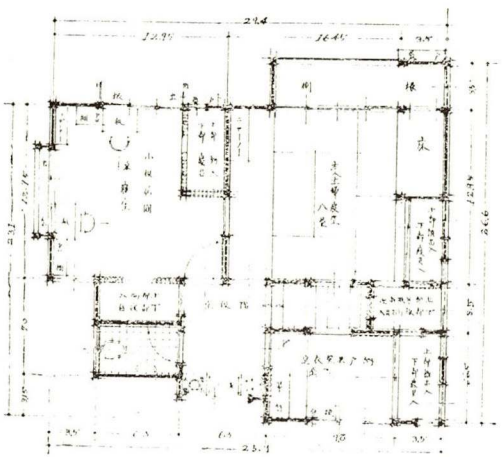
A號實物住宅設計內容解說

一、建物の樣式　住宅改良の實を擧くる上に於て必しも古來の歷史を有する日本住宅の樣式までも根本から改竄すべき必要を認めざるが故に即



A號第一階

ち從來の慣例に倣ひ純日本住宅の樣式を採用し之に清楚なる數寄屋建築の手法を加味し以て優雅なる容姿を保たしめんが爲、極めて屋根勾配を緩くし又雨量多き我邦の事情を酌量して比較



第四圖平面圖

的軒出を深くせり。而して或意味に於る簡易生活の遺物たる數寄屋建築をして現代的に實用化した積である故に、自ら命名して『ジャパニーズバンガロー』と稱す。

二、建物の構造　我邦に於ける中産階級の資力程度と又一面建築費に對する經濟上の關係より木骨の眞壁造を採用し用材の品質撰擇の舊弊を打破する爲め木材には總て塗料を施せり。而して屋根の一部軒先廻りを『スレート』にて被覆し、或は壁體天井等の紙張若くは漆喰の下地に『タイガボード』の新材料を使用せしが如きは、日本住宅に於て從來未だ嘗て試みられざる新手法である。又炊事室及風呂焚場所の周圍を煉瓦積になし且其天井を石綿板張となせしは耐火及防鼠の目的に出てたる改良の要點であります。

三、各室の配置　中流以上の階級に屬する現代の住宅は家庭の安息所なれば其間取は勿論家族本位でなければならぬことは今更申迄もない。然れども舊來の因習は今も猶家庭に於ける公私の來客を絶つに至らざる實情なれば米國などの小住宅『プラン』に見るが如く來客に對する用室を全廢する譯にも行かぬ。さりとて專用の客室を設くるの餘裕もなく否寧ろ主義上から或る程度

迄主客兩室を兼用せしむる積である。而して家族專用の各室も亦兼用方針を採りしは簡易生活を推奬するの主旨に出てたのであります。

(イ)表玄關及內玄關　表玄關と內玄關とを分置せしは前陳の主義に反する樣ですが、舊慣を脫せざる現今の狀態に於ては亦已を得ざる所にして同室の土間を比較的廣く取りしは脫靴の關係を考慮したためである。

(ロ)居間兼食堂及婦人作業室　居間兼食堂の主室は之を中央に置き書齋兼客間と婦人居間兼作業室との兩室を東西に連接し各室をして東南に面せしめ以て光線の射入を豐富ならしめ而して以上の三室間には殊に間仕切を設けず全然開放的たらしめしは設計者の大に留意せし所にして、我邦獨特の良習慣たる一家團欒の情味と家族親和の美風とを培ひ又其反面に於ては家族起居の便を圖り婦人若くは下婢の業務を輕減し以て簡易生活の遂行を容易ならしめんと欲したのである。

(ハ)ベランダー　南方居間に接し『ベランダー』を設けしは歐米住宅の長所を模倣したのであるが保健上『サンルーム』として之を使用する筈である。

(ニ)書齋兼客間及廣間　客間ハ書齋の一部を以て之を兼用せしめ懇親なる來客は場合により居間に通ずることあるべく玄關脇の廣間は客間、居間及女中室に通ずる表溜にして傍ら來客の待合を兼ぬ。其他の各室は家族專用にして全然外來客に對しては沒交涉である。

(ホ)炊事場其他附屬室　炊事場其他の附屬室は總て之を第二位に置き西北又は西南に配置し表裏兩玄關の中間に女中室を挾み裏溜により居間、炊事室、階段、便所及洗面所等の各室に通せしむ。又炊事室は之を婦人居間と食堂とに隣接せしめ下婢作業の指揮監督と食事配給の便を圖り猶炊事室に接近して風呂焚口、洗濯場物置等を配置せしは起居上の至便と作業能率の增進を企圖したのである。

(ヘ)主人室及小供居間兼寢室　主人寢室及小供居間兼寢室は之を階上に設け東南に面せしめ

比較的窓の面積及個所を多くし光線の射入と通風とを充分ならしむ。而して主人寢室に床を附せしは多數邦人の趣味とする愛翫の軸物を賞觀するの便に供したるものにして、且緣側を設けしは歐米に於ける『バルコニー』の使途に代用し寢具干場に充つるの豫定である。又主人寢室に洋服整理室を附屬し或は小供室に押入兼用の『ベッド』を附設せしが如きは一個の創案にして時代の要求を充たしたものであります。

(ト)階上附屬室　其他階上には納戸兼更衣室を置き中央溜の一部に洗面及湯沸所を設け又は洗濯式洋便所を實施せしは衛生的見地より英斷を加へたものである。

(チ)プランの特徴　要するに當『プラン』の特徴とする所は階段を各室の中央に置き直接居間より昇降せしめ且內玄關、炊事場或は浴室等階上との交渉最も頻繁なる數室に接近せしめ一個所の階段をして弘く運用せしむるを得んは家族本位の神髓にして多く一般住宅の『プラン』に見るが如く表溜に階段を設くる從來の慣例を打破したものである。……又單に通行に供する廊下を殆んど全廢し之を必要に面積に代ゆるか又爲めに建坪數を節約せしにも拘らず、各室間の連結若くは交通の便をして遺憾なからしめしは設計者の最も苦心を要せし點である。

四、座式と腰掛式　二重生活の醇化は吾人の住宅改良に對する一大主義であるが故に座式と腰掛式とを併用したのが本設計の骨子である。我邦國民中多數の男子は執務中殆んど洋服を着するも女子の全數は殆んど內外和服を專用するが如き復雜なる現時の狀態なるを以て服裝改善は理想として誰しも希望する所である。然れども女子の服裝改良は非常の難問題にして迚も近き將來に於て實現すべくも非ず、男子の洋服をして日常專用せしめ以て和服を全廢するとは決して左程難事ではない。否識者間には既に其實行を希望する者多きも住宅の構造が之に適應せざるか爲其實現を阻害されて居る傾向である。……

若し仮に家庭内に於ても男子は將來必ず洋服を着用するとせば在來の日本住宅にては主人及男兒と主婦及女兒との起居に於て相方大なる矛盾が起る。此矛盾を融和又は同化するのが本設計の目的とする所である。……要は即住宅にも亦其一部に洋服を着せ其半部に和服を着用せしむれば足るのである。……そこで腰掛式居間と座式居間（兼婦人作業室）との二室を隣接せしめ而して兩室間に仕切を設けず例へば一室内を板張と疊敷とに區劃せし如く腰掛式居間と座式の婦人居間との二室を配置し且其境界に食卓を置き床面高低の差を利用して座腰とも同一食卓に倚るを得べからしめ、主人は洋服にて安息椅子に倚り煙草を燻し、主婦や老人は和服のまゝ其隣席に着座して互に談話を交換し常に家庭團欒の情緒を味ふことを得るのが本設計の特徴であります。其他書齋兼客間『ベランダー』及表裏溜等は用途の關係上腰掛式になせしも主人寢室更衣室、女中室は從來の習慣に倣ひ疊敷とせり。……又我國民の服裝改良は理想として豫て贊意を表する所なるが故に、總て小供は男女の別なく將來必ず洋服を着用せしめ漸次全般國民に普及するの主義から、小供室は特に腰掛式になし『ベッド』を設けたる所以なり。

五、室内設備　室内の設備に就ては新時代の文化生活を滿足せしむる爲め科學的最新智識を應用し完全なる設備を施せり。

（イ）家具及裝飾　腰掛式の各室の周壁は紙張り又は色漆喰仕上になし、窓入口等には『カーテン』を釣し、色彩又は模樣等日本建築の樣式と調和すべき品質を撰み、其他家具、戸棚等各室の使途又は其性質に應ずべき適良品を撰定せり。

（ロ）炊事場設備　炊事場には食卓と接近せる壁脇に配膳棚を設へ猶其上下に戸棚を設け、而して牖上の小窓により食品の出入を司る。又上下の戸棚には食品及食器を格納し食堂と炊事場の兩方より出入せしむるの裝置となせり。……其外創案の米櫃、酒樽庫、冷藏庫、床下貯藏庫、物品棚又は調理台、釜及七輪台

等を附設し其棚下は之を物入れに利用し其他流しの構造など歐米住宅の『キッチン』を參酌折衷し以て台所設備に大改善を加へ用器具又は食品等科學的整理をなす積である。

（ハ）暖房　『ヒーチング』は小住宅に適當せる簡單なる『アルコラァ』を採用し之を炊事場の一隅に据付け、居間はストーブ形飾棚中及食卓下の床内貳ケ所、客間はストーブ形飾棚中一ケ所、階上主人寢室は飾戸棚中一ケ所に『ラヂーター』を隱蔽し小供室は之を露出し『ホットウヲター』を送り各室適度の温度を保たしむ。又炊事室の一隅『アルコラー』に近接して圓筒形の『タンク』を据へ暖房用の『ホットウヲター』をして此『タンク』内を通過せしめ更に温湯を沸し、之を浴槽浴室臺所流し又は階上下洗面所に供給す……『タンク』の故障若くは夏季暖房鑵を使用せざる場合は、單獨に風呂を沸すべく、浴槽には更に在來の釜を浴槽に取附てある。

（ニ）電燈及電熱　燈光用としては總て電氣を用ゐ、引込線により各室内に配線し、室の大小に應じ一室に一燈乃至三燈『ブラッケト』若くは『サンデリヤ』等の器具を取付け、其他扇風機又は七輪用電熱の『スイッチ』を適所に配置せり。電燈器具は日本建築に調和すべき最も簡素なる品を撰み、猶電光の直射を避ける爲め多數『グローブ』を用ゐ、中には斬新なる專賣品をも試用せり。

（ホ）給水及衛生、排水　建物西北の道路に水道本線伏設しあるにより、之より適度の内徑を有する支線を分岐し、曳込線となし之を又分岐して各所に給水す今其個所を擧くれば、玄關脇洗靴場、階下便所三ケ處、洗面所、浴室二ケ所、洗濯場一ケ所、炊事場二ケ所、階上厠二ケ所、階上洗面所及前庭等である。

又淨水の排泄は前項に擧げたる室内の各所より適度の内徑を有する鉛管若くは鐵管にて之を支線に合併せしめ、敷地外の排水溝に接續せり。

階上便所は洋便器を、階下便所は和風便器を用ゐ何れも洗濯裝置になし、排便導管により

構内に於ける濾過槽に導き殺菌をなし然る後構外排水溝に排泄す

二 B號住宅

住宅改造博覽會に出品すべき住宅は必ず『改造されたる』意義條件を具備すべき事は論を俟たないが、改造されたる住宅とは如何なる住宅を意味するかと云ふに、現在に於ける吾人の生活狀態を改善して文化的生活に平行し得る凡ての條件を滿足せしむる住宅と云ふに過ぎない。

今茲に文化生活の意義を論ずる餘裕は無いが、住宅は如何なる點に於て文化生活と平行せしむべきか建築は既に單に材料の加工構成に止らず、他に審美的意義を有するものなる以上、輕々に建設さるべきものではない。特に住宅は日常吾人に最密接にして離るゝ事の出來ない關係があり、住宅の良否が如何に吾人に生理的には勿論精神的にも重大なる感衝を與ふるかは今更贅言を要しない。要するに改造住宅は決して贅澤と浪費とを意味するものではない。又科學的智識の應用や審美的手法の施工も或程度に於て滿足すべきもので、個人の人格、經濟及家族の狀態等の社會的に相違のある以上、住宅に對して一定の規約を設くる事は不可能と云ふてもよい。要は文化的意義に悖らざる事が改造住宅の根義であろう。

吾人は住宅の改造さるゝと同時に生活其ものが眞の意義ある文化的に改善されん事を望んで止まない。

B號實物住宅仕樣解說

一、木造二階建　一棟

階下　二拾九坪〇三勺

階上　二拾六坪九合九勺

延　坪　五十六坪〇二勺

室の種類

(階下)玄關、廣間、居間、應接室兼書齋、食堂、階段室、臺所、女中室、浴室、便所、廊下、押入

(階上)日本座敷、小供室、寢室、廣間、物置、便所、椽側、押入

B號實物住宅設計の大體方針は

一、構造の堅牢にして工費の廉なる點より西洋式構造を採用せり。

二、外觀に於て成るべく裝飾的分子を省略し、必要の窓、入口等の配列案配によりて誇張を避け自然的手法の中に西洋建築の妙味を發揮せんと勉めたり。

三、室内の裝飾は應接間、居間、小供室等に於て多少の裝飾的手法を施したれ共、其他の室に於ては自然的手法の儘に依せり。

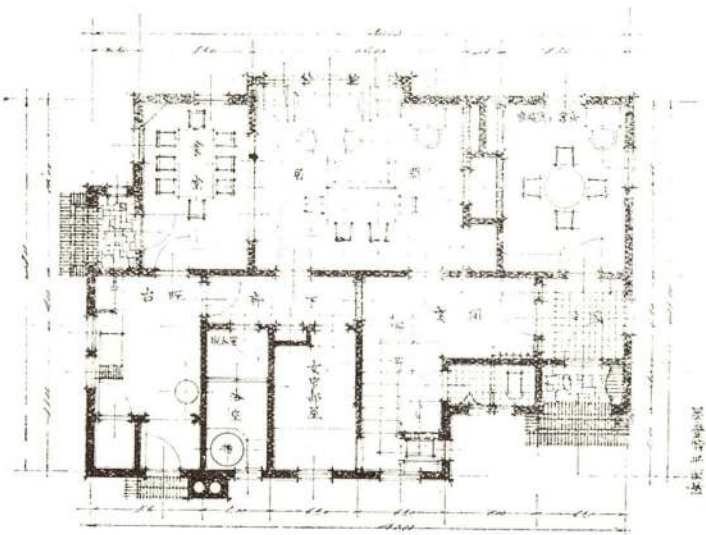
四、水道、電燈、暖房、家具、窓掛敷物等の設備を完備せしむる點に於て吝なるものに非ず。

五、此家に住居すべき家族は夫婦、子供三人、女中一人を最適當とし、二階十帖の座敷は數名の來客に對し、或は病室に或は來客の寢室等に充つべきか。

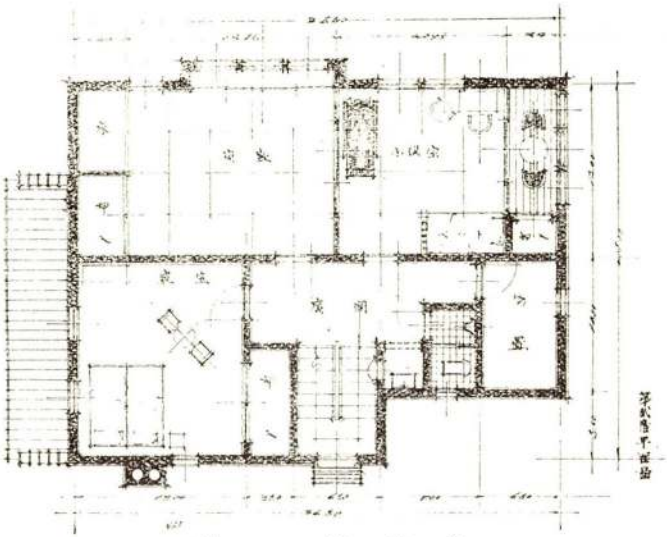
以下各部に亘りて說述せん

一、基礎　外壁及間壁土台下は布堀『コンクリート』打ち煉瓦積とし、外側腰廻りは鼻黑煉瓦化粧積とせり。

二、壁體　木造木摺大壁式とし、間柱は米松四吋



B 號第一階



B號第二階

二吋を四尺に付三本の割合に配置し柱、土臺、胴差、敷桁等凡て同材二丁合せのものを使用せり。外壁は防火の目的を以て間柱へ大貫筋違打の上、平瓦を張り『スタッコ』塗仕上とし、内部は本摺漆喰壁、居間、應接室、寢室、小供室、食堂は各室に應じ適當の壁紙張りとし、浴室壁腰廻りは人造石塗各便所壁腰廻りは化粧『タイル』張り仕上とせり。

三、床　二階床構造は『シングルフロアー』とし米松九吋×二吋を約一尺三寸間に配置し階下床は根太大曳等普通の手法に從ふ。玄關の床は自然石敷き及『タイル』張り便所床は『タイル』張り浴室床は人造石塗、臺所床は『リノリユウム』敷き二階客間、小供室及女中室は疊敷とし其他各室は米松柾板化粧床板張りとす。但し小供室、居間及廣間等には更に適當なる敷物を敷きたり。

四、屋根　小屋組は米松十吋×二吋を合掌に組み合はせて、間柱と同一間隔に配置し陸梁は米松六吋×二吋を用ひ天井釣木受兼用とせり。本家は方形造り下家下流れとし北陸産耐寒赤瓦葺き

とし屋根勾配は四吋五分軒の出二尺二寸とす。

五、天井　居間、小供室女中室天井は『タイガーボード』張りの上『ペンキ』塗仕上とし、二階客間天井は竿縁板天井張り其他各室は木摺漆喰塗天井とし『アラバスチン』色付仕上とせり。

六、造作　造作材は主として米松乾燥材を使用し各窓、入口廻り額縁仕舞、壁は巾木仕舞とし、居間、應接間、小供室壁には化粧框を張付け、二階客間は化粧柱建て長押廻しとし、同所床柱床框落し掛け等總て米松乾燥材を使用せり。

居間、應接間兼書齋には書棚を取付け、臺所には所要の棚戸棚、流し、冷藏庫を設置す。

小供室の押入は寢臺兼用として下部抽出し付上部戸袋とせり。居間、客間、寢室、女中室には夫々押入を附屬せしめ、廊下には小押入を設け下駄、鞭、傘及掃除道具を入るゝに便ならしめたり。

室内本部は全部『ペンキ』塗仕上とし、壁紙を除く他壁及天井は漆喰の上に『アラバスチン』を塗り適當なる色付をなす。

日本座敷の本部は『オイルフラテーン』の色付をなす。

七、建具　建具材は全部米松乾燥材を用ひ、凡て機械製とし大林組本工部の製作品を使用す。

外部窓は外開き硝子障子建て、各出入口は唐戸及腰唐戸とし日本座敷には襖及紙張り障子を用ひたり。日本建具を除く外凡て『ペンキ』塗仕上とせり。

八、雜部　風呂は失火の憂無き長州風呂を設け、飯焚釜は煖六竈を据付く。各室の燈火は電燈とし居室、食堂、書齋、小供室、寢室、客間には電燈の『スタンド』及旋風器に對する用意をなせり。

暖房は輕便なる『ラヂイオ』式濕水暖房とし、汽鑵は居間に据付け暖爐の代用に供せり。

各便所は洗滌式とし、西原式淨化槽を設く。其他臺所及各手洗場、浴室には水道及排水の設備を爲せり。

各室の換氣は特に注意して換氣孔を設けたり。

各室の家具は住宅の最重要なる要素の一なるを以て、周到なる設計の基に配置したり。

九、様式　『コロニヤル』式

備考

一〇、各室の配置は大體西洋式なれ共、浴室、女中室等の配置は在來の習慣を參酌し、且階上に日本風敷を一室設けたるは頗る不徹底の觀あれとも、現在の生活に於ては全然疊敷きの室を棄つるに至らず、近き將來に於て全く腰掛式生活の實現さるゝ場合には各疊敷の室を板張床に改造する事は容易である。小供室の床は疊敷きの上に更に敷物敷きとなしたるは、一見蛇足の觀あれとも、小供丈は必ず椅子生活をなさしめんとの主張にして、又疊敷きとなしたるは室の廣きを要する場合十帖間と小供室の界の襖を開放し一室とするときの便に備へたるに過ぎず。

階下應接間の入口を玄關に直接設けたるは客をして土足の儘の出入に便ならしめんとの意に外ならず。

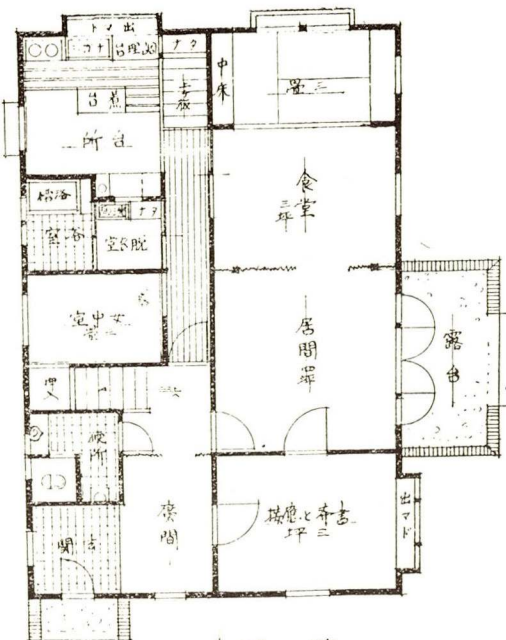
▲萩の花追々こけて
　盛かな

▲七種の花の夜明けや
　渡り鳥

（秋）

住宅改造博覽會出品櫻ケ丘住宅概要

甲號　階下二十三坪八七五階上十五坪五
　　木造二階建（六寸五寸一間々）
乙號　階下二十四坪階上十四坪
　　木造二階建（　同　）



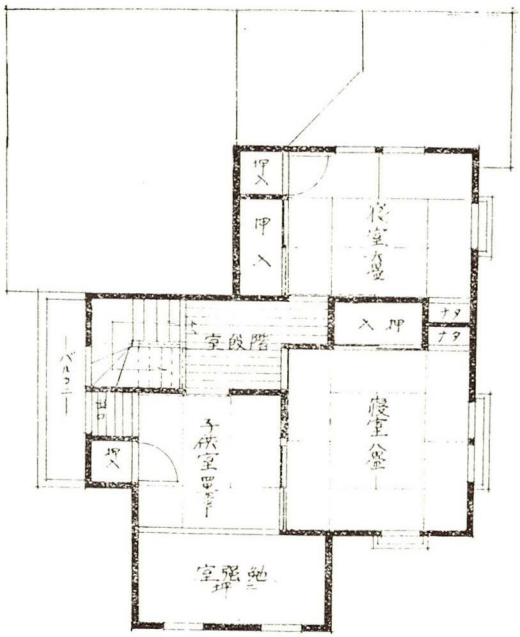
片岡建築事務所

一、根石廻りは凡て煉瓦積の外向を人造石で塗り其上に土臺を据へ、殆んど半間毎に米栂の柱建て内部廻りは凡て眞壁式で外部は全く黃褐色のモルタル塗り、屋根は赤瓦葺外部に見える木部は悉皆ペンキ塗りの外觀は洋風内部は折衷の家屋である。

階下には玄關室、書齋兼應接室、居間、食堂、女中部屋、便所、浴室、炊事場、階上には子供室兼勉强室、寢室と家族寢室が二室で各室内階下は大部分床が板張りにして洋家具を備へた洋風設備、階上は全く疊敷きの和風（階下食堂の一部及女中部屋は疊敷き）の構造である。

一、書齋、居間、食堂、床はウオーク床板を張りラック塗りに仕上り壁腰約高六尺廻りをビーバーボート張りの上、殊特の色ペンキを叩き塗りにして腰以上は壁紙張り、天井は木造格子天井とし格子の間はビーバーボードの色ペンキ仕上

（甲號）



け、柱其他内部の面には木部は下地多少の色付をした汚損止めの塗料を施し、側窓を全部外雨開の硝子障子を嵌め込み、各室出入口は鹽地上等の唐戸を釣り込みたる折衷式の洋風設備の各塗である。

浴室床は『タイル』敷き腰廻りを『カラ、グラス』（純白硝子）板を張り、浴槽は槇製日本風の箱風呂を据へ、便所床腰共『タイル』敷便器は陶器上等品で水洗所式の設備。

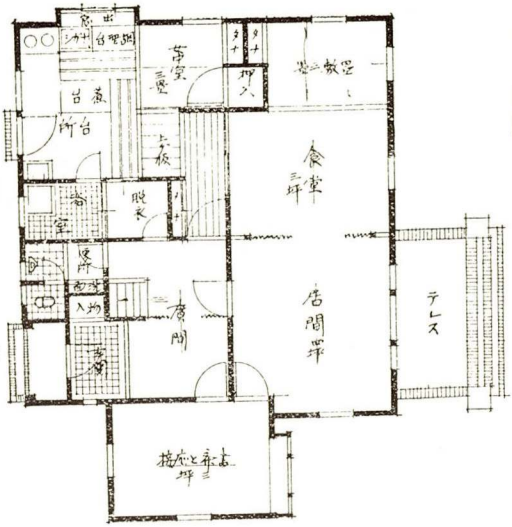
炊事場床は人造石洗ひ出し塗り、流し廻りは人造石塗りにして下部に冷藏庫物入の設備あるもの、竈は特別製薪を使用する心組み、最も煙の炊事場に漏るゝを防ぐため竈の處は一つの室とし、硝子建具を以て仕切り、煙の室外排泄をなす目的のもの、食料品棚及食器棚等は、成可『カラ、グラス』を使用組み立てたる戸棚にしたき考へ。

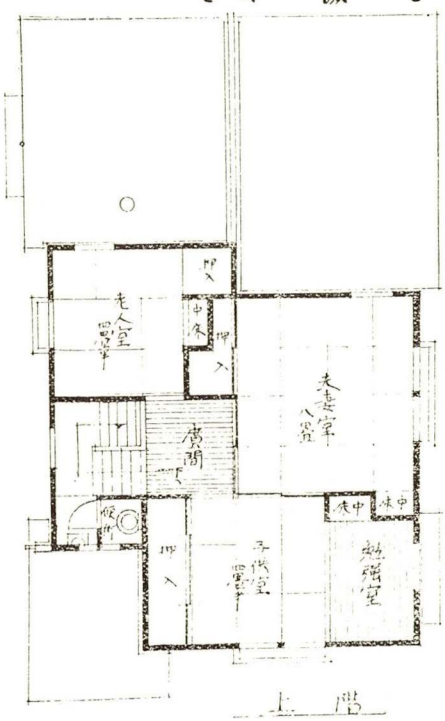
二階の子供室各寢室は全部疊敷き眞壁上塗りには日本流の砂壁仕上げ、天井は杉柾の竿渡天井、但し側窓は外雨開の硝子障子を嵌め込み引窓の各下部は全部引違の風通し窓を設けたる殆んど日本間氣分の室である。

暖房設備は階下書齋居間食堂階上寢室の各室を夫々暖むる樣溫水式の暖房を設備し、炊事場の一隅に汽罐を据へ、傍らに暖房使用中は物洗ひ洗濯用の溫水が得らるゝ樣に設備し、尙各寢室

の側窓は、硝子を凡て冬期に於ける外の冷き傳導を防ぐため二重に障子を釣り込む考へ。夜間の採光は凡て電燈で各室夫々自由に點滅の出來る設備。炊事場、浴室、洗面所等の凡ての場所は夫々水道管を配置して櫻ヶ丘上地の本管に接續さるゝ目的。

（乙號）





住宅博覽會出品建物の概要

横川工務所　横川時介

建物總坪　六十坪

一、一階床　二十七坪餘外にテレス五坪五合

二、二階床　二十二坪餘

三、屋　階　十一坪

本建物は本造洋風建其の配室は左の通り

一、一階、玄關、應接室、客室、食堂、勝手口臺所、女中部屋（日本式）便所、階段室及テレス等なり

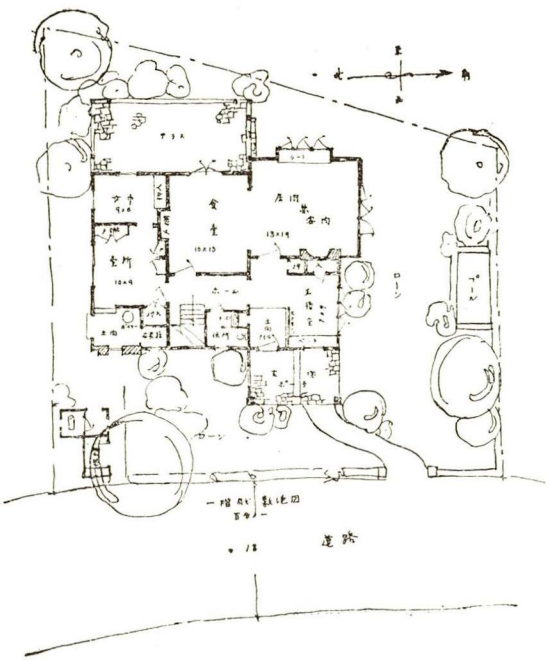
二、二階、寢室二室、書齋、椽側、化粧室（日本式）、浴室及階段室、物置等なり

三、屋階、物置及貯水タンク室等なり

設計の要旨

女中一名の豫定にして家庭本位衛生的簡易便利なる生活を旨とするため、化粧室及女中部屋のみに疊を用う階下玄關廣間の一部に應接室を設け居間は親しき來客のみの客間として用ふ。食堂との入口を引戸とし、比較的廣き感じを與へ、且硝子戸を引く時は來客の時にても食事を爲し得べく、又居間、食堂、臺所より來る臭氣を防ぐ爲め直接入口を設けず、廊下より出入す。臺所は便所と共に最も清潔なるを旨とし、腰廻りを白色タイル張り天井は漆喰塗とし、且臺所を心地善き主婦の働き場とする爲め、壁及棚を水色或ひは淡きオレンジ黄色とし、洗ひ易きカーテンを引く。臺所設備は二つの大きな硝子張棚を設け日常用食器具及賄用器具を入れ、テーブル及オブンを用ふ。冬はオブンよりの暖氣をもつて室内暖房を助け夏は電氣器具により炊事をなし、室内の火氣を滅ず。棚の外に食料品の押入を設け鑵詰及冷藏庫を置く。

二階寢室は寢臺を置き、南側ベランダは板張床なれども、都合により五六寸現在の床より上げ、疊



敷とせば寢る前のやすみ所、衣服たゝみ所、及び主婦の裁縫場ともなるべし。他の小さき部屋は寢室或ひは書齋何れにも居住者の望に任す。各室共に大なる押入を有す。

化粧室は純日本式壁及疊敷きにして、湯殿は床及壁を防水タイル張とし、日本式湯槽、暖水、冷水シャワーを設く。其の一部窓脇に洗面器を置き、直接廊下より出入するを得。アチックはタンク室の外全部を物置としたるを以て、戸外物置は比較的小さく漬物等の雜物を置くのみに止む。

構造の概要

(一)地礎

地盤は一般にコンクリート造とし、外壁の脚部にコンクリート、内壁の床下に煉瓦積を施し、木部の接觸する部分にマルソイド、ダンプコースを敷く。

壁体

一、壁体の骨組は米栂材を用ひ、建物の要部に角柱を用ひ、他は同材を以て米國式構造に據れり。

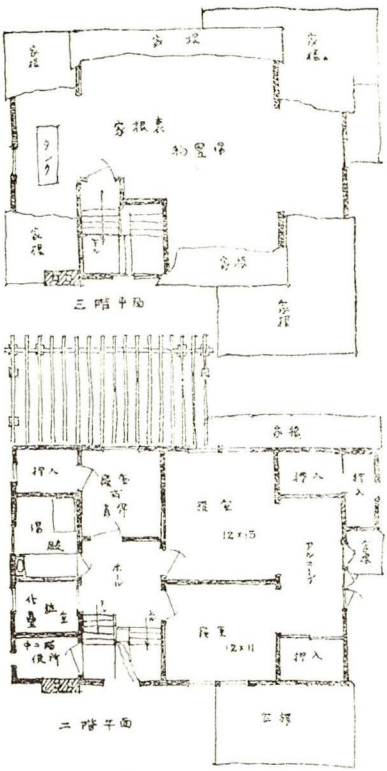
二、外部の壁面は先づ全面を板張とし、之れにP&Bフエルト試號品を張包み而してモルタル壁の下地となる木摺と前記のフエルト面とに間隔を置き、壁下地を施しモルタル塗を行ふ

三、内壁は客室、食堂及階上の寢室等の壁及天井はタイガーボードを貼付し、其他の壁面は漆喰壁、總べて其表面に仕上塗を行ふ。

床、

一、床は單式床の骨組とし各室及廊下等は下地床に米松上床に檜板を用ひ二重床とし仕上塗をなす。

二、上の浴室及便所等木製の床上に防水層を貼付しタイル敷とす。



三、臺所はコンクリート床とし上部に檜製のブロック板をモルタル据とし其の他の土間床はタイル又は石敷とす。

屋根、

屋根は米國式の骨組としコルソイドを貼り青色スタツコート塗セメントタイルを用ふ。

窓入口

各室窓には硝子戸の外虫除及シヤッターを附しペンキ塗とす

特種設備

一、暖房及給湯

各室には温水式放熱器を設備す。又階上の浴室及各所洗面器に至る温水は前記温水罐を供用せしむ。

二、電力及び電燈

電燈配線チューブ式晝夜線とし客室及其の他の各室に働力配線の引込をなしたり。

三、給水

給水は屋階上水槽を設けこれより給水鉛管を各室に至らしむ。

四、便所

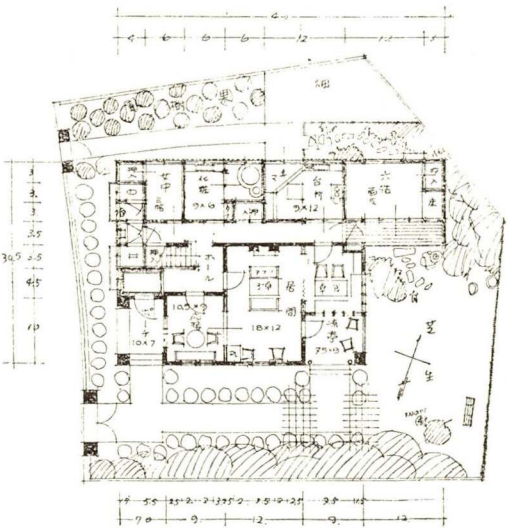
便所は階上下共總べて水掃式とし汚水は之れを淨化して外部下水へ排泄す。

五、家具及什器

各室及臺所等には適當の家具及什器を備付す。

わたしの出品した實物住宅

株式會社　あめりか屋



FIRST FLOOR PLAN

此家の、プランニングの方針と云つて、別に新らしき、創意も何も無い。只無暗に改造〳〵と稱し乍ら、事實は得失全然相反する和洋の樣式を、無鐵砲に混合して、すましてゐる樣な住宅は、目覺めたる現代人士の到底滿足し得ない所であらう、日本人の生活樣式が、或安固なる基礎の上に打建つの時即ち住宅も理想に近いものとならう。

遺憾乍ら現在の一般的住宅としては、尙彼が長と吾の長とを併用せなければならぬ。

尙一歩を出て純洋式に耐え得るの人は、本設計の日本間を洋間に改造して住ふべく、改造は何等面倒なる手數を要せぬ筈である。

エレベーションに到つては、プランに比し彼之の歩寄り遙に容易である。

本設計は此點に於て、大膽に進んだ心算である、扱て、プランに就いて小記すれば、一直線に南北を仕切つて、南を洋、北を和とし、全然兩式を分離併立したるは、所謂改造住宅の陷れる虻蜂の難

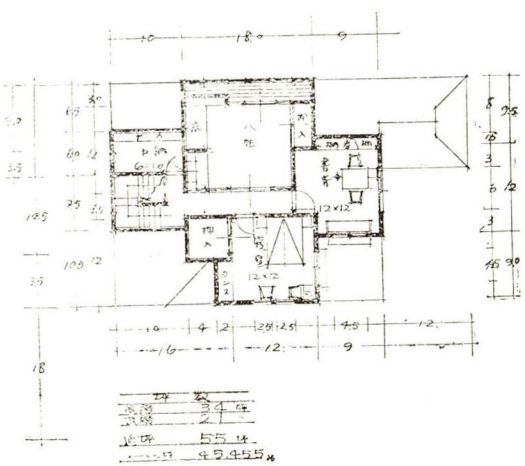
を免れ、却つて清新の氣を覺ゆるのである。

應接室、居間、食堂、ベランダ、皆東南に據り、廣き洋式庭園に臨み、冬温暖なるは勿論、夏期、西よりの清風一直線にベランダに吹き拔ける快味を思へ、殊に西日はポーチに仍つて、完全に遮ぎられるであらう。

應接室は人に仍つて小供室に變更するも差支へない、六帖の間は、最も碎けた室であり、茶の間に宜敷く、老人あらば、老人の間にして理想的であらう、此室の北庭に風雅なる垣を廻らして、大和民族の床しき趣味を盛るべく、垣の外は郊外住宅に無くてならぬ野菜畑を取つてある。

二階八帖の間は、主婦の裁縫に、令嬢の彈琴に、來客の寢室に、用途は中々に廣い。書齋は東南に面し、東窓幽邃なる池が、森を背にして眺めらるる。寢室は、朝日と南の光線を充分に受入れ、物置は其儘暗室となる。

尙詳しくは、實地に就て研究せられん事を希望して置く。



SECOND FLOOR PLAN

改良住宅設計に就いて

株式會社　鴻池組

『住宅の改良』と云ふ語はよく聞きますが此は今日の様な煩雑な社會的生活をしてゐる日本人の心からの叫びでせう。此の煩雑な二重生活から免れてより簡便で愉快な且安値な住宅を建て所謂文化的生活をすることは誰もが財の有無に係はらず望んでゐることゝ思はれます、併し登山するにも一歩〳〵が大切であると同じ様に住宅も漸進的に改良しなければなりませんと思ひます。

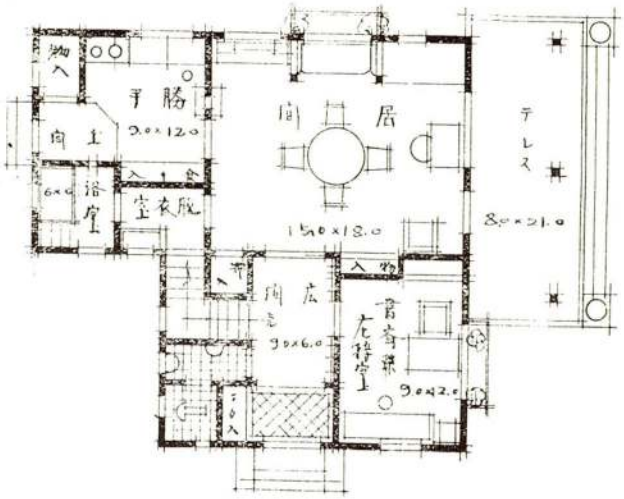
此の目的に進む爲の第一歩として此に住宅博覽會が開催されることになりましたので我社も平素より希望してゐました住宅改良を世に宣傳(?)をする爲に此所に實物住宅を出品することになりましたから此の所謂改良住宅の設計に關する要旨とでも云ふ様なことを簡單に說明致します。

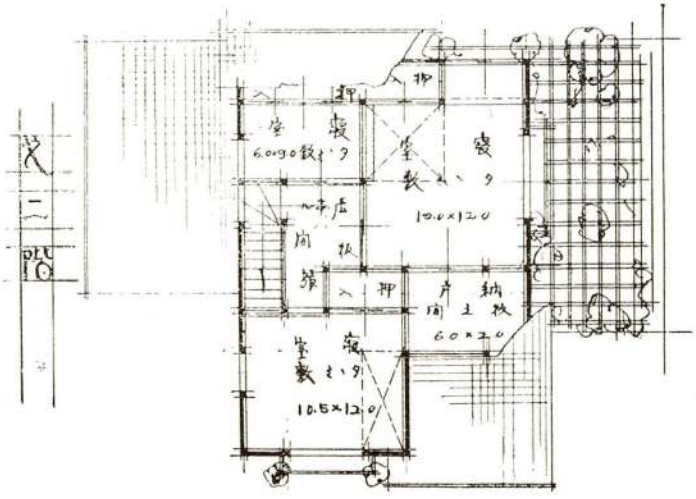
一、此の設計の第一の特色は居間中心主義をとつたことであります。即ち居間を廣くとつたことは十分に明るい愉快な氣持を味ふ爲であつて比較的新しい空氣を吸つた所謂近代人はもう牢獄の様な窮屈な家にはアキ〳〵してゐると思ひましたからです。

一、此の住宅は主人夫婦小兒二名女中一名計五名位の家族に適する様に設計されてあります。

一、階下の各室は何れも洋風になつてゐます。此は各人の動作を簡便にし且十分愉快な心持を味ふの爲です。

一、階上を日本座敷の疊敷となつてゐます。此は在來の習慣上寢室として用ふるには此の方がより多く沈着く様に思はれますし又純洋風の寢室にしますと暖房設備を完全にする必要があり又夜具から更へなければならないからです。特にベットを用ひ様としますと此の疊式の室に折疊み式ベットを用ひますと極便利だろうと思ひま


物入
手洗
3.0×1.2
主寝室
6×4
浴室
脱衣
間居
15.0×18.0
テラス
8.0×21.0
床の間
3.0×6.0
書斎兼応接室
3.0×2.0
1.0入


押入
寝室
6.0×9.0
寝室
10.0×12.0
廊下
階段
納戸
押入
片納
主寝室
6.0×2.0
寝室
10.5×12.0

す。又純洋風にしますと全く廣くない室をベットの爲に狹べられて此の室を他の用に用ふることが出來ない樣に思ひますし又夏季蚊が多い爲蚊帳をつるに便なる爲です。

一、外は純洋風ではないけれども此に殆ど近いものにしましたのは耐寒的にする爲です。

一、內部の裝飾は淡白を旨としましたので多少階下の樣式も純洋風でなく日本趣味をとり入れて面白味のある愉快なものとしました、階上は純和式であります。

一、圖の樣に室を配りました正面入口の突當りが居間で廣間との間は平素は通常の大きさの出入ですが必要に應じて四尺迄擴がる樣になつてゐます。廣間の南に書齋兼應接室があります。居間に臺所、脫衣室、廣間等に直接連絡してゐます、椽側代用のテレスはフレンチケースメントで居間から出られる樣になつてゐます。夏の夕螢飛ぶ頃此テレスの藤棚の下で遠くの山を眺めて涼風を專にしたらさぞ心持よいことでせう。

一、此の樣な家が綠の屋根と赤褐色と少し色ついた壁を持つた此の樣な家が紅葉深い櫻井に建てられた時に靑く澄んだ空、遠山にかゝる紅の色と相待て一種の美しさを又面白味を與へることでせう。

秋

芋喰うて芋の狂歌を詠まれたり

村の祭りの道造り居る

住宅改造博覽會出品住宅に就いて

合名會社　大阪橋本組

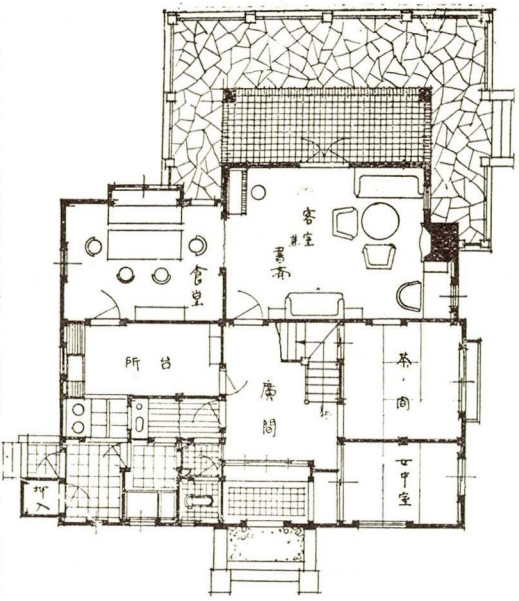
方今住宅問題に關して一般人士の之れに對する注意と研究とが益々濃厚になりつゝある矢先に東京平和博に於ては文化村住宅として世人に一層眞面目に之が研究の動機と範例とを示され、今又日本建築協會主催の下に住宅改造博覽會を開催せられ住宅改造の範例を世に示さるゝ時實に機宜に適じた社會的事業にして主催者の勞を多謝す茲に當會出品住宅の設計概要を說明して實物參觀せられたる各位の御批評と御指導を御願ひ致します。

一、無駄のなき家――本住宅は僅少の建坪の中に出來る限り多くの要求を滿さんとした實に無駄のなき家とでも申しませうか、例へば玄關土間の下駄箱の上部は女中室の押入に利用し、又臺所配膳室の腰羽目を一寸引出せば腰掛となり、食器及食器棚の戸を展開せば食卓となりて一寸した食事の出來る樣にした。又住居として如何程有つても足りないのは押入物置ですから本住宅に於ては屋根裏全部を物置として利用出來る樣にしました。其の他階段の下部と云ひ凡て平面的のみならず立體的に利用の出來得る限り利用いたしました、つまり無駄のなき家かと思ひます。

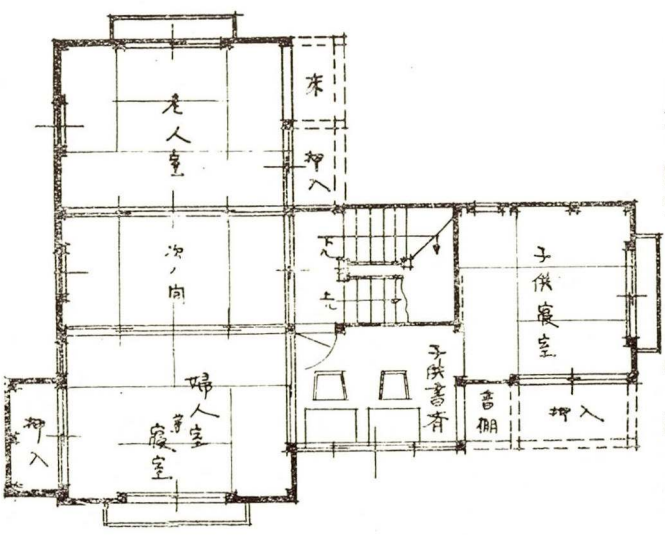
一各室のプライバシイー本住宅の廣間は各室に通ずる樣に配置いたしましたから各室のプライバシーは充分保持し得る事と思ひます此の點が日本在來の住宅には最も缺けて居るかと思ひますから特に留意して各室の配置を致しましたつもりです。

一、椅子式と疊式――現今の日本住宅として全部椅子式とする事も考へものと思ふ又全部疊式とする事も不便の樣ですから本住宅は椅子式と疊式とを併用いたしました。即ち臺所、食堂、書齋兼客室、小供室等は椅子式として其の他は多年の習慣上疊式が適當せるものとして凡て疊式といたしました。

一方位と眺望――主要なる室の方位と眺望に留意して書齋兼客間の如きは東南の方位に配置し東側にはベランダーを設置して四季を通じて長閑なる氣分を味ふ事が出來る樣に配置いたしました。其の他食堂は東北隅、臺所は北側等何づれも其室の用途に適應した方位かと思ひます。階上は大概疊式の肘掛け窓には四季種々の盆栽を置き又眺望もかなり出來る事と思ひます。



二階平面圖



一衛生設備――各室の採光と通風とは出來る限り注意を拂ひました。殊に書齋兼客室にはファイヤープレースを設備して冬季の寒き日は一家族ファイヤーサイドに於て談笑するも亦愉快な事と思ひ

ます。尚ほ浴室化粧室便所の如きは成るべくタイル張りとして清潔にし得る様且つ便所は水洗式を採用いたしましたから居住者に至極便利で衛生的かと思ひます。

一、構造と外観――本住宅は木造外部洋風にして木摺壁モルタル塗りで特種の仕上げ法を用ひ屋根は和洋折衷の氣分を表はし極めて輕快な住宅にフサはしい様式を撰びました。内部は眞壁又は木摺壁等各室に適應する様色彩施工等種々取捨して仕上げました。

秋

△むしり來し園のさゝげや長短

△夢の間や茄子大きくなりにけり

出品住宅に就いて

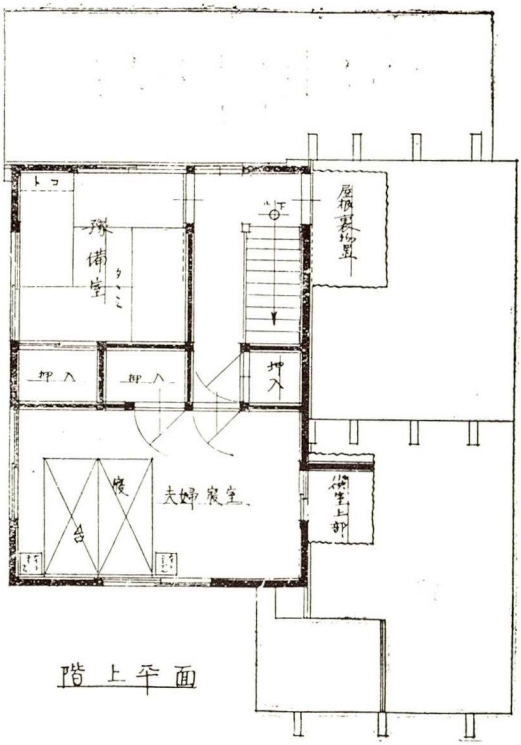
眞水三橋建築事務所
主事　久保田繁亮

一、敷地面積　九十八坪五合
一、建　坪　二十一坪五合
一、延　坪　三十一坪一合

住宅改造の主眼とする目的は『現時に於ける吾人の實生活を改善する意味に於て最も完全に其生活に適合せしめる』といふ點にあらねばならぬ。而も全般的に見て、先づ第一に是が適應を都市現時の實生活に望み、且つ實行し得る可能性を持つ者は、所謂無資產乃至は夫れに近い中流智識階級者の多數に違ひない、此意味に於て、此等所謂中流階級が其實生活に直ちに實行し得るものは換言すれば住宅改造の機に先づ第一に著手さる可きものは、諸種の點よりして其日常生活に要する最小限度のものたることを要し、建築費の節減を旨とするは勿論、樣式、構造、設備に於て、日本のもので西洋もののでもなく創意されたもので、而も尙其居住者を人格的により良く生す意味に於て、其當を失しない底のものであらねばならぬ。

こうした主旨から、今度の吾事務所の出品住宅は生れ出た。從てプランニングの上に見てゝ別圖の如く、是非必要な室丈けは置いたが縮め得る限り縮めつめた積りである。

居間兼食堂に一帖の疊敷を椅子の高さに設けたことは老、人の食卓に着く時の座席として、又主婦の裁縫の場所として便利であるばかりでなく、其床下全部を『引出し』にしたから種々の點から可成便利に使用されることゝ思ふし、階段下の空隙を利用して食器棚及び臺所戸棚を設け、其中央に窓を開けて配膳棚を備付けたのは、成可く無駄な勞力を省き凡てを簡便に運用せしめたい考へからの試みである。ベランダーは在來の椽側の趣味に於て吾人にとつて是非望ましいものであろうし、



階上平面

子供室は玄關に近いから、出入りに便利で、尙出入りには居間を通る事にしてあるから、監督の上からも便利であろう。且西を除いた三方に窓のあるのは、衛生上良い事と思ふ。臺所は舊習を脫した炊事設備にしたから、面積が狹くつてすんだし土間から風呂を焚く事も出來、西北隅の物置は狹いながらに何角と便利な事と思ふ。居間から浴室に通ずる廊下は壁にハンガーを取付けて脫衣の用に供し、浴槽は長州風呂を使用し便所は大正便所とした。

二階の疊敷四帖半は來客の宿泊する習慣を持つ現持の我國では、止むを得ざる最小限度の豫備室で、或は必要に應じ老人を寓し、出産時其他特殊用途に當て得る等、殊に調法に使用し得る事と思はれる。尙吾人の捨難は趣味の上から織部床として床の名殘は止めて置いた、夫婦寢室の北面の壁に特に窓を開けたのは、子供室を瞰下し得るための設備で、葺卸し屋根の一部を少し上げて物置を設け、混雜勝な雜種物品の整頓の途を講じた。

軸部の構造は、どう云つても我國土で永い間に發達して來た眞壁式を捨てる事は出來ない。經濟の上からも工程の速かな點からも、此種の建築にピツタリ適合すると思ふ。

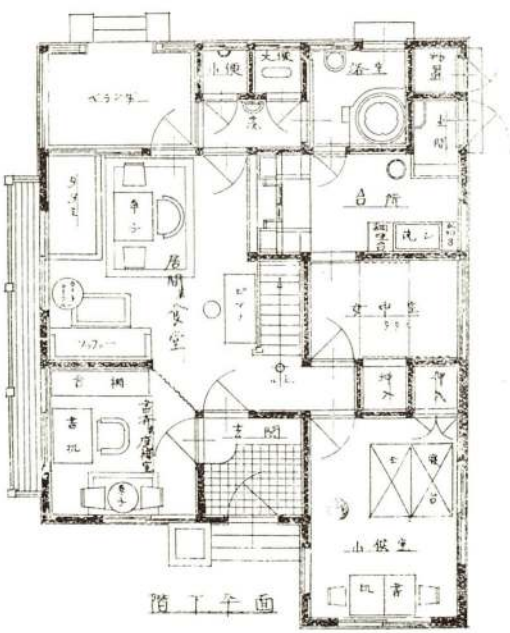
內部は色調に重きを置て仕上げたから、窓掛や敷物等と相俟つて眞壁にも捨難い趣きが保たれて

居るし、階段も和風にして見たが、相當に體裁は保たれて居ると思ふ。

外觀は腰を煉瓦積——其上部を大貫の下見張で防腐劑塗とし、軒下及妻は大壁のモルタル仕上げ屋根は灰白のセメント瓦で葺いただけの事ではあるが、感じに於て、靜かに、ラスチックな、而も悠然としたものをと心掛けた積りである。

是を要するに純理論、純理想の上にのみ其據を置かずして、可成深く迄切詰められたる制限の下に、吾人所謂中流階級者が、今直ちに、其實生活に適應し得て簡素で、至便で、而も尙能く理想に近い眞の文化生活を營むに適はしいものをと、志した次第である。

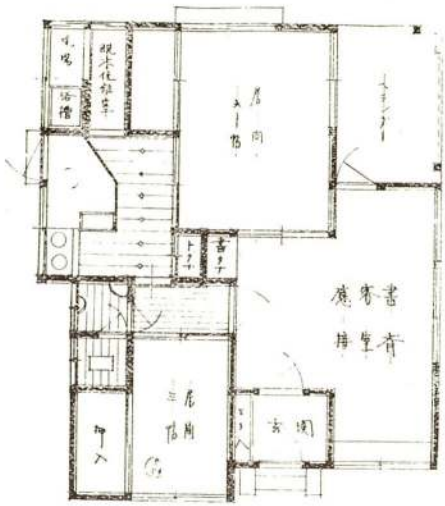
× ×



簡易生活を目的とする改良住宅

大阪住宅經營株式會社

今度住宅博覽會に建設する當社の家屋は極めて小住宅であります。諸方面で博覽會に建設するものは相當立派なものであります。其間に於て當社の出品するものは甚だ矮小でありますから見た目には貧弱の感があらうと思ひますが當社が之を選びましたのは強ち建築費の嵩むのを避けたわけでもありません。一口に言へば愉快に便利に二重生活を緩和して簡易生活を爲し得る最小住宅の標本たることを目的として之を選んだのであります。



間取圖及姿圖は大体左圖の如きものであります、外觀は洋式平屋建屋根は棉種『モルタル』塗。

此の屋根は新しき試であります之を選びましたのは小住宅でありますから可成輕快の感じを與へたのと此の材料は瓦の樣に重量が重くありませんから木材等を從て節約が出來ますのと費用も瓦に比べて餘程安く上りますのと之に加ふるに耐久力も相當にあらうと思ひますから之を撰んだのであります。

家の位置方位通風採光等には相當法意を加へました。

主なる室は洋間の居間であります。之が書齋にも

なり應接室にもなり都合によつては會食室にもなるのです。

寢室は疊の間の積りですが洋間に寢臺兼用の椅子を置くのも妙と思ひます。

臺所に接して疊敷の六帖間があります又玄關側に疊敷の三帖間があります各押入もありまして使用上には便利と思ひます。此小屋に『ベランダ』も付けてあります。此の『ベランダ』は東向で心持宜く利用が出來ると思ひます。

尙此の小さな家に浴室も設けました。浴室の隣りに脫衣場兼化粧室も付いて居ます。

其他臺所の構造書棚等にも意を用ひた積りですから實地に付て御覽を願ひます。

此の家は無駄間のないそして時勢の要求する二重生活を緩和して簡易の生活をなし得るものとして恰好のものと思ひますが如何でせうか。

秋

ともし火に親しくなりし夜寒哉

書を讀む窓に雨間の月

設計の要項

宗兵藏

這回住宅改造博覽會に出品の住宅に就いて此處に詳細なる說明を有するの遑なきが故に其設計の概要を左に例記する事とする。

階下の分

一、玄關を入り小き廣間あり、直に書齋兼應接室に客を迎へる事。

一、同廣間より又居間兼食堂にも通します。

一、以上の二室を別々に使用の場合には『カーテン』を以て仕切りと致しますカーテンを開き一室として使用する場合の爲に此二室は同じ板張となつて居ります。

一、居間兼食堂は無論椅子卓子を使用の事。

一、同室の南側に露臺を設け夏期は夜の冷氣を此處にて味ふものと致します。

一、同室の西側に約八疊敷の日本座敷を設け襖にて仕切り舊慣にある婦人又は老人の居間に使用出來る目的です。

一、此室は床の高さは食堂よりは一尺程高くなり居れ共、此室内に座り居間兼食堂及書齋に椅子を用ゆれば大人數集合の場合は三室を一室として使用出來ます此室には半床及納戸を設けてあります。

一、廣間より廊下に廻り階段に通り階段下に便所を設けてあります便所は無論水流しの積です。

一、廊下の右側は臺所及土間にて裏入口と附す。

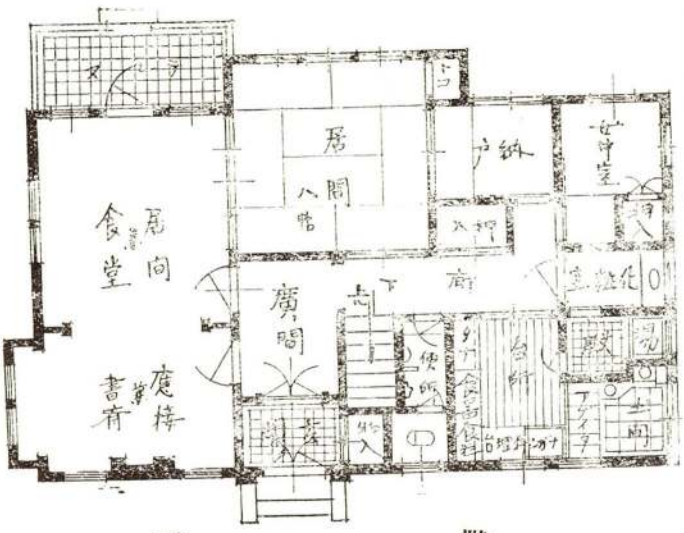
一、同其の突當を化粧室とし是より湯殿に通ず。

一、同其の左側に押入付女中室を設け是を疊敷とす此室の位置は南を向き居り女中優遇に意を用ゆ。

階上の分

一、階段を登り廊下に出て右に六帖敷の日本座敷及小供室。突當りは夫婦寢室に納戸を附す。

一、小供室及寢室は板張敷物を用ゆ。

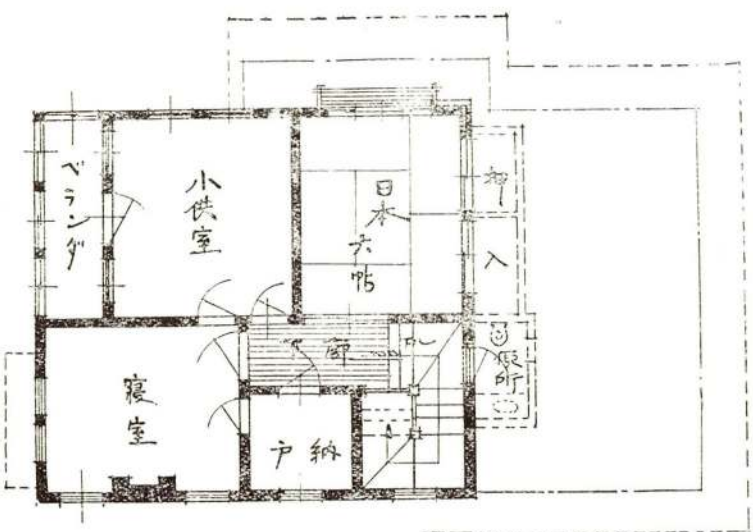


階

一、小供室に小供用寢臺を用ゆ。

一、小供の遊び場としてベランダーを設く。

一、階段の中段に洋風便器及手洗所を設く。



出品住宅の設計に就いて

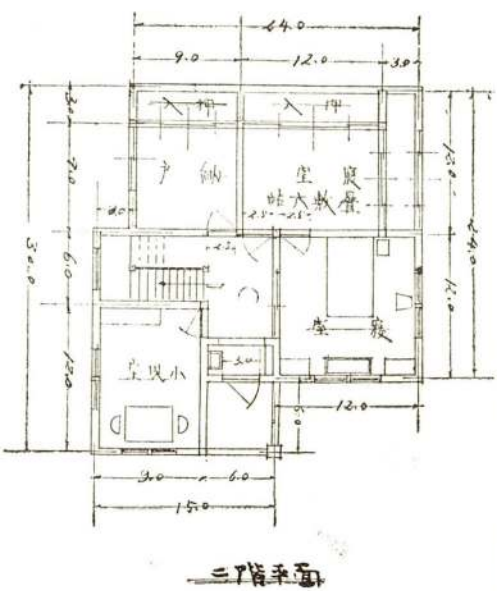
ヤマトブロック株式會社

日本に於ける現下の生活狀態を按ずるに其費用の膨脹蓋し其比を見ず膨脹の理由は屈指し能はざる位の多數なりと雖も其主なるものは其二重生活にありとす。住宅に於ては西洋座敷あり日本座敷あり衣類に於ても洋服あり和服あり口には節約を唱ふるも此等二重生活の弊を打破せざれば到底其目的を達するを得ざるべしと信んず。

住宅博覽會に出品せんとする住宅の設計は大體に於て前項二重生活の弊を輕減せんとするものにして其應接室居室の如き西洋風を採り唯だ老人及女中等の日本室に慣れたる者の爲に特に日本室を設けたるに過ぎず。

小兒の爲に小兒室として西洋室を設けたるは其成長するに及び西洋風生活に慣れ一重生活に漸次進むの慣を造らんとするものなり。寢室の如きも老人の爲に日本間を設け主人其他の爲めに寢臺を使用せしめんとするものなり。應接室の如きも可成簡易生活を目的として來客は大抵其居室に於て應接を爲すことゝせり。

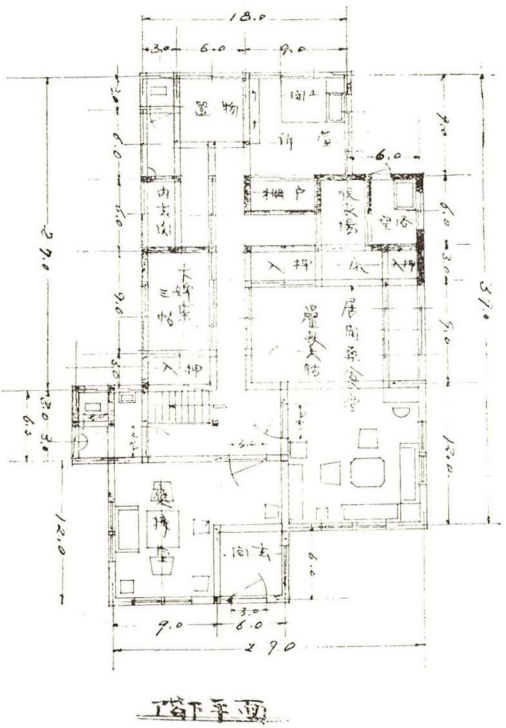
全體の構造に於て外觀西洋風を選びたるは防寒防



二階平面圖

暑採光の意味に於て日本風のものよりも優れるを認めたるか爲なり。

一階壁體はヤマトブロックを使用せり。此ブロックは專賣特許三〇九八三號の特殊品にして鐵筋コンクリートを容易に經濟的に又短期日に完成し得らるゝの例を示めせるものなり。



×

出品住宅仕様解説

清水組大阪支店

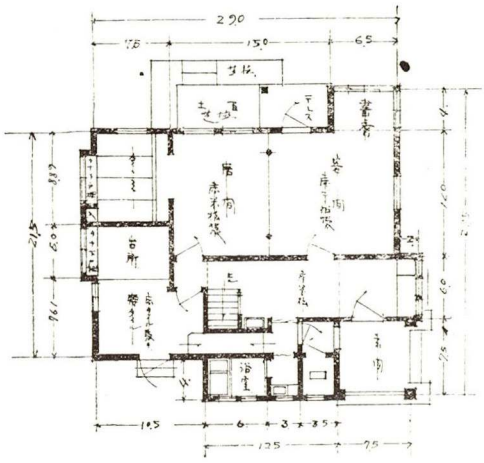
一、敷地面積
二、建築面積　二一、七三坪
三、建　坪　二一、七三坪（六尺角ヶ以て一坪とす）
四、延　坪　三四、七七坪（一階二一、七三坪二階一三、〇四坪）（六尺角を以て一坪とす）
五、構　造　木造二階建
基礎　深さ地盤より一尺八寸堀下げ搗き堅め周囲及間仕切煉瓦布地形
壁体　一階内部タイガボード張りペインテング仕上げ二階内部木摺下地真壁塗り外部エキスパンデットメタル下地セメントモタル塗リラフカスト仕上げ
床　階下玄關混凝土下地燒過煉瓦張り便所浴室臺所は混凝土下地タイル張り客室書齋居室及二階廊下は米松板張り居室一部及二階各室疊敷き
屋根　瓦葺
天井　一階及階段室は木摺下地漆喰塗り、臺所化粧小屋見出し
二階米檜竿縁天井
造作　壹階は米松及チーク貳階米松及米檜其他特種部分にビンロウジユ及杉磨き丸太使用ペイント及灰汁出シ蠟磨き仕上げ
建具　米松製並硝子及石目硝子嵌込み特種部分にステインド硝子を用ひ附屬金物み以て釣込みペイント及灰汁出し蠟磨き仕上げ
雜部　ライチングとしては電燈を設けブラッグを附してセンプーヤ並にスタンドランプ煖爐等を備へるに便ならしむ
各室のヒーチリングはホツトヴオーターヒノ

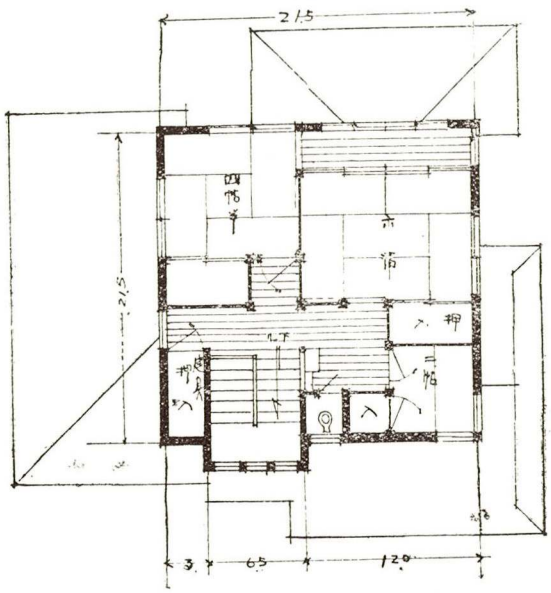
チングを設備す動力は電氣を以てす

給水衞生工事は各主要部分完全に備し便所の汚水處分は西原式を以てす

家具及室内裝飾は便利にして簡易を旨としたるものを設備す

六、樣式　和風を根本として之れに歐米の長所を加味したる近世式





改造住宅博覽會出品實物住宅設計概要

合資會社　錢高組

一、木造二階建　一棟

但　一階面積　三十一坪
　　二階面積　二十二坪七合五勺
　　合　坪　五十三坪七合五勺

說計要項

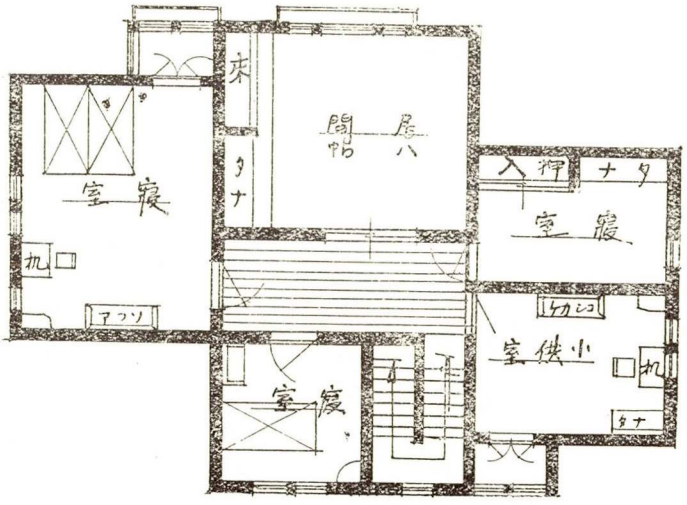
一、文化生活を營まんとする都會人士家族約五人を基として比較的一般向家族本位の住宅たらん事を期し生活樣式は和洋兩樣とし經濟的なる家具を備へ日常生活の行動及整理に便を計れり。

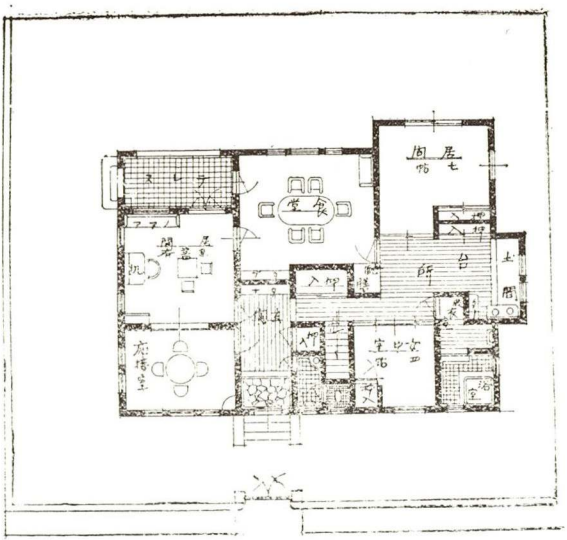
構造に對する仕樣

一、基礎は適當に堀下げコンクリート及煉瓦を以て地上二尺通り積立る事

一、軸廻り其他の木材は主として米松材を使用する事

一、屋根は石綿盤葺にして下地漆喰にて土居塗をなし耐暑耐寒に備ふる事





一、外部は『セメントモルタル』にて大壁に塗立る事

一、内部、應接、書齋、食堂、寢室等は床板張り天井漆喰塗一部木製とし壁は漆喰塗一部壁紙張立の事

一、居間、女中室は床疊敷竿縁天井壁漆喰塗の事

一、臺所、浴室は床モルタル塗一部板張り周圍腰三尺五寸タイル張り及『モルタル』塗天井木製空氣抜取設けの事

一、便所は床及腰廻り『タイル』張り城口式大正便器を使用し防臭となす事

×

私の出品住宅

葛野建築事務所
所主　葛野壯一郎

住宅改造は、何人にもまた何處でも、最自由に實行出來る範圍のもので有りたい。資産の有る特種の人で無ければ出來ないような改造は、私共の考えとは相去る事甚だ遠いもので、物數奇に非らざれば一種のゼイタクに過ぎない。此意味に於て私は、何處までも在來國風住宅の樣式構造を基礎とし、其出發點として、出來るだけ工費を要しないような方法で最必要と考えられる部分に、洋式改造を加えたのが本案で有ります。

務めて工費を節約するためには、プランの繁雜な凹凸を避けて屋根を最簡單な形式にする事が先づ必要で有る。其ためには長方形のプランを採り屋根も一棟の流造りとし、窓は階上階下を通じて在來の肘掛窓の樣式により、硝子障子の外に雨戸を使用する事にして有ります。雨戸を廢する事を以て、住宅改造の一要頂の如く數える人も有るようでは有るが、單に盜難の爲めのみでは無く、郊外斯の如き地形の處では、硝子戸一重では、到底冬季の寒さを防ぎ得ない事は明らかで、事實肘掛窓の雨戸の開閉位は、大した手數にはならないので有ります。

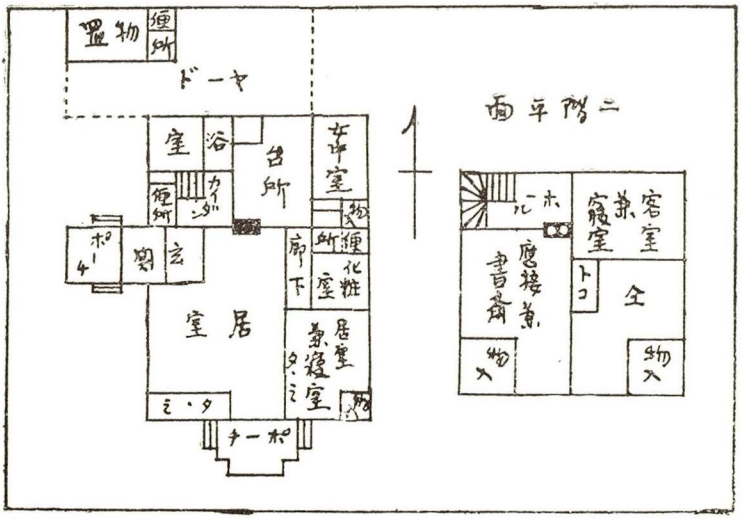
是れを舊來の國風住宅に比し、其著しく異なると思はる重なる點は、玄關及び居室の大部分と、二階應接兼書齋を板張りの洋式とし、全然椽側を設けないかはりに南側と西側に二ヶ所、吹抜き構造のポーチを置いた事、及び廊下を出來るだけ少なくし、押入を必要と思はるゝ範圍のみに止めた事で有ります。

家の割合に間の廣いのは居室で、一間六尺六寸の『メートル』間で七坪七合五勺、疊にすれば十五

疊半といふ事になつて居る。洋家具を置いて充分室を活用させるには、如何しても廣い事が必要で有る。應接だ食堂だと、少さいな滿足に家具も入らない樣な室を幾ツも設けるよりは、是れを廣い一室として凡てに兼用する方が、便利且つ經濟で遙かに住心地も宜い事と考へます。居室の南側窓際に、疊一疊半の床を設けたのは、座習に慣れた老人や婦人の便利のため、また其北側一坪半のイングルヌックは、暖房用のヒーターを置き、專ら冬季の讀書とか會談に適用せらる可く、組立の寢臺を置き仕切にカーテンを引けば、場合により暖い寢室にも利用出來るので有ります。

居室東側の六疊敷は、巾三尺の押入を設け、晝間は老人や婦人のための仕事場とし、夜間は寢室にも當て得るつもり、其れに續く一坪の化粧室には洋式の鏡臺及び洋服箪司を置いて居るが、更衣とか、化粧用には、洋式にする方が、便利で淸潔だと考えたからで有ります

臺所は床を他の室と同樣の高さとし、特に流しもと、板の間との高低を附せず、不潔で亂雜に流



れ易い揚板の様なものは廢した方がよいと考えます。女中室は三疊敷、三尺の物入の外に小廻りの物品を納める細長い戸棚が附けて有ります。

階上の應接は洋式で書齋をも兼ねて居る、若し小供の有る家庭ならば、是れを小供の勉強室兼寢室としても宜しい。東側疊敷の二室は全然和式床の間附で、來客用にも亦寢室にも、何れにも必要に應じて利用する事が出來るので有ります。室の兼用といふ事は、一面から云へば餘り敬服した事では無いかも知れないが、此種類の小住宅では家族の狀況により常に必要を生ずる問題で、何れにも間に合ふ様な構造は是非考えて置かれねばならぬ事と考えます。物入としては階上に各一坪の物入二ケ所の外、階段下でも屋根裏でも、利用の出來るところは務めて利用して有ります。

板張りの床は簡單な寄木張及びリノリアム敷天井は、玄關居室及書齋はタイガーボード、日本室は掉椽天井、臺所便所は漆喰塗、浴室は板天井で有ります。

用材としては現時最安價な米材を重に使用し、構造は全然和風眞壁造り、外部腰廻り以下下見張上部は和風漆喰仕上とし、何等特種の意匠や裝飾を加へて居らない專ら實用を本位として有ります家を建てる事を一種の道樂視し單に趣味の上からのみ解決して行かうとするようなヤリ方は、世間間々觀るところで有るが、元より私共の採らない種類のもので、最實用的のものが何時までも結局落附いた住心地の宜いものとなる事は當然の事で有ります。

屋根瓦は、此地方では眼新らしい石州産釉掛瓦を試用し、軒廻りは特に是を輕くするために杉枌板葺とし、軒の出三尺乃至三尺五寸、實用を兼ねて輕快な外觀を與ふる事に留意しました。一般に洋風住宅の欠點は、軒の出の比較的少ない事で、夏季殊更暑く感ずるのも、此點に歸因する様に考えれる。外壁の保存上からしても、また夏季特に涼しくするといふ事の爲めにも、軒は務めて多く出す方が宜しいので有ります。

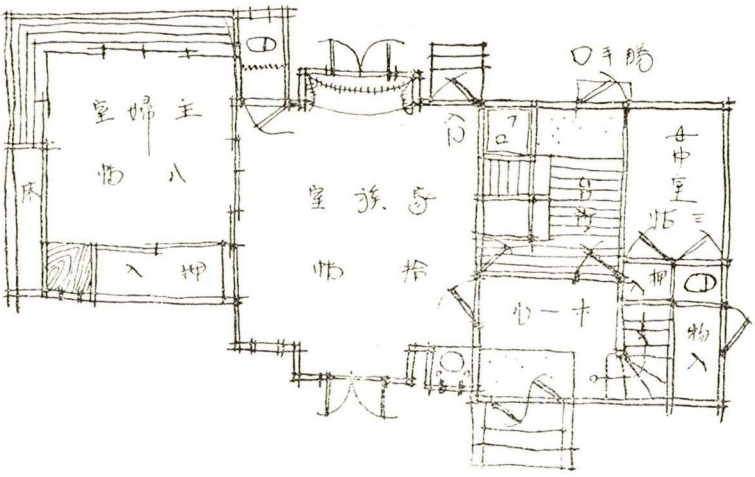
大小便所は水道の設備の有るのを幸ひに全部水洗式を用ゐ、暖房は温水ラヂオ式ヒーターを使用

し、臺所は湯沸罐の外は、全部電熱を應用する事にして居ります。文化住宅としての建築其物に關する考慮の大切で有る事は勿論で有るが、更らに其設備に對して、充分の力を致す事が一層重要で有る事を常に私は考えて居ります。イクラ坪千圓千五百圓といふ立派な家でも、暖房も無ければ便所の如きも相變らずの糞溜式では文化的價値は頗る貧弱なものに過ぎない。此意味に於て此家は多少其邊の考えから、建築費に比較して割合に多額の工費を、暖房衛生電熱家具調度に投じて居ります。或は斯の如き設備費を以て、何か一種のゼイタクでも有るかの如く觀察する人も有るかの樣では有るが、現代文化の基礎のもとに、建設せらる可き健實なる住宅としては、何れも皆最緊要の設備に外ならないので、それから受くる生活の愉快と便利は勿論、時間や勞力の節約は著しいものが有る筈で有ります。（完）



出品住宅說明概略

株式會社　横田組



本建築は外觀全部洋風とし內部は洋式を主とし若干和風を加味す。家族は夫婦の外小供二三人女中一人の智識階級に適當せる住宅にして主人小供等は絶對洋服主義として生活上何等の苦痛を感せざる樣設計せしものにして圖面中

一、ホール　は純洋式とし簡單なる應接用に供す

一、家族室　純洋風にして廣さ十三帖餘室內食卓書棚、書机、椅子等凡て日用に必要なる家具を適當に配置し一家族は常に此の一室に主に居住す

一、主婦室　家族室より床一尺餘高く疊敷となし主婦の裁縫其他慣習上座居を要する時に使用し夜は之を家族の寢室に當つ

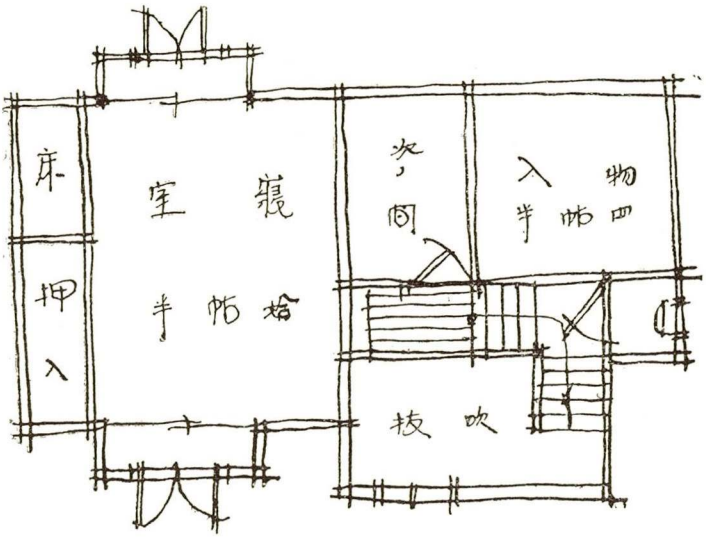
一、便所　は和洋折衷洗滌式

一、臺所、湯殿　和洋折衷

一、女中部屋　疊敷

一、二階十帖　疊敷來客用

一、同　三帖　豫備室（書齋）
一、同四帖半　納屋（物入）



住宅改造博覽會出品住宅に就いて

日本建築協會

現代の國民生活に適應した中流の住宅を實現して聊か國民生活の文化向上に資益する處ありたいといふのが本博覽會の目的である

○

現代の生活は舊來の居坐式因習から進んで倚子式生活を採り入れやうとしてゐることは爭はれない傾である。殊に中流生活を營むものは日常の勤務に倚子を使用し洋服を着用しつゝ活動して居る男子は家に歸つて疊の上に安逸を欲するよりは居坐の遺風にむしろ苦痛を感じて來た。

○

殊に將來の國民である兒童に於て然りである、從つて現代の住宅は居坐の生活に加へて倚子生活をも採り入れやうとしつゝあるのである。唯老人並びに婦人達の習慣が此の傾向に對して尙苦痛を訴へて居るがために一足飛びに倚子式生活を丸呑みにする事が出來ないのである。

○

從つて今回の住宅改造は其調和を如何に計らんとするかゝ問題である。併し居住者の內容に斯く二つの相反せる傾向を有するために此兩者の要求を滿足せしむる手段として折衷の具體案を提出するのは止むを得ないゝしかも實生活の切實なる問題である事は爭はれない。

○

則ち住宅の中心である居間(食堂兼用)主人の書齋(客間兼用)を倚子式とし老人室、主婦室及寢室の一部に在來の居坐式諸室を遺し且つ住宅の周圍を開放して簡易なる生活に適應せんとするの主旨は今回實現の住宅二十有七戶を通じて遺憾なく實現せられて居る。

□

從來の和風住宅を改良して漸次に此目的を達せんとする方法は最も温健な着實な運動であらう夫れと同時に外來の洋風住宅を大膽に利用して之れを近代生活に活用しやうとするの方法も決して無意義な研究でない、前者は消極的であり後者は積極的である。今回の住宅は後者の方針が大部を占めてゐる。改造住宅の名の起る所以である。

○

住宅は趣味を中心とすべきであるとされてゐる。從つて自己の住宅は自己の趣味を發揮すべきものであるとされてゐる。乍然現代の趣味生活には統一された處がない。過去の趣味に無遠慮に洋風が輸入されてゐる。殊に近代婦人の趣味に於て然りである。頭髪の形式の混亂、肩掛、パラソル乃至袖中用品に到る迄統らざるはない。斯くの如き時代に所謂改造住宅が各種各樣の外觀裝飾を施されて偖子式生活者の要求に提供されたのは畢意時代の精神を具象して現はれたものに外ならない。

□

安價な住宅で趣味あり且堅實な住宅であることは時代の要求である、安價といふ事には程度がある。殊に積極的に倚子式生活を採り入れ樣とする場合である衛生、採光、暖房其他の文化的設備を利用する場合である。從つて今回提供の住宅が坪當り平均二百五十圓以上を計上されてゐるものは止むを得ないことである。

○

會場は箕面線櫻井櫻ヶ丘に在る一萬五千坪の敷地である五千坪を住宅敷地とし一万坪を會場とし本館を中心に各休憩所を配置した。

田村地所部では大規模の水道計畫と完全なる下水設備を完成し又電力電燈配線の便も計りつゝある土地の高燥で水質の良好なこと並びに風光の佳良なことはこの上はない樣である大阪を對照として郊外生活者のための住宅地としては申分あるまい

敷地　約一萬五千坪　箕面沿線櫻井櫻ヶ丘

本館　間口五十間　奥行十間

第一部　建坪五百坪　會場東側敷地内に建設

第二部　住宅實物出品

第三部　史料及參考品　本館内出品

第四部　圖案及模型

第五部　一般工藝品

建築諸材料

○

會場內出品建物一覽

七日會出品　一戶（和風休憩所）
野澤商店出品　一戶（スレート葺休憩所）
極東グラス會社出品一戶（グラス張休憩所）
中川組出品　一戶（舊式足代組）
中松組出品　一戶（鐵骨休憩所）
松尾商店出品　一戶（同上）
日本ホロータイル會社出品（休憩所）
帝國信託株式會社出品（廣告塔）
サクラ工業所出品（材料陳列）
音樂堂　一戶　日本建築協會出品
噴泉　一ケ所　同上
活動寫眞館　一戶同上（晝間撮影の新しき試み）

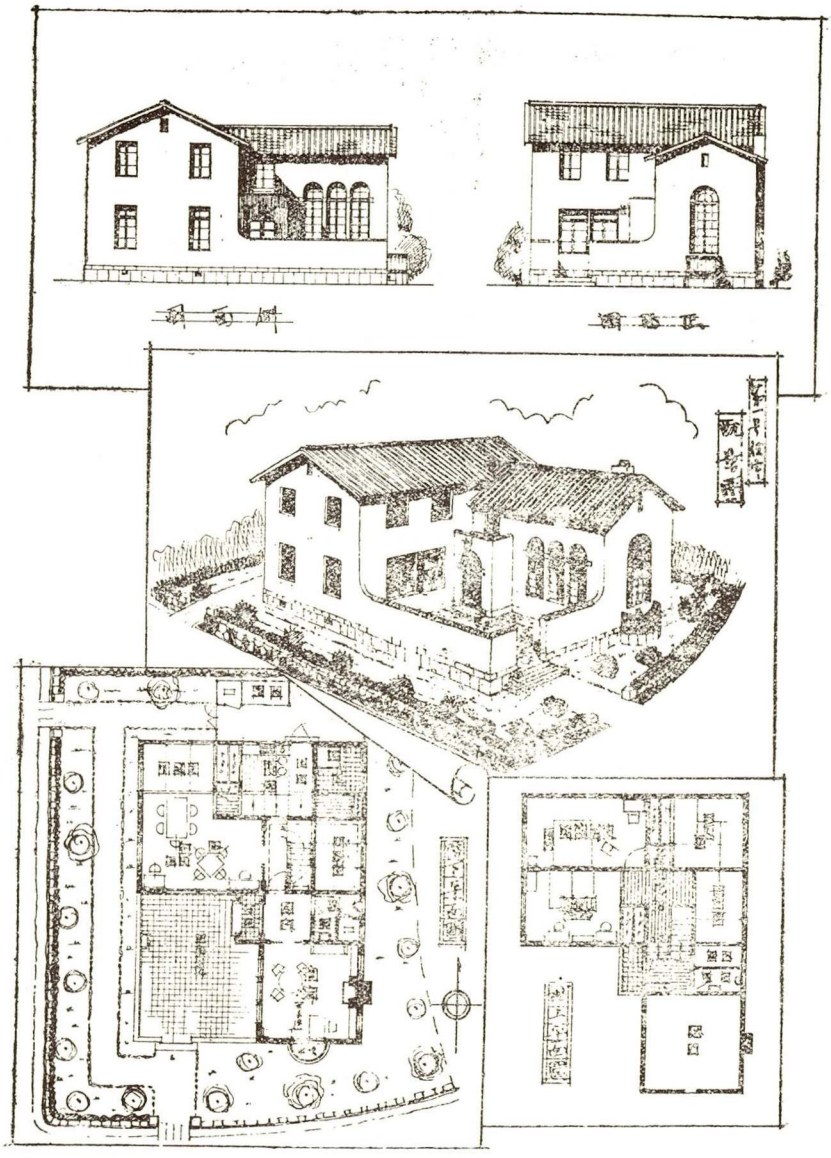
○

一、敷地　約百坪內外
一、建坪　二十坪乃至三十坪
一、延坪　三十五坪乃至四十坪
一、構造　木造大壁、基礎煉瓦、床木造板張
壁體外部は木摺下地にセメントモルタル塗仕上內部は漆喰壁、又は眞壁、壁紙を使用せるものあり屋根は瓦葺（藥掛瓦赤色、青色鼠色等）又はスレート葺窓は外開又は上げ下げ窓又回轉引違窓等出入口は唐戶、腰唐戶等日本間は和風襖障子
一、設備　煖房には溫水、溫氣、電氣等各種のものあり、便所は水便式淨化裝置又は大正式改良便所水道の設備、下水の設備、電燈設備完成す
一、家具　各優雅質實なる家具を出品して配置す
一、樣式　各種各樣本會出品のものは懸賞當選案より採用す

○

住宅出品一覽

竹中組出品　二戶　　大林組出品　二戶
鴻池組出品　一戶　　橋本組出品　一戶
錢高組出品　一戶　　橫田組出品　一戶
清水組出品　一戶　　あめりか屋出品　一戶
ヤマトブロック出品　一戶
田村地所部出品　一戶
宗建築事務所出品　一戶
片岡建築事務所出品　二戶
橫河工務所出品　一戶
葛野建築事務所生品　一戶
眞水三橋建築事務所出品　一戶
大阪住宅經營株式會社出品　一戶
日本建築協會　八戶
計二十七戶



仕様解説書

第一號住宅　出品人　日本建築協會

一、敷地面積　約八十坪

二、建築面積　二十坪

三、建　坪　階下二十坪　階上十五坪五合

四、延　坪　三十五坪五合

五、構　造

基礎　割栗地形側廻基礎及床束下煉瓦根積

壁體　木造外部福永式ラス張人造石磨出し、内部は階下漆喰塗及タイガーボード壁階上は眞壁

床　木造板張、書齋、寄木張(伊丹商會)居間床板張、日本間は疊敷他は板張

屋根　日本瓦葺

天井　階下天井はタイガーボード使用、階上日本間は棹緣天井、寢室は漆喰壁

造作　窓は外開窓、回轉窓及引違窓使用出入口建具　扉は唐戸腰唐戸及引違襖又はカーテン使用木部はペンキ塗及ワニス塗仕上

雜部　暖房温氣(作山鐵工所)水道(須賀商會)便所水洗式(城口商會)

電燈工事(淺海商會)同器具(東京電氣商會)家具(高島屋家具部)

六、様　式　ミツシヨン式

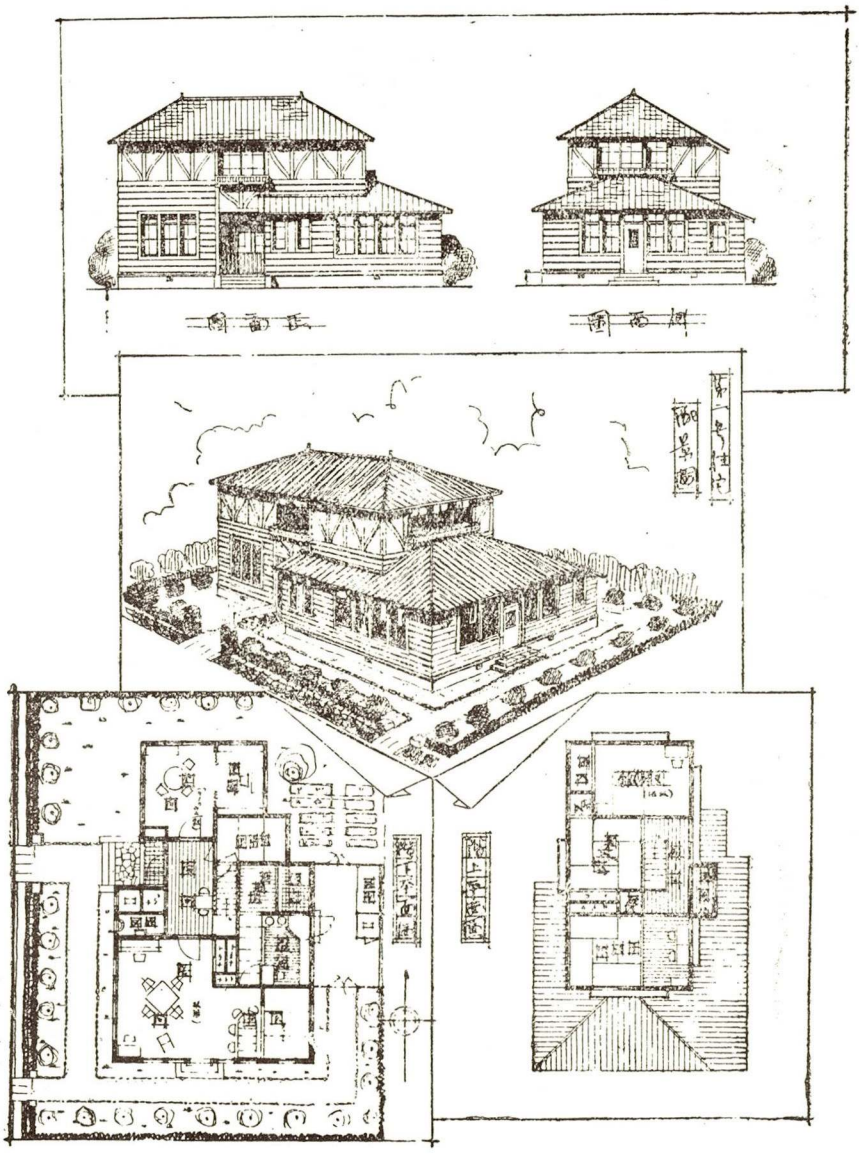
七、設計者氏名　日本建築協會

八、施工者氏名

大阪住宅株式會社

大工　山田　元治

左官　福井彌三郎



仕様解説書

第二號住宅　　出品人　日本建築協會

一、敷地面積　約八十坪

二、建築面積　二十二坪五合

三、建　坪　階下二十二坪五合階上十三坪

四、延　坪　三十五坪五合

五、構　造

基礎　割栗地形、側廻及床束下煉瓦根積

壁體　木造、階下外部下見張内部木摺漆喰塗、階上外部竹小舞漆喰塗内部眞壁

床　木造、階下廣間、居間床板張、書齋、客間板張リノリウム敷階上、日本間疊敷其他板張

屋根　六甲タイル(赤色)瓦葺下敷フエルト使用

天井　階下木摺漆喰天井、階上棹縁板天井

造作　階下窓上げ下げ及回轉、階上引違、出入口、腰唐戸、唐戸引戸等使用、

建具　米國材使用、ペンキ及ワニス塗仕上、居間及客間壁紙使用、食堂一部由多加織敷

雜部　暖房(作山鐵工所)水道(須賀商會)風呂(安藤式)電氣配線(淺海商會)同器具(東京電飾)便所(城口式)家具(大丸家具部出品)

六、様　式　コッテージ式

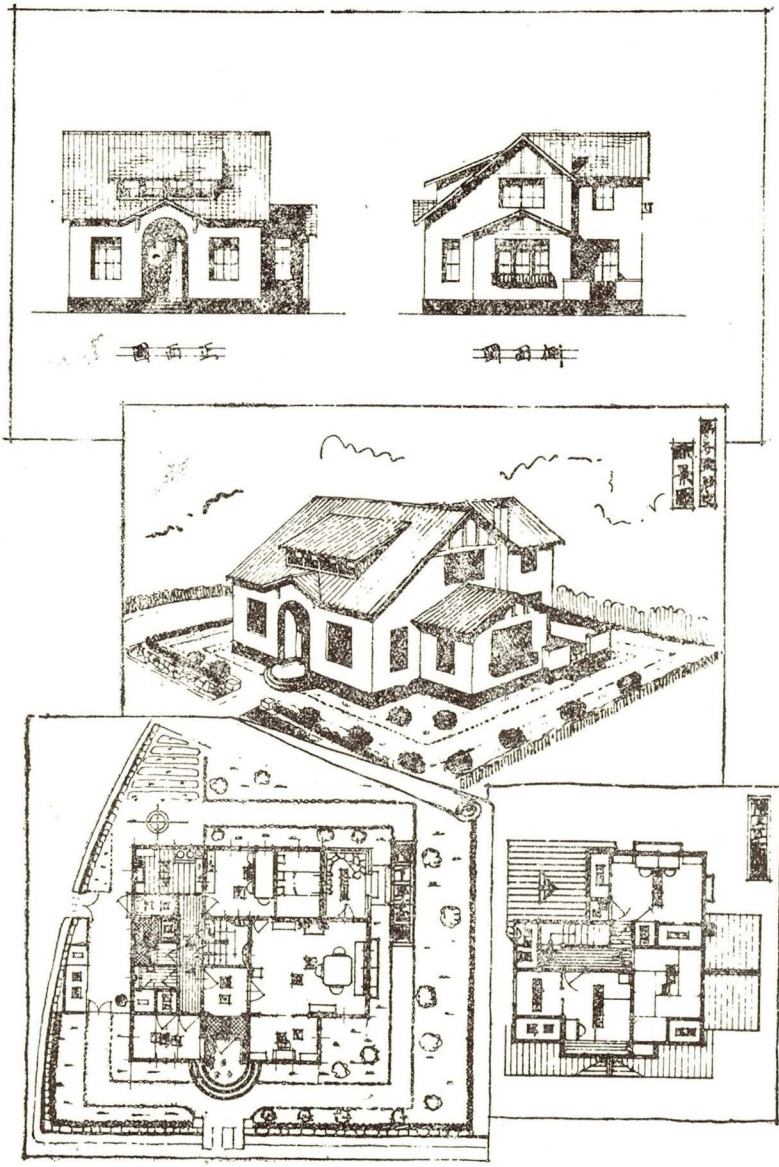
七、設計者氏名　日本建築協會

八、施工者氏名

大阪住宅株式會社

大工　山田　元治

左官　福井彌三郎



仕様解説書

第三號住宅　　出品人　日本建築協會

一、敷地面積　約八十坪

二、建築面積　二十坪

三、建　坪　階下二十坪、階上十四坪七五

四、延　坪　三十四坪七合五勺

五、構　造

基礎　割栗地形、側廻及床束下煉瓦根積

壁體　木造外部竹小舞大壁モルタル塗仕上、腰煉瓦見出、内部木摺漆喰壁、階上及階下の一部は眞壁

床　木造板張、書齋（リノリウム）居間食堂板張玄關練革床階上日本間疊式他は板張

屋根　青色セメントタイル（田中タフリンク商會）フエルト下敷）葺

天井　階下居間、書齋、玄關及階上夫婦寢室天井由多加織使用（同社出品）他は漆喰及棹縁天井

造作　窓廻上げ下げ窓、引違窓及回轉、出入口

建具　唐戶、腰唐戶片開戶等使用、米國材及べにや板使用、ペンキ及びワニス塗、

雜部　暖房、電氣暖房（阪急出品）水道（須賀商會）

電燈配線（淺海商會）同器具（大阪電球）便所（西原式）建具（三越家具部）

六樣　式　バンガロー式

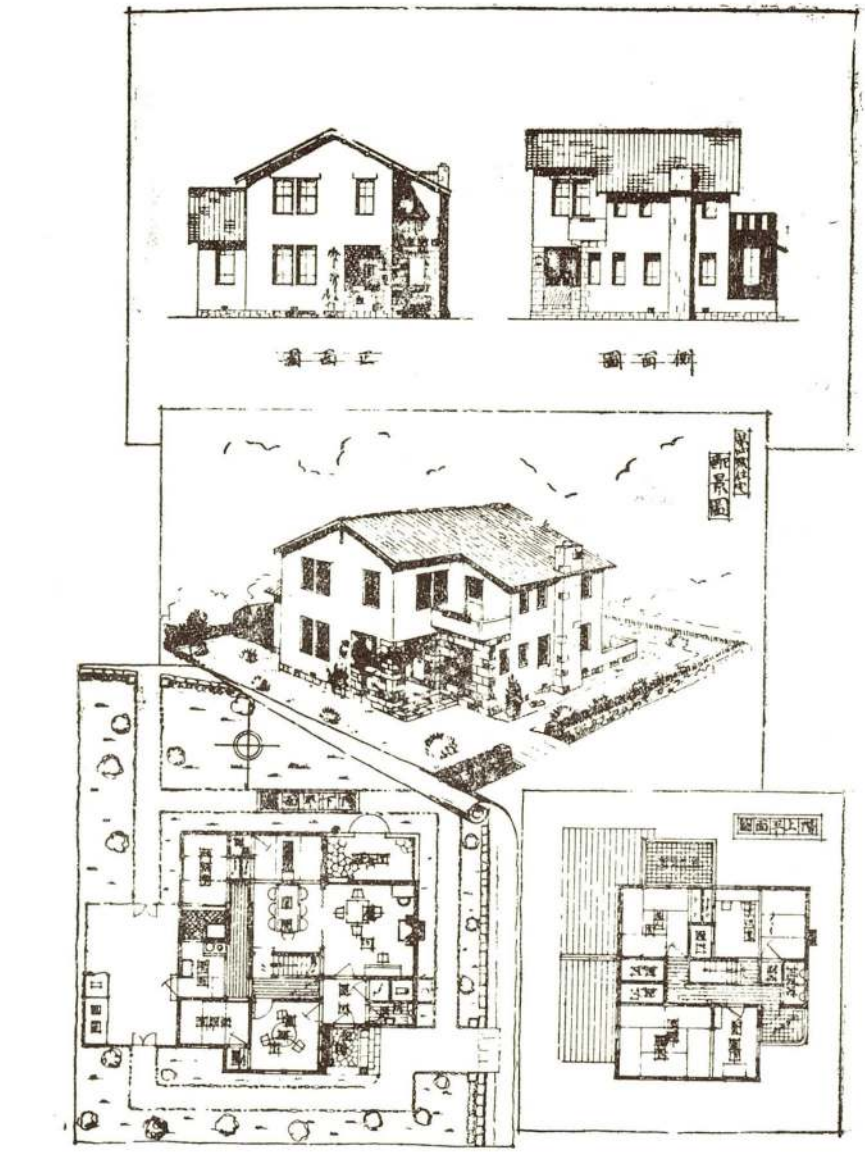
七設計者氏名　日本建築協會

八施工者氏名

大阪住宅株式會社

大工　山田　元治

左官　福井彌三郎



仕様解説書

出品人　日本建築協會

一、敷地面積　約九十五坪

二、建築面積　二十一坪五合

三、建　坪　階下廿一坪五合、階上十四坪五合

四、延　坪　三十六坪

五、構　造

基礎　割栗地形、側廻腰及束下煉瓦根積とす

壁體　木造大壁竹小舞モルタル塗階上は眞壁とす

床　階下洋間は木造、板張書齋はリノリウム式、玄關廣間廊下練床階上日本間は疊敷其他は板張とす

屋根　赤色瓦葺

天井　洋間は漆喰天井、日本間は棹緣天井

造作　階下上げ下げ窓、回轉及引違窓、階上之建具に準ず、出入口扉、唐戸、腰唐戸、引違戸、襖等使用、ペンキ及ワニス塗仕上とす

雜部　暖房（高田商會）水道（須賀商會）便所（城口式）電燈工事（淺海商會）同器具（原安商會）家具（吉田鹿之助）

六、様　式　コッテージ式

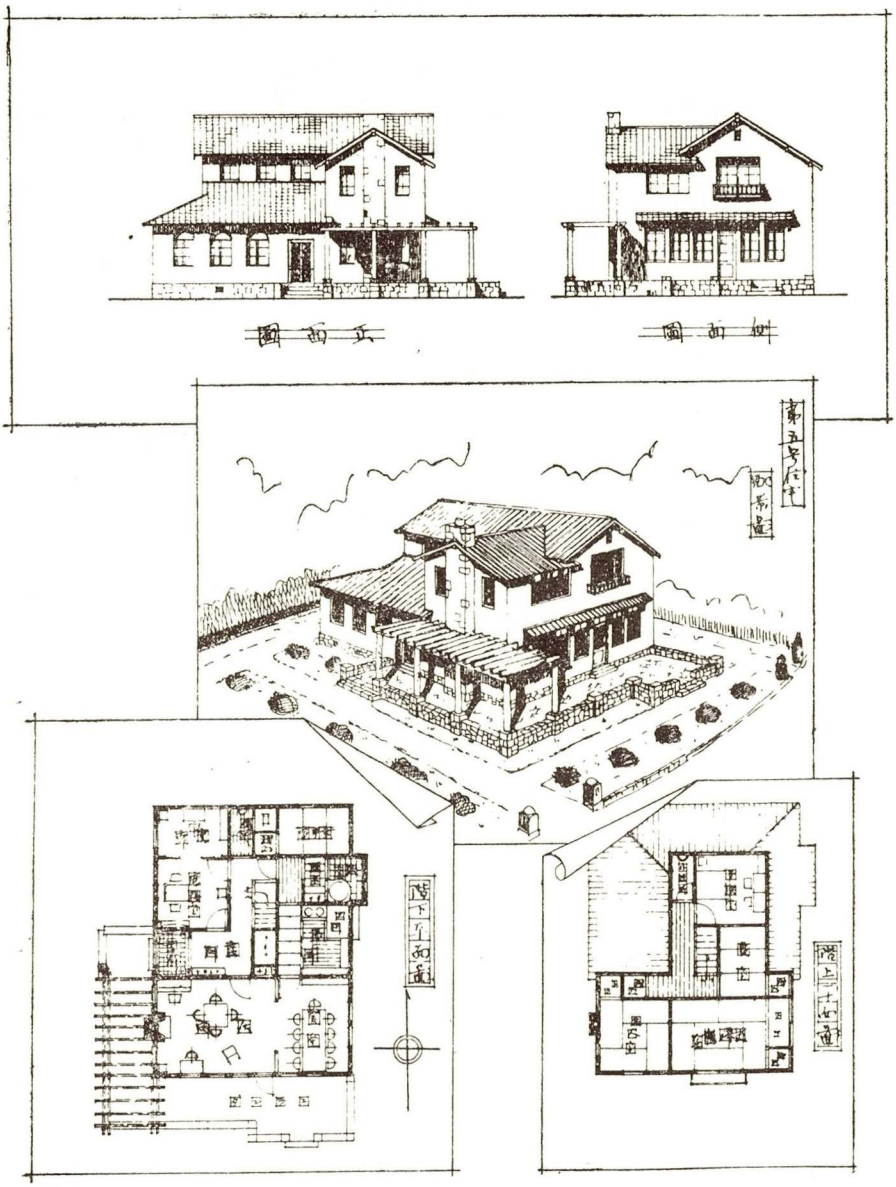
七、設計者氏名　日本建築協會

八、施工者氏名

大阪住宅株式會社

大工　山田　元治

左官　福井彌三郎



仕様解説書

第五號　　出品人　日本建築協會

一、敷地面積　約百坪

二、建築面積　二十二坪二五

三、建　坪　階下二十二坪二五、階上十三坪

四、延　坪　三十五坪二五

五、構　造

基礎　割栗地形、側廻及床束下煉瓦根積

壁體　木造、外部大壁竹小舞モルタル塗、內部木摺漆喰塗、階上眞壁

床　木造板張書齋（リノリウム）居間食堂、板張、玄關練革床、階上日本間疊敷他は板張

屋根　日本瓦葺

天井　階下漆喰天井、階上棹緣天井

造作　階下窓外開戸階上引違戸使用、出入口扉

建具　腰唐戸、唐戸、片開引違襖等使用

木部ペンキ及ワニス塗仕上

雜部　暖房（萩原商會）水道（日本水道會社）電燈配線（淺海商會）同器具（淺海商會）便所（城口式）家具（山谷家具店）

六、様　式　コッテージ式

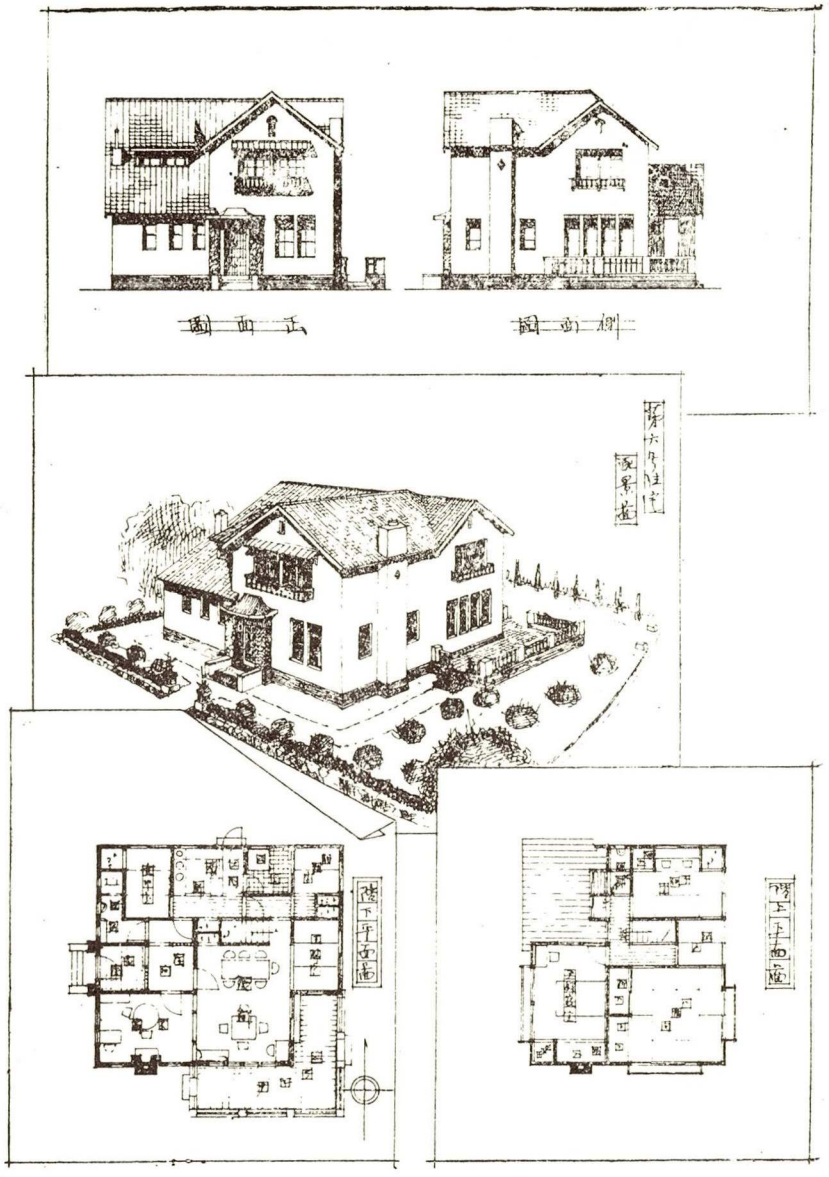
七、設計者氏名　日本建築協會

八、施工者氏名

大阪住宅株式會社

大工　八尾竹治郎

左官　神田　孝夫



仕様解說書

第六號　　出品人　日本建築協會

一、敷地面積　約九十坪

二、建築面積　二十一坪

三、建　坪　階下二十一坪、階上十五坪

四、延　坪　三十六坪

五、構　造

基礎　割栗地形側廻及床束下煉瓦根積

壁體　木造、外部大壁小舞モルタル塗、内部木摺漆喰塗、階上眞壁

床　木造板張、書齋（リノリウム）玄關（練革床）居間（板張）階上日本間疊數他は板張

屋根　千歳赤色瓦葺

天井　階下漆喰天井、階上棹緣天井

造作　窓は上げ下げ回轉及引違戸使用、出入口腰唐戸、唐戸引違襖使用、木部はペンキ及ワニス塗とす

雜部　暖房温水（高砂工業會社）水道（日本水道會社）便所（城口式）電燈配線（淺海商易）同器具（東洋電業會社）家具（内外木工製作所）

六、樣　式　コッテージ式

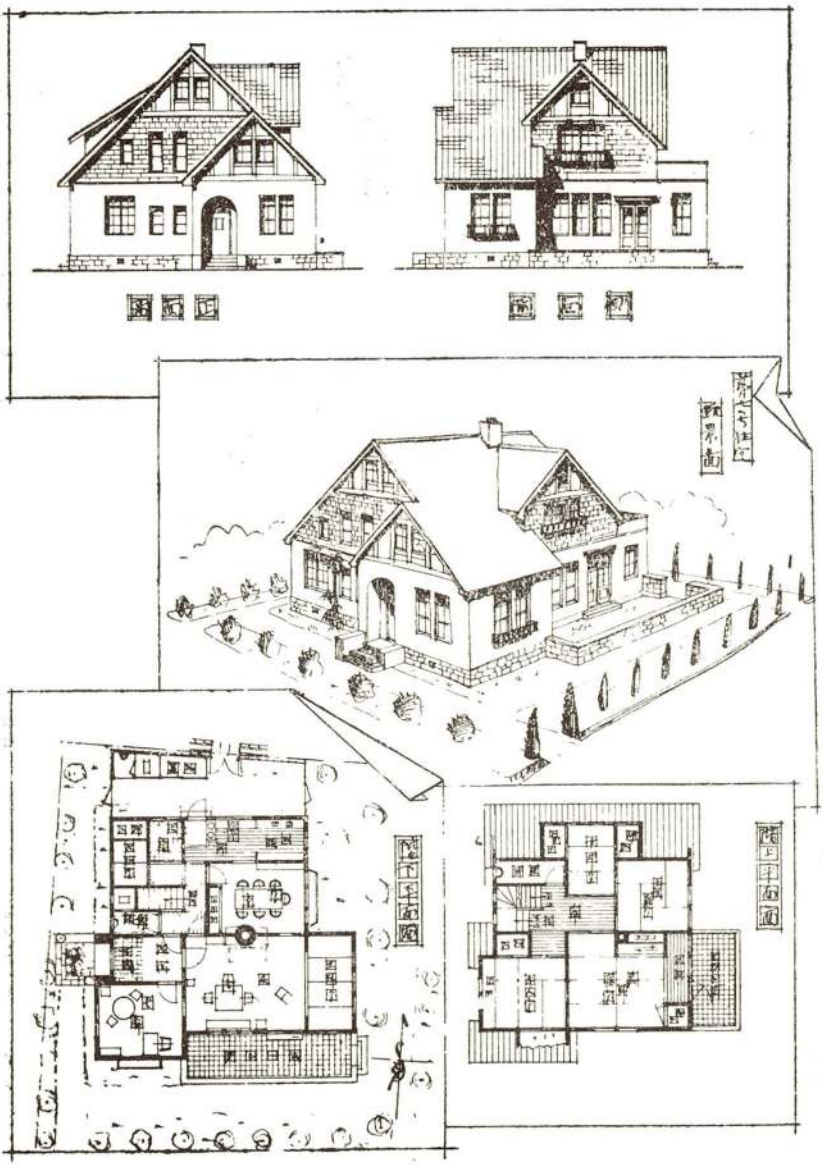
七、設計者氏名　日本建築協會

八、施工者氏名

大阪住宅株式會社

大工　八尾竹治郎

左官　神田　孝夫



仕様解説書

出品人　日本建築協會

一、敷地面積　約九十坪

二、建築面積　二十一坪五合

三、建　坪　階上十五坪、階下二十一坪五合

四、延　坪　三十六坪五合

五、構　造

基礎　割栗地形、側廻及床束下煉瓦根積

壁體　木造外部階下モルタル塗階上下見板張、内部階下木摺漆喰塗階上眞壁

床　木造板張、書齋（リノリーウム）居間（板張）階上日本間疊數、他は板張

屋根　天然スレート葺

天井　階下漆喰塗、階上棹縁天井

造作　窓上げ下げ、引違及回轉戸使用、出入口

建具　扉、唐戸、腰唐戸及引違襖使用、木部ペンキ及ワニス塗

雜部　暖房（宮崎式ペチカ）水道（日本水道會社）便所（城口式）電燈工事（淺海商會）同器具（三好商會）家具（川島家具部）

六、様　式　バンガロー式

七、設計者氏名　日本建築協會

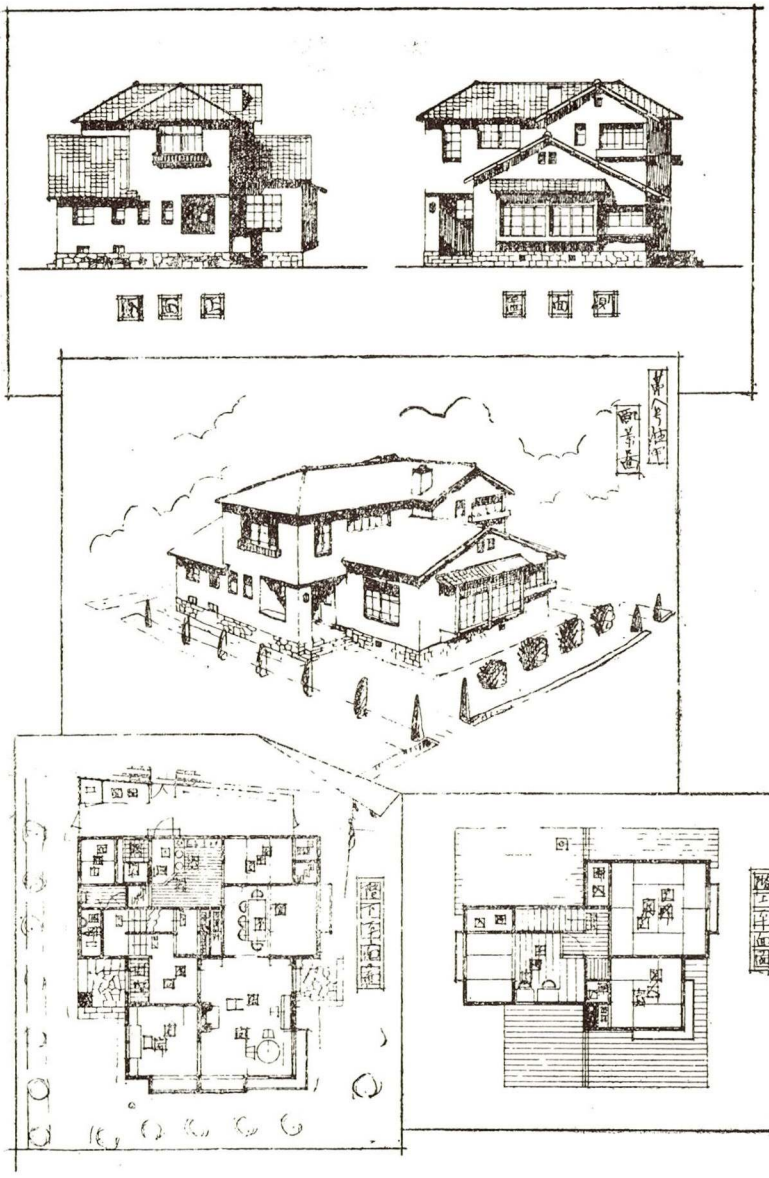
八、施工者氏名

大阪住宅株式會社

大工　八尾竹治郎

左官　神田　孝夫

×



仕様解説書

第八號　　出品人　日本建築協會

一、敷地面積　約九十五坪

二、建築面積　二十二坪五合

三、建　坪　階下二十二坪五合、階上十三坪

四、延　坪　三十五坪五合

五、構　造

基礎　割栗地形、側廻及床束下煉瓦根積

壁體　木造、外部大壁モルタル塗、間仕切壁は眞壁、內部木摺漆喰塗、階上は眞壁

床　木造板張、書齋(リノリーウム)居間(板張)玄關(練革床)階上日本間疊敷他は板張

屋根　金剛赤色瓦葺

天井　階下漆喰天井階上棹緣一部タイガーボート使用

造作　窓は外開窓、引違窓及回轉窓、出入口は建具　唐戶、腰唐戶、カーテン又は引違襖、木部ペンキ塗及ワニス塗

雜部　暖房温水(大阪暖房商會)水道(日本水道)便所(城口式)電燈配線(淺海商會)同器具(大阪電氣商會)家具(旭家具會社)

六、様　式　コッテージ式

七、設計者氏名　日本建築協會

八、施工者氏名

大阪住宅株式會社

大工　八尾竹治郎

左官　神田　孝夫

×



住宅建築と大阪都市

翠煙生

土と金との量り替へならば兎に角、然らざるに於いて、殆んど寸地をも剰さず、建築數地の行き詰まれる我大阪都市、それでも、諸種の建築物が增築と新築といふ形式に於て增々殖へつゝあるのだから、扨ても面妖な次第とも云へば云へない事もないが、其所謂新、增築なるものゝ多くは、一軒を建てる爲に一戸又は數戸を叩き壞すのであるから、實際に名實共增新築されたものは果して幾何あるや、蓋し相當研究を要する事柄である。

けれども斯る行き詰まれる中に於て、建築物の多少な增加を示しつゝあるは、其建築物の大勢より觀て推想するに難からない、殊に大阪都市そのものが既に事務的地境に變化し來つて、最早我等生活の安息所たる住居地としての性能と條件を喪ひつゝある現在、尚ほ且つ住宅建築が凡ての建築物中優位を占めてゐるのは餘程面白い現象だと思へる。而も、都市計畫に由る住居地區漸く決定せむとする運命を寸前に控へて、住宅建築が所在に頻出してゐる事は、一段と其現象に意義付ける。

先づ大正十年中大阪市に於ける增、新、改築の

大勢を觀るに、戶數に於て四千五百四十一戶を算し、之を大正九年末に於ける現在戶數二十二萬五千四十八に比し、僅に約二%に過ぎない。次いで之を其坪數に觀るも、建坪十一萬九千百四十五坪（延十八萬八千二百二十八坪）にして、上記大正九年末現在のそれが、六百五十五萬二千六百四十四建坪なるに比すれば、一・八%にしか當らない。

更に、その建築物の種類別にすると、商業的建物の九百九十二戶（建坪二萬七千五百八十三、延坪五萬四千二百六十一）工業的建物六十三戶（建坪五千二百六十六、延坪七千三百六十八）其他の建物百五十戶（建三千四百七十坪、延三千九百三坪）之等のものを合したる戶數二千九十七に對して、住宅は實に此の三者を超へたる二千四百四十四戶の增、新、改築を示してゐる。其坪數の關係に於ても、前者を合したるものゝ建坪六萬三千六百五十參に對して、五萬五千四百九十二坪を、延坪九萬七千百二十八に對して、九萬一千一百坪を、約り前者に對して、その八七%餘を、後者に對して九四%弱を占めてゐる。要するに、住宅地としての運命が殆むど去らむとしてゐる處の我大阪都市に於ける建築物中增、新、改築の凡てが、縱むば全體の戶數と坪數に對して頗る劣勢なりとは云へ、住宅建築が凡ゆる建築物中の優位を占めてゐることは注意すべき現象である。

殊に屢々祝融子の獰猛なる舌頭に嘗め竭されるの災禍を繰り返しながら、而して建築費の關係に於ても比較的不廉なるにも拘はらず、大正十年中に於ける件の建築物中、木造建築がその九七%を占めてゐるの事實は、寧ろ奇異に禁へない現象である。斯の事實より勿論種々なる暗示を摘み得られるが、就中、建築に對する研究と、因襲的生活を脫るゝの努力なきと、而して、之を全體としては、都市生活に於ける公益觀念の淺弱なるを推想し得られる。

今之を具體的に擧ぐれば、大正十年中に於ける大阪市内の建築物既記四千五百四十一戶中木造建築は四千三百九十二戶（建十萬八千百五十三坪、延十六萬二千三百七十七坪）にして構造に於て理想的建築とされてゐる鐵骨混凝土又は鐵筋混凝土

造煉瓦造又は石造に到つては、僅に百四十九戸全體の約三%を有するに過ぎない。之を坪數の比較にしても、總坪十一萬九千百四十五、延坪十八萬八千二百二十八に對して、前者はその九%即ち一萬九百九十二坪、後者はその十四%即ち二萬五千八百五十一坪といふ少數である。

更らに注意すべき現象は、住宅建築の總數二千四百四十四戸中、殆むどその全數が木造建築にして、僅に煉瓦造又は石造の三戸あるに過ぎない事實である。而も其坪數が建三坪・延二十七坪なるに到つては殆むど問題でない。殊に商業的建物九百九十二戸中、その多くは店舗、倉庫又は事務所等なるを推測するに難からぬが、住宅に次いで櫛比し、隨つて災害上の關係が住宅と異らざるそれ等の建築物九百四十七戸即ち約九十九餘%は木造にして、二十戸の煉瓦造又は石造此の建坪六百七十九坪、延一千四百二十坪と、鐵筋混凝土又は鐵骨混凝土の二十五戸、建三千百八十五坪、延一萬四千三百七十五坪を有するに過ぎずして、商業的建物全體の戸數に對し、纔に〇九餘%戸といふ貧弱さである。

近時ビルデイングの頻出せるものありて、件の商業的建物九百九十二戸中約三十六戸のビルデイングを含むものと觀るを相當とする、而して上記四十五戸の鐵骨又は鐵筋混凝土其他の大部分は之に屬するものと觀て大差なしと思はるゝが、然らば商業的建物の九十九餘%を占むる木造建築本來の性質として、纔に二階以上を出でざるべく、其大部分が平面的にのみ地積を占有してゐる事は、其建坪と延坪の差、僅に一萬四千七百四十七坪、之をその木造總戸數九百四十七戸に平均すれば、十五坪餘といふ僅少な事實より歸納して推測するに難からぬ。斯の事實は我大阪都市の地積が年々黄金化しつゝある現狀より觀て、又建築物の行き詰まれる事實より稽へ、大阪都市の現狀は必ずしも行き詰まれるに非ずして、寧ろ無要にして贅澤なる現狀こそ斯の行き詰りを生じたものと觀て差支へない。故に、將來に於ける大阪都市の建物は現在の平面的に贅澤振りを發揮してゐる商業的木造建築と住宅との整理に在る。而して其整理の中

心は商業的建物をビルディングに集中し、住宅を郊外に移すの機運を促進するにある。

記者は以上に於て概叙せる事項を鳥瞰的に識るため左表を揚げて置く。

大正十年中市街地建築統計表（大阪市）

用途	構造	棟数	建坪	延坪
住家	木造	二、四四一	五五、四七八	九一、〇七三
	煉瓦造	三	一四	二七
	石造			
	鐵骨造			
	鐵筋コンクリート造			
	計	二、四四四	五五、四九二	九一、一〇〇
商業的建物	木造	九四七	二三、七一九	三八、四六六
	煉瓦造	二〇	六七九	一、四二〇
	石造			
	鐵骨造			
	鐵筋コンクリート造			
	計	九九二	二七、五八三	五四、二六一
工業的建物	木造	八五四	二五、四八六	二八、九三五
	煉瓦造	三八	一、八四八	二、六六一
	石造			
	鐵骨造	六三	五、二六六	七、三六八
	鐵筋コンクリート造	九五五	三二、六〇〇	三八、九六四
	計			
其他建物	木造	一五〇	三、四七〇	三、九〇三
	煉瓦造			
	石造			
	鐵骨造			
	鐵筋コンクリート造	一五〇	三、四七〇	三、九〇三
	計			
合計	木造	四、三九二	一〇八、一五三	一六二、三七七
	煉瓦造	六一	二、五四一	四、一〇八
	石造			
	鐵骨造	八八	八、四五一	二一、七四三
	鐵筋コンクリート造			
	計	四、五四一	一一九、一四五	一八八、二二八

本表ハ大正十年中新築增築改築ニシテ市街地建築物法ノ適用ヲ受ケ竣功シタルモノニ就キ調査ス

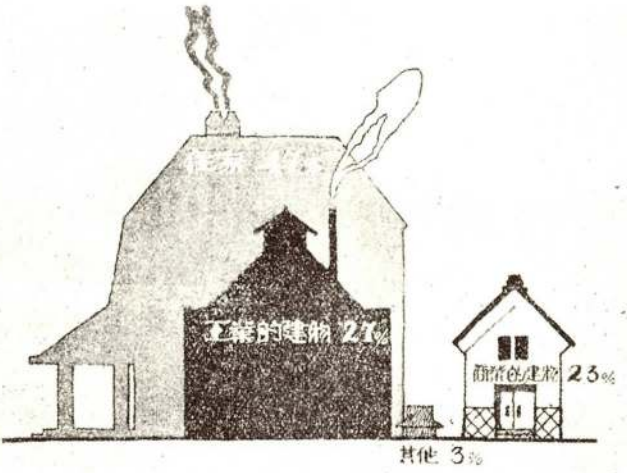
以上叙記せる大正十年中の新、増、改築は大阪全市の家屋數と收容人口等の上に如何なる影響を與へ又は少くとも如何なる影響を與ふべきかを考察せむため、其前年度即ち大正九年中に於ける大阪市の現在家屋に就いて概叙する事としよう。即ち大阪全市の家屋數は二十三萬九千百六十八戸にして、此の内、官舍、社寺、學校、病院、興行場等の特種建物二千百四十七戸と、一萬四千百二十戸前の土藏とを含むである。されば其内住宅に屬するものは、二十二萬二千九百一戸である。大數上先づ之を動かないものと觀る。扨て上記大正十年中に於ける新、増、改築の住家二千四百四十四戸中、收容人口の面積に於て又は一戸の住宅としての關係に於て、住家増殖の結果を産むべき新築増築は幾等の戸數に當るや今之を識るの便宜を有せないが、件の二千四百四十四戸を新築と増築と改築の三者に平分して各其一を有するものと假定せば、約一千六百三十戸は増築又は新築即ち住宅戸數増加に屬する譯となる。

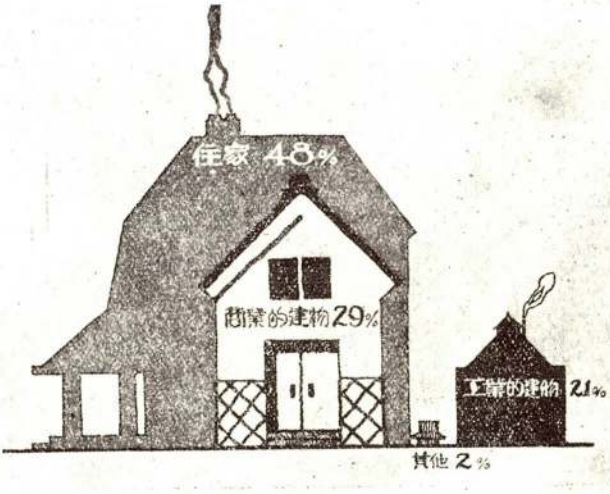
而して大正九年十月一日に行はれたる國勢調査の結果が示せる大阪市世帶及人口を基準として考察すれば、住家一戸に對する世帶は一世帶二三を示し、其一戸人口は五人五九なる平均を示せるが故に、件の大正十年中に於ける住家の新、増築一千六百三十戸は、實に二千〇〇五世帶弱と、九千百十二人弱を收容する割合いと成つてゐる。其他上叙商業的建物の九百九十二戸及び其他の建物一百五十戸も、一面に於て事務的建物なると同時に居住の用途に供せられあるものも少からざるべしと想察し得るが故に、實質的に住宅とし觀るべき建築は、大正十年中に於て相當少なからざる數に達してゐるものと觀て大差はないかと想はれる。

以上叙記し來れる大正十年中の建物に關し、就中その住宅建築は、今一つ注意すべき特殊な關係を有してゐる。扨は、實に件の建物は孰も市街地建築物法の命ずる條件を具備せるものであつて、其以前に於ける建物の多くが只消極的取締法の支配の下に施工されたるものと同日の比にあらざるの一事である。申す迄もなく『市街地建築物法』は指定されたる市街地の新、増、改築さるべき建物

に對して、保安と保健に關する種々な條件を規定してある。而して斯法の干渉を受くる建築物は實に大正十年中に於けるそれを以て嚆矢とする。故に件の建物は先づ以て、理想的條件の具はれる建物である、といふ特色を有してゐる。

次に記者は、以上の建物を各種の方面から觀る圖式を揚げて、讀者の參照に供することゝす。

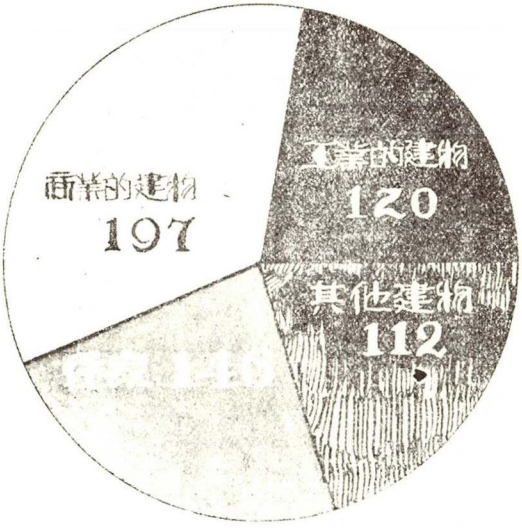





木造 86%
鉄骨造,
鉄筋コンクリート造 12%
煉瓦造,石造 2%


木造 91%
鉄骨造
鉄筋コンクリート造 7%
煉瓦造,石造 2%


木造 150
鉄骨造
鉄筋コンクリート造
257
煉瓦造、石造 162


商業的建物
197
工業的建物
120
其他建物
112

終りに、大阪市を中心とする接續郡部及び堺市に於ける大正十年中の新、増、改築の趨勢を觀むに、先づその用途別は、住家、倉庫類、工場以外の公衆用建物、工場にして、總棟數九千七十五戸中、遺に住家は其六十二餘%の五千六百三十一戸を算へ、之に亞ぐものは二十八餘%の工場二千五百七十三戸にして、其他の倉庫、工場以外の公衆用建物は兩者を合して、九餘%に當る八百七十一戸に過ぎない。

更らに、その建坪を比較せば、總建坪二十八萬八千三百五坪中、住家は十五萬七千五百六十坪にして、工場の十一萬二百六十七坪と、工場以外の公衆用建物の一萬四千百一坪及び倉庫六千三百七十七坪を合したるものを尙ほ超過すると、實に二萬六千八百十五坪といふ大なる差を示してゐる。

若しそれ、建物殊に住家の増加なる結果を産むべき新築、増築の狀勢を觀れば、全棟數九千七十五戸、建坪二十八萬八千三百五坪中、新築及増築は戸數に於て其九十一餘%八千二百七十二戸、建坪に於て二十六萬八千八百六十五坪即ち九十三餘%に當る。而して之を純然たる住宅建築に觀れば五千三百七十八戸、十五萬五千九十三建坪にして前者は約六十弱%、後者は約五十四弱%を示してゐる、蓋し、住宅建築が凡てを通じて最も優位に在るを識り得る。記者は、今斯編を結ぶに方り、以上概括せるものを左に揭げて讀者の參考に供することとする。

大正十年中堺市及郡部に於ける建築

用途	棟數	坪數
住家	五、六三一	一五七、五六〇
倉庫類	五一九	六、三七七
公衆用建築物（但工場ヲ除ク）	三五二	一四、一〇一
工場	二、五七三	一一〇、二六七
合計	九、〇七五	二八八、三〇五

同上建築工事種別

用途＼工種	新築 棟數	新築 坪數	増築 棟數	増築 坪數	改築 棟數	改築 坪數
住家	四、九六五	一四九、七五一	四二三	二、四六七	二五三	五、三四二
倉庫類	四六〇	五、七四三	三二	三一五	二七	三一九
公衆用建物（但工場ヲ除ク）	二二一	七、九三三	四八	四、八九五	八三	一、二七三
工場	一、〇八八	四一、七二四	一、〇四五	五六、〇三七	四四〇	一二、五〇六
合計	六、七三四	二〇五、一五一	一、五三八	六三、七一四	八〇三	一九、四四〇

同上大阪市内に於ける建築との對比

市郡別	棟數	%	坪數	%
大阪市街地	四、五四	—	一一九、一四五坪	—
郡部（堺ヲ含ム）	九、〇七五	—	二八、三〇五坪	—
其ノ差	四、五三四	約一〇	一六九、一六〇坪	一四

同上住家建築の對比

市郡別	棟數	%	坪數	%
大阪市街地	二、四四四	—	五九、四九二坪	—
郡部（堺ヲ含ム）	五、六三一	—	一五七、五六〇坪	—
其ノ差	三、一八七	一三	一〇二、〇六八坪	一八



内務省令第十七號と家屋（殊に住宅）及土地の差益稅

三　太　郎

『都市計畫法』は、都市計畫事業に要する費用負擔の主體を規定して、二箇の法條を設けた。即ち原則としては、國、公共團體、其他の一つとして、例外としては都市計畫事業に因る受益者である。

都市計畫法第六條　都市計畫事業ノ執行ニ要スル費用ハ行政官廳之ヲ執行スル場合ニ在リテハ國、公共團體ヲ統轄スル行政廳之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ公共團體、行政廳ニ非ザル者之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ者ノ負擔トス、主務大臣必要ト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ヲシテ其ノ受クル利益ノ限度ニ於テ前項ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

而して法は上記費用賦課の規定に對して、更らに一つの制限を附してゐる。即ち奈何なる場合にても、都市計畫事業の執行に因りて著しく利益を受くる者に、其費用を轉嫁し得る斯の原則に對して『都市計畫法施行令』第九條は、四箇の制限を附した。即ち(一)國が都市計畫を執行する場合には其の施行される公共團體が著しく利益を受くる場合(二)都市計畫事業地以外の公共團體を總轄する行政廳、又は其の上級の公共團體が總轄する行政廳が都市計畫事業を執行するとき、それに因りて事業地の公共團體が著しく受益する場合(三)都市計畫事業に因りて生じたる營造物例へば從來は店

舗として價値無かりし家屋が、道路の新設又は擴築に因り、店舗としての効用を生じて、之に由り著しく利益を受くる者あるとき、或は、都市計畫事業の執行に因りて生じたる營造物例へば道路又は交通機關等を利用するに因りて著しく利益を受くる者ある場合(四)上記の外都市計畫事業を執行されたるために著しく利益を受くる者として内務大臣より指定されたるものある場合、是れだけが上記費用賦課規定の適用範圍を定めたる條件的規定である。

而して、上記(四)の所謂『内務大臣より指定されたるもの』とは、大正九年九月内務省令第二十八號を以て指定されたる者である。是に據れば、都市計畫事業として新設され成は擴築され又は改良されたる道路、廣場、路面の兩側にして内務大臣に於て決定せる區劃内に在る有租地の所有者を以て、都市計畫法施行令第九條第四號(上記(四))の受益者とするのである。併し、斯の規定にも亦除外例があつて、その有租地に質權を設定されある場合、十年以上の期間を有する地上權の設定ありたる場合、其他、永小作權や賃借權の設定ありたる場合は、上記の『受益者』とはその土地の所有者にあらずして、その質權者、地上權者、永小作人及び賃借人である。而して以上は有租地に對しての規定であるが、上記内務大臣の定むる區劃内に在る無租地に就いて、公用又は公共の用に供せられざるものには上記受益者の規定を適用され、而して、その受益者とは此の場合、當該無租地の地上權者、永小作人及び賃借人を指すのである。

都市計畫施行令第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ非サレハ都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ナシテ事業ノ執行ニ要スル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得ス

一、行政官廳ノ執行スル事業ニ因リ公共團體カ著シク利益ヲ受クルトキ

二、事業地ノ公共團體以外ノ公共團體ヲ又ハ上級公共團體ヲ統轄スル行政廳ニ於テ執行スル事業ニ因リ事業地ノ公共團體カ著シク利益ヲ受クルトキ

三、事業ニ因リ生シタル營造物カ他ノ工作物ト効用ヲ兼ヌルニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキ又ハ其ノ營造物ヲ利用スルニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキ

四、前各號ノ外都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ニシテ内務大臣ヨリ指定セラレタルモノアルトキ

都市計法施行令第九條第四號ニ依リ受益者指定ノ件（大正九年九月六日内務省令第二十八號）

都市計畫法施行令第九條第四號ノ規定ニ依リ指定スルコト左ノ如シ但シ第一號ノ期間ニ付テハ事業着手ノ時ヨリ之ヲ起算ス

一都市事業トシテ道路若クハ廣場ノ新設、擴築又ハ路面ノ改良ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ道路若ハ廣場ノ兩側ニ於テ内務大臣ノ定ムル區劃内ニ在ル有租地ノ所有者但シ質權ノ目的タル土地ニ付テハ質權者、十年ヨリ長キ期間ノ定アル地上權、永小作權及賃借權ノ目的タル土地ニ付テハ地上權者永小作人及賃借人

一前號ノ區劃内ニ在ル無租地ニシテ公用又ハ公共ノ用ニ供セラレサルモノニ付テハ地上權者、永小作人及賃借人

本編に於て紹介せむとする命題の『内務省令第十七號」即ち『大阪都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔に關する』規定は、上記の法的經路を以て派生し來たのである。斯の受益者の規定は、單に大阪の都市計畫に就いてのみ適用されることは申す迄もないが、他面に於ては、他の都市計畫のそれに於ける一つの準則的規定と觀ても、決して差支へない譯である。而して、斯の規定は、必ずしも土地のみを對象とするのそれでなくして、凡ゆる建物即ち土地と一帶を成してゐる處の凡ての建物との關係に於て適用さるものであるが故に、都市住宅の問題としても、此處に之を紹介する事の無要でない、蓋し、住宅及住宅敷地が、都市計畫事業の執行に因りて、受益の關係を生じ得るからである。さるが故に、斯の規定を都市計畫と都市住宅に於ける兩側面觀として觀て頂き度い。

同令第一條は、都市計畫事業の一つたる道路の新設又は擴築に要する財源を求めて、（前記關係法規に基き）その費用は、上記の『受益者』に負擔せしむる、との總轄的規定である。而して、上記都市計畫法施行令第九條第四號の所謂『受益者』を指定せる處の、上記内務省令第二十八號の所謂『其ノ道路若ハ廣場ノ兩側ニ於テ内務大臣ノ定ムル區劃内ニ在ル有租地ノ所有者』とは、何れまでの地域を指すものであるかを第二條に規定し、『道路の兩側に於て道路幅員の五倍の地域』を以て受益者としての費用負擔地域を定めた。併し、斯の規定に對して、同條第二項は、土地の狀況と必要ありと認定したる場合の二條件の下に、上記第一項の規定に拘はらずして、内務大臣は別にその區劃

を設け得ることゝなつてゐる。

次に第三條は、受益者に賦課すべき工事費の割合ひを定めて、(一)道路新設の場合はその三分の一(二)道路擴築の場合は四分の一としてゐる。但し、道路擴築の場合と雖も、その實質量の奈何によりては、道路の新設と異らなき場合があり得る隨つて上記の如くその費用賦課の割合が異るが故に、同條第二項は規定して、その擴築すべき部分の平均幅員が舊道路の平均幅員の三倍以上なるとき、件の工事費負擔に關しては、それを道路の新設と看做してゐる。之と同時に、同條第三項は、その平均幅員の算出範圍を定めて、次記第四條第一項第一號の區分毎に算出することに規定した。

第四條は、上記工事費負擔の按排を定めて、三箇の制を設けた。即ち、地區制と、地帶制と、路線及面積制である。而して、地區制は、道路新設又は擴築等の路線を、その土地の狀況に依り適當に區分して、上記第二條の所謂『道路ノ兩側ニ於テ道路ノ幅員ノ五倍ノ地域』を一箇或は數箇の負擔區域と成し、それ等の各區域内に於ける工事費に就いて、その區の負擔額を定むる。次に、地帶制とは、上記地區制による負擔區の一種の連合であつて、都市計畫事業の執行に因りそれ等負擔區が受くる利益の厚薄に依りて、その負擔區を一箇又は數箇の地帶と成し、その各地帶に上記の負擔額を一定の率を以て按分するのである。終りに、路線及面積制とは、件の地帶内に於ては、其の地帶に分配されたる負擔額の二分の一を、土地のその路線に接する部分の長さに、更らにその殘額即ち二分の一を、土地の面積に、而してその他の地帶に就いては、その地帶に配分されたる負擔額を土地の面積に各比例して、受益者に分賦するのである。

但し、上記の工事費擔負に關して、若し二線以上の道路の工事費を負擔すべき狀況に在る土地に就いては、其負擔の一部を免除し得るのである。

(同第五條)

内務省令第十七號

大阪都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔ニ關スル件

第一條　市ハ都市計畫事業トシテ市長ノ執行スヘキ道路ノ新設又ハ擴築ニ要スル費用ニ充ツル爲本令ノ定ムル所ニ依リ受益

者ナシテ費用ヲ負擔セシムヘシ

第二條　大正九年九月内務省令第二十八號ノ區劃ハ道路ノ兩側ニ於テ道路ノ幅員ノ五倍ノ地域トス

土地ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ハラス内務大臣ニ於テ別ニ區劃ヲ設クルコトヲ得

第三條　前條ノ區劃内ノ受益者ノ負擔金額ハ道路新設ノ場合ハ其ノ工事費ノ三分ノ一道路擴築ノ場合ハ其ノ工事費ノ四分一トス

道路改築ノ場合ニ於テ其ノ擴築スヘキ部分ノ平均幅員カ舊道路ノ平均幅員ノ三倍以上ナルトキハ前項ノ適用ニ關シテハ之ヲ道路新設ト看做ス

前項ノ平均幅員ハ第四條第一項第一號ノ區分毎ニ之ヲ計算ス

第四條　各受益者ノ負擔金額ハ左記各號ニ依リ之ヲ定ム

一、各緒線ヲ土地ノ狀況ニ依リ適當ニ區分シ其ノ區分ニ依リ第二條ノ區劃ヲ一箇又ハ數箇ノ負擔區トシ該當區分内ノ工事費ニ付其ノ區ノ負擔額ヲ定ム

二、前號ノ負擔區ヲ利益ヲ受クル厚薄ニ依リ一箇又ハ數箇ノ地帶トシ各地帶ニ前號ノ負擔額ヲ一定ノ率ニ依リ配分ス

三、各路線ニ接スル地帶内ニ在リテハ其ノ地帶ニ配分セラレタル負擔額ノ半額ヲ土地ノ其ノ路線ニ接スル部分ノ長ニ比例シ他ノ半額ヲ土地ノ面積ニ比例シ其ノ他ノ地帶ニ在リテハ其ノ地帶ニ配分セラレタル負擔額ヲ土地ノ面積ニ比例シテ各受益者ニ配分ス

前項第一號ノ負擔區及第二號ノ地帶及率ハ之ヲ告示ス

第五條　二線以上ノ道路ノ新設又ハ擴築ニ要スル費用ヲ負擔スヘキ關係ニ該當スル土地ニ付テハ負擔ノ一部ヲ免除スルコトヲ得

次に、斯く負擔の範圍及び割合ひを定められたるに對し、本令は更らにその差益額の評定と負擔金の納附期日を規定して、前者に對しては、市長をして、その負擔區の工事竣成後一年内に、工事着手の日の現在價額と、工事竣成の時期に於けるそれとを、評價委員の評價に依りて取り決める。而して、その負擔額の納附は、原則として工事着手の日の現在に依りて納附せしむることゝなつてゐるが、場合に依りては、工事着手後最長五年以内の期間に分納を許し得ることになつてゐる。（同令第六條、第七條）

而して、同令は、次いでその第八條に、評價委員の組織を規定して、都市計畫委員會委員、名譽職市參事會員、市吏員、其他學識經驗ある者から各二名を以て組織し、孰れも内務大臣よりの任命の形式を採つてゐる。斯くして組織されたる評價委員會の決議は、第一に一般決議の形式に則り、委員の過半數の同意あることを要し、若も此の條件

を充たし能はざる場合は、委員會よりの指揮禀請に基き、内務大臣に於てその増價額を決定するのである。

更らに重要なる法條は、費用負擔の基本となるべき増價額である。同令第九條は、前記の如く評價委員會又は内務大臣の決定せる増價額の五分の三を以て費用負擔に對する基本額とした。而してその基本負擔額に比例し、工事費の三分の二を限度として、負擔金額を決定する。併し、是には、前記第四條の規定に於て、工事費負擔の方法を定めあるが故に、斯の規定との關係上、受益者の負擔金額が超過したる場合と不足せる場合を規定して、追徴と返還を爲すのである。

同令第十一條は、前記増價額の決定に對する保障を規定したものであつて、評價委員の爲した評價額に對して不服なる場合は、内務大臣に裁決を請求し得ることになつてゐる。而して、その裁決の請求は、評價決定の通知を受けたるときより一箇月以内に提起することを要すると同時に、その裁決は評價額の確定權を有するのである。

以上は、都市計畫事業の施行と所謂差益稅の實質を有する工事費用賦課、殊に『都市計畫法施行令』第九條第三號の「事業ニ因リ生シタル營造物カ他ノ工作物ト効用ヲ兼ヌルニ因リ著シク利益ヲ受ケタル者」ノ所謂「工作物」タル「住宅」の差益稅に就いて概要を說いたのであるが、終りに、差益稅の歷史に關して概記することゝしよう。

都市に於ける「土地」は、その都市諸般の改善事業を施さると同時に、都市計畫の如き都市の擴充を來すべき事業の結果は、土地に對する投機的な占有又は自然の増加に因る不當の利得を擅にするの弊を生じ、隨つて都市住宅問題の上にも少なからざる影響を及ぼせる事は、從來歐洲に於ける大都市の經驗せる處であつて、之が爲に諸多の法制上の變遷を見たのである。之を概說すれば、大約四期を經てゐる。第一は、私有地收益制限の時代にして、斯の時代に、市街地の地主は、自然の結果として地質の騰貴に伴ふ收益は年と共に増加せるに拘はらず、家屋建築に何等改善を爲さゞるを不當とし、市は都市の保健及美觀等を目的として

家屋建築に對する干渉法を設けた。是は所謂『住居檢閲制度』と『地帶指定主義の建築令』である。第二は、公有地擴充誘導の時代にして、上記の如く私人がその土地の增加額に因りて累進的に收得する利益を轉じて、之を公共の福利に供せむため市は多くの土地を市有として、之を都市經營の事業に資することゝなつた。第三は、土地利用奬勵の時代にして、市は上記の如く多くの土地を占有して、私人の不得利得を遮斷すると同時に之を公共福利の資に供する許りでなく、他面に於ては、私人の事業經營を促進して、公有地を利用せしむるの方針を採つたのである。第四は、土地課稅態用の時代にして、『賣買移轉稅』を起し、仍て投機的賣買を制扼すると同時に、他面には、土地增價額の一部を徵收した。次いで『建築豫定地重課制度』を設けて、建築豫定の空地に比較的重稅を課して、建築主が其實は土地增價を目的とする猾手段を制壓するの方法を採つた。更らに『累進價格稅』を起し、都市の發達により、殊に都市の事業旅行に因りて增加したる土地價格に一定の標準を以て特別稅を賦課するのである。

而して今日の所謂『土地差益稅』の實質は之に屬する。上記、都市計畫事業ノ執行に因りて著しく利益を受くる者に、工事費の一定の額を負擔せしむるのは、要するに斯の第四期のものに屬すると觀て誤りあるまい、と想ふ。

第六條　負擔金ハ工事着手ノ日ノ現在ニ依リ受益者ヨリ之ヲ納付セシム但シ工事着手後五年ヨリ長カラサル期間ニ於テ分納セシムルコトヲ得

第七條　市長ハ負擔區ノ工事竣成後一年內ニ評價委員ヲシテ工事竣成ノ時期ニ於ケル事業ニ因ル土地ノ增加額ヲ決定セシムヘシ

前項ノ土地增價額ハ土地ノ狀況ニ依リ負擔區ヲ區分シ各區分ノ增價率ヲ定メ之ニ依ラシムルコトヲ得

工事竣成後ニ於ケル各負擔區ノ土地增價額ニ依ル基本負擔額カ第三條及第四條ノ規定ニ依ル負擔金額ニ比シ大差ナシト認ムルトキハ市長ハ前二項ノ規定ヲ適用セサルコトヲ得

第八條　評價委員ハ都市計畫委員會委員、名譽職市參事會員、市吏員及學識經驗アル者ヨリ各二名ヲ內務大臣ニ於テ之ヲ命ス評價委員會長ハ市長又ハ其ノ代理者ヲ以テ之ニ充ツ

第七條ノ決定ハ委員半數以上ノ同意アルコトヲ要ス其ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ內務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ此ノ場合ニ於テハ內務大臣增價額ヲ決定ス

増價額ヲ決定スヘキ土地ニ付利害ノ關係アル委員ハ其ノ決定ニ付議事ニ參與スルコトヲ得ス

第九條　第七條ノ增價額ノ五分ノ三ヲ基本負擔額トス

第十條　市長ハ基本負擔額ニ比例シ其ノ範圍內ニ於テ工事費ノ三分ノ二ニ至ル迄各受益者ノ負擔金額ヲ決定シ第四條ノ規定ニ依ル各受益者ノ負擔金額カ超過シタルトキハ之ヲ返還シ不足セルトキハ之ヲ追徵スヘシ

追徵ニ付テハ第六條ノ規定ヲ準用ス

第十一條　受益者ハ第四條ノ規定ニ依リ評價委員ノ爲シタル決定ニ異議アルトキハ決定通知後一月以內ニ內務大臣ノ裁決ヲ請求スルコトヲ得

內務大臣前項ノ裁決ヲ爲シタルトキハ其ノ裁決ヲ以テ第八條ノ決定ト看做ス

第十二條　道路ノ新設又ハ擴築ニ要スル費用ヲ補足スル爲土地物件勞力又ハ金錢ヲ寄附シタル者ニ對シテハ其ノ寄附額ノ範圍內ニ於テ本令ニ依ル負擔ヲ減免スルコトヲ得市長カ適當ト認ムル工法ニ依リ工事ヲ施行シテ之ヲ寄附シタル者ニ對シテ亦同シ

第十三條　本令ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

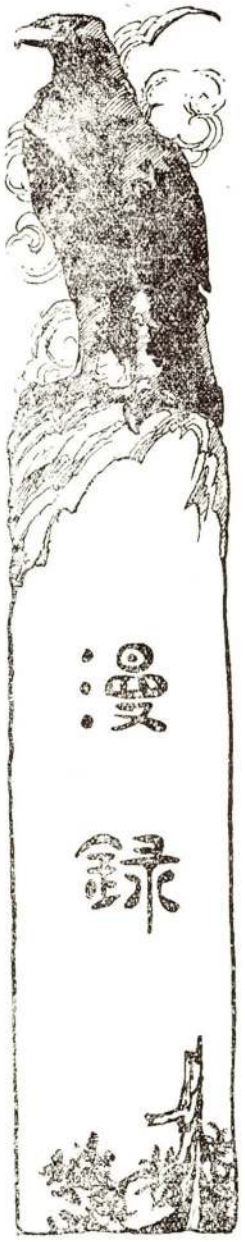
附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

秋

木立古る
月半輪に
傾きて

そなた下
りに雁お
るなり



『家』と William Morris の藝術觀

郊邨生

わたくしは、去る七月の『新住宅』に、ウキリアム・モリス氏の藝術觀を象徴せる室内裝飾の事が出てゐたのに暗示を得まして、モリス氏の藝術觀そのものと、『家』の關係とを少々書いてみたいといふ謀反心を起しました。

申す迄もなく、モリス氏の藝術觀なるものは、所謂獨占的又は階級的藝術を認容してのそれではありません。云ひ換ゆれば、藝術家といふ藝術王國の特權階級を以ての藝術觀ではありません。寧ろ、彼れは、斯うした獨占的の意味な藝術を何處迄も否定して、今日の流行語で謂はゞ、藝術の民衆化とでもいふように、わたくし共の生活凡てが藝術でなければならぬ、と云つてゐるのです。

モ氏は斯ういふ意味で藝術を正視してゐる人ですから、彼れに云はすれば……その見解から歸納して……今日の所謂藝術家といふ自ら好むで藝術的特權階級かの如く澄ましてゐる人達、昔、平家の世に時めく頃、平氏の一門にあらざれば人間でないが如くあしらつた樣に、藝術を解する者は藝術家の外はない、藝術的生活とはそれは藝術家の

生活だ、と獨り高ふしてゐるかの感あるのは、モ氏から看れば、嘸かし噴飯の極みでしよう。

そして、可笑い事には、音樂、繪畫、彫刻、劇文學の或もの抔を藝術だと做てゐるまでは無難ですが、并奴を何處迄も絶對化して、逆に、藝術とはそれだ、といふような考へを有つてゐらしやる所謂藝術家さんが在すのですから、モ氏は、日本現代の藝術家の偉さにおッ魂消るでしよう。

其處へ持つて來て、例の科學者といふ人達は、その一流な分解と綜合を藝術の上に持つて來て、やれ空間藝術だの、それ時間藝術だの、乃至は、立體だの平面だのと、藝術家の藝術に囚はれてゐるように、彼れも亦藝術の對象そのものに虜になつてゐるのです、是も、モ氏一流からせば、嘸かし、ウフ、、と嗤つてゐるでしよう。

それならば、一體モリス氏の藝術とは怎麼ものであるか、そして、「家」との關係に於けるわたくしの考へは怎うであらうか、是からぼつ〳〵書いてみましよう。

モリス氏の藝術觀を窺ふには、彼れの勞働觀を覗くのが一等徑捷な方法であります。そして、氏の勞働觀は、則ち文明觀であり、則ち工藝觀であるのであります。單り是れ許りではなく、例の喧しい社會主義抔に對する氏の見解は、此の藝術的勞働觀自然の歸結として、現代社會主義中にては最も穩健にして唯心的理想主義？とでもいふべき彼の組合社會主義（ギルドソシアリズム）の如き、實は氏の藝術的勞働觀に負ふ處が多いのであります。

事の序ですから書いて置くのですが、現代社會改革者として、又宗教家として有名な彼のエドワード、カーペンター（Edward Carpenter）との關係です。ペンチー（A. J. Penty）は、所謂社會主義の殆むど凡てが、どちらかといふと、唯物的であるのに慊焉として、各自の自由なる勞働により藝術的に勞作するといふ組合社會主義の創見者である事は述ぶるもくだですが、その思想の多くをモリス氏に負ふ處あつたのは、只今記しました。そして、カーペンター氏の思想もペンチー氏の組合社會主義の創見に非常な影響を與へたのです。斯くして、斯のモ氏とペ氏とカ氏とは、其處に共

通な思想の或る大きなものを有つてゐるのです、それは、一口に云はゝ、生活の藝術化又は藝術的生活で、之を稍具象的に云つたのが勞働の藝術化です。

わたくしは、今這麼事を詮索してゐる暇はありませんから、先づ、モリス氏の藝術觀に進むで、そして、わたくしの『家』に對する考へに入りましよう。併し、その前に、今一度びちよツと失敬して、カーペンター氏の、わたくし共現代人の生活は怎麼風のものであるか、斯の大思想家の眼底に映じたものを、此處にちよツと拜借しましよう、是は、囑て、モリス氏の藝術觀を裏書する一ツとなるからです。……カーペンター氏のものにして我等の敬服すべき言葉は、勿論一にして足りませんが、以下のは其一つです。

氏は『生命の藝術』といふ事を說いて曰く、『敵の陣營を潛り脫けて走る逃走者の樣に絕へず發見せられん事を怖れ、絕へず自己の思想感情を隱して一生を送る者や、奴隸の樣に一生人から絕へず强迫されて生活する者は、生きるのではなくして、唯存在する迄である』併し、吾々の多くは、斯ういふ生活をなしてゐる。我等は、時勢や、傳說や、習慣に依つて四圍を封ぜられてゐる、だから、事を爲す旣に習慣的であり、無意義的であつて、傳說以外に何ものをも表現することは出來ない。勿論實感を現はすことは出來ない、吾等は、自己の腕前を示す事を怖れ平凡な車の跡を追ひ、怠惰な一致を求めてゐる。でなければ、パンの奴隸となつて、汲々として働き、四六時中一二時間も吾がものになれば得たりと思ふ樣になる。そういふ生活は、眞の生活でなく、寔にくだらない生活、それは一匹の羊が存在してゐるのと同じ事である』と。

モリス氏の藝術觀なるものも、上記の言葉から掬み得るものと、色も滋味もよく似通ふて居ります。是が囑てベンチー氏のそれだとも云へます。併し、わたくしは先きを急ぎましよう。

第一にモリス氏は、現代の文明を呪ふてゐる。即ち、『現代の文明なるものは、決して人生に藝術の生活を、換言すれば眞に祝福ある歡喜を發露

する處の生活を與ふるでなくして、凡ての生活が乾燥したる生活即ち事務化の商業化の生活、隨つて生活のオーシスたる『美』は漸次に破壞され衰亡され畢る。斯の關係は藝術の上に於て著しい。往昔に於ては、偉大なる思想家の現代よりも多うかつたとは云ひ得ないかも判らぬ。けれども、多幸なる仕事師の多かつたとは、遙に現代を凌いでゐた。斯る人達は、その藝術的良心の必然な要求として、常に獨創的な思想を表現したので、其製作品には美と含蓄があつた。然るに、ルネイッサンス末葉以來、美術は時代と共に衰退より衰退を重ね、曾ては、美術的な製作品たりしものも、現代に及びては、機械を以て大量的生産をなすに到つた。而して、「人」と名付けらるゝものこそ、實に其機械である。斯樣にして現代の所謂文明國人は、美術が民衆の爲に民衆の作る處のものであつたことゝ、それを作りたる者も、それを用ゆる者も、共に等しく歡喜の享樂をなした時代が昔に在つたことを全く忘れてゐるようである』と。

斯くて、モリス氏は、藝術的勞働觀に言及して歡喜する勞働は、拘束又は强要に因らない自處の由なる勞働なることを要する。自由意思に由る勞働は、喜悅こそあれ、決して苦痛ではない、而して、その歡喜の表象こそ、藝術そのものであるが故に、藝術なるものは、必ずしも藝術の爲の藝術でなくして、常時の勞働そのものも亦藝術たり得る、從つて、日常の製作品でも亦美術品たり得るのである。されば、勞働を自由にして快適ならしむることは、勞働を藝術化することであつて、其處に、藝術と人生がぴたりと抱合するのである。即ち、藝術は少數專門家の餘技でなく、實に普通な人達の普通な勞作と合致する處に存するのであると云つてゐる。

『試みに、サウス、ケンシントンの博物館を訪ねよ、其處には驚くべき美しい多くの小美術品が陳列されてある。而も之等のものは、美術の爲に作られたる美術品でなくして、孰も古き時代に於ける日常品である。而して、之等の小美術品は、普通の指物師や普通の職人が其の常時尋常一般の仕事として製作したものに過ぎない。蓋し、之等

の職人は、仕事に對して、溢るゝ歡喜と滿足を以て從事したからである。』

『建築物に就いてみても、現英國の有する多くの古建築物は、今日の有名なる大家も建て得ざる程な美しきものとして遺つてゐる。幷は孰もその當時に於ける或人々の住居であり、又或人達の祈禱の場所であつた普通の建物に過ぎない。而も、その多くは、田舍の大工や左官や鍛冶屋達の手によつて作られたもので、建築術の堂々たる大家の手に成つたものではない。斯くの如きは、所詮、それが歡喜を以て行はれたものであり、苦痛とせざる勞働に於て成されたからである』と。

以上は、モリス氏の言葉その儘ではないが、氏の勞働觀及藝術觀の大要を採つたのであります。勿論モ氏の斯觀は、這麼事で竭されるのではありませんが、先づ、氏の思想の滋養な處を此處に少し許り頂戴して、わたくしの住宅觀を書いてみたいと存じます。

生活そのものは藝術です、生活の中に藝術をちよツぴり看出すのでなくして、逆に謂はゞ、藝術が生活そのものでなければなりません。即ち、藝術と生活といふ事は、所謂楯の兩面なのです。今の所謂藝術家なるものゝ一階級の在る事は、藝術が斯ういふ階級的又は割據的なものだ、といふ意味でなくして、實は凡ての生活が、色褪せたり、潤ひのないやうになつた左劵で、謂はゞ、アイヌ人のような衰亡人種が凡ての「人類」てふ生活から段々と彼ツこの方へ追ひやられると同樣に、『藝術』が『人類生活』から追々と排退されて、その餘喘を保つてゐるのが、今日の所謂藝術家の藝術となつたのであらう、とわたくしは想ひます、

……這麼事を申上げて、藝術家で許してゐらツしやる方のお氣に障つたら、どうぞ寛量を以て宥して頂き度い、間違つても、動機と目的の善い批判は、自身として神聖?ですから。……仍てその證據には、藝術家と云つた處で、その表現の範疇とが形式とかいふものに於て何處までも藝術でありましようが、さりとて、大概の藝術家の生活其ものは、決して藝術であり得ない場合が多いのです。長くなりますから端折りますが、兎も角わた

くし共は、藝術的生活そのものに戻さねばならぬと想ひます。

仍て『家』ですが、丁度わたくし共が藝術的な生活するかとて、何の自制も拘束も手段も方法も無視して無闇に自らを外部に創造し表現することは出來得ないように、『家』といふものが、幾等生活の一部面に重要な部分であり、それを藝術的に遣るかとても、科學と社會的權威ある慣習と、其他の關係上、大概定まつてゐるものなのです。純理から云はゞ、銀座の眞中へ丸太小屋を建てゝ、大阪の目貫な北濱へバンガローを拵へても、それが自己を家に創造し發現する限りは、實際嗤ふべき事ではないのです。けれども、實生活としては種々なる約束と自制と慣行があります。

併し、それよりも先づ問題となるのは、概念に於ける『家』でなくして、現實な『家』そのものは藝術的產物であるか、怎うか、といふ事です。之を動的方面から觀れば『家』の建築そのものを、藝術と云ひ得るか、といふ事なのです。けれども藝術といふものを、以上のように解しますならば、『家』を建てる事も、居住生活そのものも、勿論藝術には相違ないのです。

『家』の歷史的過程は、恰當、進化論的に觀た人間生活のそれと同樣に、實は、單なる生活から漸次に理想といふものゝ崩しを有つ生活に進むで來たのです。云ひ換ゆれば、只外界との交涉に於て所謂自己保存の外何ものもなかつた人間が、今日では、謂はゞ消極的生活線を突破して、外界に自己を創造せむとする積極的な生活に移つた樣に、『家』の歷史も、實は同樣な經度を有したのです。之を素朴的に云はゞ『實用』から、その『實用』を核心に包むだ『藝術』に移つたのです。更らに云ひ換ゆれば『美』を多分に含むようになつたのが、『家』といふものに、『美識』としての自己を創造したのです。

斯ういふ見方からしますれば、現今の住宅建築は……少々極端な云ひ現し方かも知れませぬが、そして必ずしも住宅許りでもありませんが……凡ての、所謂樣式といふようなものから超越することにあるのです。自己といふものゝ眞實性を『家』

に藉りて象徴するに在りとせば、構造技術以外科學の法則以外、其處に何ものゝ干渉はない筈ないのです。

ですから、住居の改善問題の如きでも、洋式だの、折衷だの、又は保守的に日本式だの、と云つた處で、それは、畢竟、概念的な問題に過ぎないので、凡てが自由に在るべき筈なのです。隨つて住宅建築に對する藝術的價値の批判は、——美的價値の批判と云つてもよいですが——哲學的に觀た「美」の標準よりも、寧ろ、その建築主の、そして實際施工者の理想そのものを標準として、それがどれだけ「家」に表現され創造されたか、といふ事を見なくてはなるまい、と想ひます。そして、その理想自體の價値奈何は、自ら別な問題に屬します。

併し、「家」といふものを藝術として觀れば、わたくしは所謂綜合藝術の一つに屬するものとするのを相當と存じます。所謂設計の範圍では、まだ藝術に到るの過程かも知れませんが、Design に到つては既に藝術です。そして、施工に及むでは現場監督の頭腦も、石工の鐵槌一つの手も、乃至は大工の鋸一つ動かすにも、其他、文化的諸設備に於ける施工も、皆な一人々々の藝術——或は小さい藝術——が「家」といふ綜合美を成すのです。隨つて、問題は、最初に轉回して、所謂勞働と藝術の關係になるのですが、現代のそれが怎麼ものであるか、といふ事は、以上モリス氏が雄辯に證明されて居ります、そして、わたくしは、是で端折ることゝ致します。

……

秋

……

古舘秋の

千草に鐘

入れて

只今、私の考へて居りますまゝに

大須賀巖

(一)

私の生家は大利根の河尻が霞が浦と北浦との大湖の水を合せて、太平洋に注ぐ間に出來たデルタの中にあります。東京あたりの人は此邊に名付けて『水國』とか『水鄕』とかいふて居るのです。一面の沼と田で薪採る林は勿論、畑地すら乏しいので日常の蔬菜すらも都會の人の樣に他土地より仰がねばなりません。ですから住民は其土地に生じた米を唯一の財源として生活に要する總ての物資を稟くるのです。而して私の幼少の頃迄は三年に一度宛の洪水に浸されることは常例でありますので此土地には宏壯な住宅といふものがあらう筈がありません。トコロが此水鄕の三面を取卷いて流れて居る利根川——海の出口に近い處では牛が此方の河岸より向ふ岸に居るのを見ると鼠程にしか見えぬと土地の人の誇つて居る其兩岸に沿ふて緩い小山や岡の連つて居る常陸下總の山地の親類へ參りますと、私共の第一に驚かされますのは欅の太い樹で圍はれた屋敷とイカにも舊家らしい山の樣な家屋とでありました。

故鄕を幼少の頃に出て東京に許り育つた私は旅行に出て驚異の眼を以て睜るものは田舍の大きな家でありました。就中舊木曾街道を旅した折の山國の家の情調は、此頃武田博士が御紹介になつたアノ古風な頑丈な家に心をとめずには居られませんでした。都會の貸家普請にのみ棲はざるを得なかつた貧乏人には、木曾の山水とノンビリした住民の家とは、離るべからざる印象となつて今に殘つて居ります。

暖かい處、平らな地方にはアマリ宏壯な建物が見當らなくつて寒い處、山國には宏大なものが多

いと推斷せしめた私の狹い實驗(?)統計(?)は、都會地や富豪の家邸には女兒が多く、田舍、貧乏人の家には男兒が多いといふ統計學者の推論位の價値はあると信じます。

(二)

曾て見ました印度佛蹟の寫眞の中に、石山を開鑿して其巖彫刻師が大理石を克明に彫つたかの樣に象牙彫も三舍を避くる程に精巧を極めた、然かも今日の殿堂ソツチ除けの立派なものを發見しました。ソコで私は素人考にコウ直覺致しました。

石材で造る現今の所謂西洋建築の起源は之から出たもので、其後石材を切つて積み重ぬることや煉瓦を疊むことが發見されたので、起源の彫刻的建築の模倣より出發して遂に一層細かく組立つことの出來る材料の發見によつて自由な式と爲つたのでありましよう。殊に彼のドームはアーいふ形ちの軟弱な材料で造つたものを、石の箱見た樣な建築物の上にクツ付けたものであらうといふ建築史家の說明は、石造建築の起源が若かく不融通な彫抜き建築であつたことの半面の說明である樣に思はれます。

ソレから木材建築の代表であります私ども日本の建築は、建築史の敎ふるところによると、今日の家の屋根許りのものであつたのが其下に柱を建て次で床と樣とが出來た樣であります。恰度小供が木片で遊戲する時に家根に相當する木片を見付けて、其下に四角な木片を置き、更らに考へて其下へ板と四角な木切れを置いて家が出來上るといふ順序の發達であらうと思ふのです。ツマリ今日いふ西洋のものは外から造つて行く手法から發達し、日本のは內から築き上げて行くとに發達したといふ根本的の相違があると見て差支ありますまい。之を東洋の文學は形象であり、西洋のは組立式の幾何學的であるのと較べると面白い現象です。

トコロが更らに觀察の方面を換へて考へますと此の樣に起源發達を異にして居る兩建築も、小さい材料を用ふることの發見によつて何れも長足の進步を遂げたことは軌を一にして居るのです。西洋建築に就ては前陳の通りでして、東洋建築中日

本の例として彼の東大寺の柱の割木で造つたものが反つて自然木の同じ太さのものより強いことが知られて、大建築が出來た事實は餘りに知れ過ぎて居る事實であります。

材料の發見革命は東西洋の建築に一貫して各々其革命を餘儀なくせしめたこと、材料の細かいものが發見さるゝによつて增々大きい建築を造らせることに役立つたことは議論の餘地のないことでありましようが、此愈々細かければ細かい程東西の建築は互に共通點を多くして、極大極小の結果は最後に一に歸するの論法で、材料の革命又革命は遂に東西の區別を喪ふべきものであるといふ推論は私一人のみの思考でありましようか。

(三)

私どもの住居の爲に專門家、然るべき權威者が議論して下さるものゝ中で、私どもの耳に强く響く主張は西洋式にすべきか日本式にすべきか（純西洋式、純日本式、折衷式と小區分はありますが（であります。が一體私どもの日本といふ國は申す迄も無く熱帶から寒帶迄擴がつてゐるのであります。之を一つ型で何處も同じ樣に律して行くとの出來ないのは言ふ迄もありません。そこで西洋だつて北の國の月見草に似合ふべく發達した建築と、南歐の橄欖樹の深綠裡に生ひ立つた廻廊造りとは似てもつかぬ起源と發達があつたのでありますが、同じ神の子の御惠みに交通の發達、科學の共通の結果所謂西洋建築として私どもも同胞の眼には西洋人の顏がドレも之も皆同じ樣に見ゆるが如くに認められて渾然大成、印度海峽濠洲殖民地等に發達したものも矢張り西洋建築として大きな顏をして居る樣ですが、仔細に分類すれば同じ樣式の中に英、佛、獨、伊各々其趣味を異にして居るのは敢て識者の敎を蒙らなくつても解る次第です。

日本建築とした所で場所によつて風が變つて居る許りでなく、或新しい（？）奧樣なんぞより散々批難される座式日本建築でありますが、其の昔寢殿造りから書院造り茶座敷は何れも當時の日本國民中流惰なる支配階級か、或は盲目的に之に倣ふた特殊人の逸樂せんが爲の特別建築であります。

此時代に於て國の本であつた農民其他の人々は活動の室と寢室とに家屋を二分して、活動の場所は勿論立式であつたことは言ふを俟たぬとで、所謂座敷なるものは其後社會的地位を上せて遊惰階級に模倣した種類の家でも農家、町家共に今日の如く家屋一杯に疊を敷きつめたものゝ無かつたことは明らかであります。ですから日本の家屋――座式、西洋建築――立式と極めてしまふのは早計であると思ふのです。只私ども日本の建築は其起源に於て木の枝を組み合せた家根から出發して、其後比較的容易に手近から木材を手に入れることが出來ました關係上（鴻の巢の岩窟生活の遺跡はありながら）木材による建築のみが發達し、ソレに貴族のすることは文學も思想も生活も下民を風靡する勢力を有し、農民でも商人でも少し金が出來、位置を繕ふ必要が生ずると、直ちに遊惰な貴族の生活を模倣するに力めた結果、殊に維新の解放は日本人の住居は全く活動に不便な座式の建築であるかの感あらしむるに至つたのであると思ひます。

以上の推論が間違つて居らぬとしますれば、私は今日以後の私どもの住居に對して日本式であるとか西洋式であるとか區別してかゝる事は、日本人其者の國民性よりしても無意義のことである樣に思はれます。私どもは只端的に科學の上に基礎を据えて『私ども人間の住居は何であるか』を考ふればよいので、今日の科學の力と文化の程度に從つて人間一般に共通で、最少限度の効用を有する住宅其者を先づ決定して、之を變化應用あらしむる條件として其人の趣味とか富力とか、土地による經濟狀況とか、其人の職業とかいふものによつて夫々別異の『個性』を發揮せしむることが必要でありましよう。

（四）

クドイ樣ですが繰り返して申しますれば、科學の進歩した交通の開けた今日、當然私どもの『家』に對して起るべき革命は、材料の世界的といふ事からであると思ひます。日本で是迄廉であつた木材は米材に對して不廉と爲りました。人類の文化史の跡をたづぬると、自然物より人工品に進んで

參りました趨勢と、建築の材料の小なるものが發見されればされる丶程反つて大きなものを造り出したことと、細かい材料程世界的材料と爲ることを考ふると佛蘭西の植木鉢から生れて亞米利加西海岸の地震に試錬を經た鐵筋コンクリートの出現があり、更らに雜誌の報ずるところでは或液體から陶器式の家屋を造ることが發見されたと云ひます而して今日の私どもの生活に對しては簡易化が要求されて居ります。又生活の合理的な最少限度以上であることも要求されて居ります。現代文明の恩惠を一人も漏るゝこと無くうけ得る『人間の家』を發見することを、何よりも先きに決めなければならぬ今日であると考ふるのです。而して此問題は未だに決せられて居りませぬ。

此第一次の根本問題が決せられて、第二次の特殊の材料の供給とか金と其人の趣味とか等で個々の人に應じての家が出來る譯ですが、第一次のものが極まらぬ今日に於て、此時代を表象する根本建築の決定に就て、建築家は勿論其時代を形成して居る現代人は凡て之に向つて盡力する義務があると思ひます。第二次のものは申す迄もなく其大部分は建築家の『自己表現』とか『創造』の獨壇場ともいふべきものでありますが、特殊の趣味ある人々が之に參加する權利と義務のあるは言ふを俟たぬことであります。

コンナ分擔、職制は目下の問題では御座いませぬ。私のコウいふ理想に到達する手段として現狀に慊らぬ氣持は、現實の建築家諸君並に建築せらるゝ方々の思想の上の事であります。則ち今日世上往々に生ずる事象として、或人が建築家に家を御願致しますると依賴者も、建築家も常にコウいはれる樣です『西洋建築に致しますか、日本建築に致しますか』『和洋折衷に致しますか』と而して建築家の御說明として『西洋建築なれで彼樣々々日本建築なれば彼樣々々』と其處に一定の約束があつて溝を超ゆるを許さないといふ口吻でありまず。私は(クドク申す樣ですが)實際的建築としては西洋とか日本とかいふ者はあるべき筈が無い。此區別は建築史の興味ある研究問題として措かるべきもので、實際生活の建築としてはアノ書院造

りに火燈窓が取付けられて無格好でない様に、西洋間の装飾として佛檀から出た床の間が取付けられ様と、ソコは屈托の無い自由な手法で人間の家としての第一次の要件を喪はぬ範圍に於て、第二次的のものは勝手に應用さるべきで、薩南の家屋と北海道の家屋は同じ日本でも異つたる生活に對して異つたる建築の提供せらるべきは當然であるソレを強いて西洋建築たらんが爲に今日の實生活に無意義な形式をも取り入れ様としたり、日本建築であるが故に科學的な經濟的なものも排斥しようと力めて然かも支那ものやオランダものを嬉しがる矛盾を敢てするのは滑稽でないでしようか。

更らに御迷惑ながら蛇足を餘計に加ふることを御願して——私どもの生活、家として西洋建築を御推奨下さる方の中には西洋に眞似ると、則ち文化生活であると思ふて入らつしやる方もある様でありますが『アチラの何處にソンナ眞似を致して居るところがあるでしよう』とか『アチラでは彼様々々』と私どもには論據として何の役にも立たぬ前提を振り廻はすのを見ます。私はコンナお言葉に對しては『西洋の生活だつて行詰つて居る現狀でしよう』と申し上げ度くなります。

(五)

私の幼い頃或る富有な家の子——友人の家を訪ねてからツクヅク西洋建の立派さが子供心に感せられて、貧乏な私の家庭が慘ましかつたので、側に居つた年嵩の書生君（その頃は東京にソウいふ階級の人々が中産階級の家に居りました。玄關番をしたり主人の御使をしたりしながら學校へ通はして貰つて居る）に其心持を話すと彼は直ちに『ソリヤ坊ツチヤン大きくなつたら西洋造りの家に御這入りなさい』と云ひました、が私は日本人の癖に西洋館に住むのは反逆であるかの様に感せられたので其事を話しますと、書生君は言下に『ソリヤ關ひますまい。日本の材料で日本の人が拵へて日本人が住むのですから！』といふのでした。

世界の平和は高唱せられて居ます。平和の爲めにエスペラント語の採用、交通の統一など主張せられて居ります。世界の人々の住居の統一といふ事が世界平和の招來にドノ位力があるかは語るを要せぬ事でしよう。

改善を試みた室々

廊下兼廣間――消毒出來る洋服箪笥――嵌込の裁縫板――日本座敷の暖房裝置――臺所――

日本赤十字病院長前田松苗氏夫人　**前田秋子**

天王寺小幡町に前田秋子夫人を訪ねて、この頃新築の邸宅に住まはれた感想を叩いてみる。同時にその室々を見せてもらふ。邸の外觀は純然たる洋風になつてゐるが、內部の客間一つと夫人の裁縫室兼納戸と云つたところ、及び女中室と女關横の豫備室とそれだけが日本風の疊の室であるがそれがさして不調和も感せしめないでいゝ具合に洋室の合間々々に隱されてゐた。以下は夫人の談話である。がその前に先づ訪問者の眼を惹いたのは、玄關を上つて直ぐ、とつつきの處が廊下とも廣間ともつかずに廣い板間になつてゐて、床はすべ〳〵と光つた厚い板張りである。夫人はそれに就いて次の如くに語つた。

――（M）

『これだけの空間を此處に取るといふ事は大變無駄な不經濟なやうにも思はれますが、これは思ひつきに多少考へを凝らした積りでもゐるのでございます。それは宅のやうに小さい子供が何人もゐる家ですと、自然雨天の時などの氣樂な自由な遊び場所にもなりますし、それも別に遊戲室でもあれば何ですがそれ程の大げさな必要もないかと思つて之に利用したわけです。すれば、それのみでなく、此處をもつと他の室の代用にもなりませうか例へば少し多勢のお客樣などの時にはゆつくりとした休憩の場所にも代えられますし、椅子卓を少し配置すれば何かの場合の廣間の代用にもなりませうか。又此處に之だけの空間を持つといふ事が大變寛濶な氣分を造つて、廊下といふものゝない

洋館には幾分日本風の間の延びた穏やかな氣持も味はゝれると思ひます。』云々

それから記者が夫人の導きで屋内の全部を見了つて感じた事は、第一には一種の荒い、それでゐて何處かにしつくりと落ちついた色の取合せであつた。それは大摑みにして單純な又強い基調から成つてゐたもので、例へば室の敷物の模様も壁紙の色合も、椅子も卓も窓掛も、それは目立たない極く澁い色から成つてゐる。恰もそれは世紀末的な、神經の細かな、鋭い刺戟から避けてゐることが氣持よく思はせるものであつたが、こんな中に只二つの大きな階調——それは白と黒(っ)との、明と暗との、最も色彩の根本的な二つに出發してゐる事であつた。從つて中間色は尠く、そしてその二つの基調と云ふのは、一つは全部壁や欄干や其他の白い部分に反して之は又扉から室内の戸棚から床や階段、みんなそれが赤く黒く光つたマホガニーが眞正面に對照されてある。それがどつしりと座つた大きな邸宅だけに行く先々に連なつてゐる事が目立つたのである。又もう一つ完全されてある事は暖房と給水の設備、押入の數、押入式に應用した洋服箪笥、壁に嵌め込みの裁縫板、物干、臺所、洗濯湯と、それは、徐程に考へられた跡が窺はれた。記者は夫人の談片のまゝを次に紹介しやう。

『私は成るべく押入の數を多く取る事を工夫しました。それは何と云つても押入の爲に室内が全部整頓する事が氣持いゝからです。で洋室にも日本室にも、臺所にも戸棚を多くしました。その中で少し考へたのは寢室に在る主人の洋服箪笥です。場所を取る箪笥を別に据え置く必要もないと思ひまして、少し念を入れた押入をそのまゝに箪笥にし、中に洋服懸け、帽子棚、其他を拵へてゐますそして今一つ工夫をしたのは主人の職業上、種々な患者に接しますし、中に不潔や危險の怖れもありますから、さうした場合の服を別に小さな一個の押入れに藏ひます。そしてその押入れの横には窓を開けて日光を受けるやうにしてありますし、又他の方法に依つても完全に消毒が出來、その後では窓を開けて乾す事も出來るのでございます。』

『この寢室(二階)の南側にヴエランダを取つてをりますが、此處は夜の涼み臺にも成り、又棹を癈す木製の臺を二つ拵へてゐますから、それを置いて蒲團其他を日光に當てます。之は女中が一々夜具等を階下に運んで乾さねばならぬ手數を省くのと、寢室が全部二階ですから臆劫なしによく日光消毒が出來る譯なのです。——今一つ之に次いで敷布や枕掛けや其他、夜のもの丶洗濯物は總べて二階の西洋風呂(之は夜遲く歸つたりする主人の爲に、或は他に取り急ぐ場合などに湯浴みするために洗面所に兼ねて洋式の風呂を拵へてゐます。この湯は階下の自動湯沸しに火を點じて僅かに二十分位ゐで湯が滿つのですから少しも不便に感じません)の在る横の窓から階下に落すやうになつてゐます。落したものは丁度階下の洗濯場の横に溜るやうになつてゐますから、之も物が散らからず持ち運びの手數を省きます。』

『それから各室々には總べて湯と水の供給を不自由なくしました。手洗ひ器とベルと電熱器の設備は皆一室毎に取りつけました。殊に主人の寢室の方にはそれらの一揃と電話と机を供へてゐます。之は夜遲くなつたりする主人の爲に必要のもの一齋をこの室に纏めた譯でした。』

『子供の勉強室は只今四人一緒に一つの室に居る事にしてゐますが、今は別々にするよりも子供達が賑やかなのを喜ぶからです。けれども大きくなつたら各一人づゝに一つの室を遣るつもりで、別に一つの室を用意してゐます。そしてその一つを更に二つに區別されるやう、手洗器もベルも扉も兩方に取りつけて居ります。手洗器の上の壁には矢張り嵌込にして鏡になつた扉をつけ中は石鹸、化粧品等入れる小さな棚になつてゐます。之は各室及び浴室も然うなのです。』

『主人及び私の居間(階下)は書齋兼にしてゐますそしてその南側の庭に面した方をヴエランダにしてゐますが、居間に反して非常に明るいので、休憩の場所にも當て、又温室風にもと、植木等を置いて居ります。庭は只何の裝飾もなく、總べては子供本位にと大人の娯しみを犧牲にしました。狹い場所でしたがテニスコートも添てやりました。』

斯うした話のうち記者は最後に臺所と洗濯場と湯殿を見た。中にも臺所は流石に夫人の細かい注意で整つてゐた。さして廣いとも思はれぬ八疊程の臺所は、床を人造石風なコンクリートで固め、流しも同じくそれである。その流しは夫人の特別な好みで可なりに大きかつた。それは洗ひ場の兩側が置き臺にも組板にも料理臺にも兼用出來るやうになつてゐるからである。斯うすれば食器や野菜を洗ふにしても一々他へ運ぶの不便がありませんと夫人は語る。そしてその流しの下方は網戸になつてゐて、中は物の貯藏室兼用である。臺所の眞中に置かれた四角い料理臺は下方全部を引出しにして細々した道具總べてが藏つてある。其他戸棚が多い爲に物の片付きがよくて美しい氣持ちのいゝ臺所だつた。且つ此處の隅に据へつけられた自動湯沸器がこの邸宅全體に至る湯の供給所である。之には瓦斯に火を點じて僅かに二十分位ゐで流しの手桶の中には早や熱い湯が落ちて出た。

猶洗濯場——之は從來の日本式な桶の臆劫さはない。大小二つの洗ひ場は水道のスキッチ一つで湯と水とは自由に得られるし、栓を抜けば簡單に水は流れ出る。更にこの下が地下室になつてゐて其處に暖房用のボイラーが据つてゐる。この湯は巧みに日本室の客間の方にも引いてあつて、それは窓際の下部の方へ袋戸式の引戸にしてあるので上手に不用の時は隱されてあつた

夫人は最後に語る。

『出來るだけは時間と勞力を省ける工夫を致しました。お陰で女中は樂なやうに申してゐますが、要するに私達は利用の出來る丈けは文明的に應用も廣くして、そして私達の無駄な努力を減じたいと思ひます。最初に少し面倒をかければそれが永久的に積つてどれだけ時間的に私達は惠まれるか知れないことです。生活の樣式も只今は大方椅子式で——それも極く丈の低いらくな椅子や卓にしてゐますから、從來の座る習慣に依らなくともさして苦痛だと思ひません。』

× ×



會報

會合

○理事會

△日　時　七月二十日午後五時卅分―六時卅分
△會　場　本協會々議室
△出席者　横濱、片岡、内藤、吉木、小笠原、松本、西谷（書記）
△議　事　一、會員詮衡二、三重縣四日市市役所主催學制頒布滿五十年記念文化展覽會へ建築材料規格見本出品の件は同會より會場狹隘の爲斷り來りしを以て中止のことに決す三、建築業協會より申越の「建築工事の隣接營造物保護に關する事項の件」は適切なる事項なるを以て本協會の意向として贊意を表し可成該趣旨に添ひ實行方取計ふ樣なす旨を回答し一面雜誌に揭載することに決す

○博覽會幹事會

△日　時　七月二十日午後六時卅分―九時
△會　場　本協會々議室
△出席者　葛野、片岡、松本、吉木、波江、小笠原、西谷（書記）大谷（書記）
△議　事　一、實物住宅庭園及本館前庭工事を大阪住宅會社庭園部へ依托する事に決す二、實物住宅の私道を登記し差支なきこと三、陳列本館及實物住宅を火災保險に付したること四、懸賞當選圖案全部模型を五十分の一にて造ること五、實物住宅地の全景模型を作ること六、史料參考品陳列方法の件七、雜誌に寄附者名を廣告する件八、第五部出品委員を更に別紙の通囑托し近々會合の上平配を決定すること九、噴水及音樂堂起工準備の件十、外柵設置着手の件

○第五部出品委員會

△日　時　七月廿六日午後六時―九時卅分
△會　場　大淨軒大食堂
△出席者　第一類（木材部）有山氏、松岡氏吉田氏、第二、三類（煉瓦及各種タイル類セメント防水劑）田中タイリング商會田中氏、品川白煉瓦株式會社宮田氏、第四類（石材部）熊取谷氏、大阪代理石工業株式會社上田氏、第五類（金物類）松尾氏、駒井氏、大阪鐵管商會藤木氏代森氏、第六類（屋根葺材料）野澤氏代河合氏、六原商會鈴木氏代黒川氏、三浦氏、第七類（硝子部）極東子硝工業會社河合氏、宇野澤ステインド硝子製作所木内氏、南部塗料研究所南部氏、日本ペイント製造株式會社小畑氏、第九類（建具及疊類）三好商會三好氏、平賀氏、第十類（

鍛工及左官工製品）森下新造氏代岩崎氏、豊田氏、第十一類（衛生材料）日本水道衛生工事株式會社池田氏、須賀氏、第十二類（家具裝飾其他）細原氏、重枝氏、安田氏代奥村氏、第十三類（暖房裝置電氣器具瓦斯器具）谷氏、菅谷氏、東京電機株式會社大阪出張所正田氏、第十四類（雜類）内藤製作所星野氏、片岡、小笠原、吉木、瀬戸、西谷（書記）大谷（書記）

△記　事

一、食後片岡會長より一場の挨拶あり且左記意味に於て出品勸誘の希望を述ふ

一、一般建築材料出品勸誘の件

二、在來委員を中心として今回御依頼せし方々と萬事御協議を願ひ出品勸誘に當られたきこと

三、別紙圖面の好き陳列場に付其棚巾及位置に準し物品陳列の量を定められたきこと四、各類別の小委員會を數次御開催相願度こと一、第五部出品委員名簿本館平面博覽會平面圖等を配付せり一、詳細に付ては小笠原幹事一々説明をなしたり

○第五部第七類出品委員會

△日　時　七月二十九日

△會　場　本協會々議室

△出席者　木内眞太郎氏、久保田種吉氏、河合作次郎氏、木村直三郎氏、大谷（書記）

△議　事

一、四委員に於て出品者を歷訪して勸誘をなし來月五日其結果を本會に報告なすこと

一、右結果により更に出品者會を開催し場所割當其他の件協議することに決す

○第五部第十三類（煖房瓦斯電氣）出品者協議會

△日　時　八月二日午後六時—九時

△會　場　大洋軒中食堂

△出席者　田中庄一氏、淺海治平氏、大阪電燈株式會社、高田商會大阪支店、萩原貞氏、谷氏藏氏、菅谷元治氏、正田貞三氏、庄川庄造氏、小笠原氏、西谷（書記）

△記　事

一、電氣暖房、瓦斯器具の出品に付出品委員より來會者の意向を問ひ所要の間口に付協議せり

○理　事　會

△日　時　八月五日午後五時卅分—六時三十分

△會　場　本協會々議室

△出席者　横濱、片岡、内藤、瀬戸、松本、吉木、舟橋、小笠原、竹腰、西谷（書記）

△議　事

一、竹腰理事渡米に付理事補欠に關する件

一、「ブルッセル」市に於て開催の萬國建築家會議に關する件

八月例會に關する件

○幹　事　會

△日　時　八月五日午後六時三十分—九時

△會　場　大洋軒中食堂

△出席者　葛野、片岡、波江、小笠原、瀬戸、舟橋、松本、吉木、西谷（書記）大谷（書記）

▷記　事

一、報告

（イ）協會出品住宅建築狀況

（ロ）第一部出品住宅狀況

（ハ）休憩所出品狀況

（ニ）水道及下水配線狀況

一、議事

（イ）資金に關する事項

（ロ）宣傳に關する事項

（ハ）看守守衛募集に關する事項

其他協議す

○第五部第五類出品委員會

△日　時　八月十一日午前十時—十二時

△會　場　本協會々議室

△出席者　松尾和助氏、藤木守雄氏代森氏、

駒井喜兵衛氏、西谷（書記）

△議　事

一、第五類（金物類）出品見込氏名表に付既出品申込者と未出品申込者との取調をなし未出品申込者に對する勸誘方法に付協議をなす

○例　會

△日　時　八月十七日午後六時卅分―十時

△會　場　大阪ビルヂング屋上廣場

△出席者　伊藤、今林、大林、岡本、吉井、久保田、梁、山脇、佐藤、宮本、島田、森本、波江、橋本、布袋、熊取谷、久保田種、山本、松本、松尾、須賀村井、片岡、小笠原、吉木、

△記　事

納涼晩餐會

定刻となるや各員ビルヂング屋上の食卓につき涼風に吹かれつゝ快談會食をなせり

例　會

屋上別席に於て卓を圍み小笠原理事より會務報告波江博覽會幹事より博覽會準備經過報告あり報告後博覽會に關し質問應答あり意見交換あり午後十時談笑の裡に散會せり

會　務

今回終身贊助員川島甚兵衛氏は左の通選擧せられたり

國立美術協會

一九二二年のサロン

美術協會長代理

書記長　ベ　ケ　ー

川島甚兵衛殿

拜呈　當協會副會長ベラン氏主宰の下に去る六月十日の土曜日に國立美術協會の總會開催せられ、貴殿が裝飾美術部の協會員に選擧せられ候事を御報知申上候

右得貴意候　敬具

○新入會員

（會　員）伊藤鐵一君、戸塚端君、青木鐵造君、近藤菊松君、松井角平君、辻德君

（特別贊助員）藤村理次君

（終身贊助員）作山義弼君、松本泰輔君

（普通贊助員）吉田傳吉君、池田長次郎君、元木德松君、川久保梅次郎君、横田作藏君、喜多福松君、石井九二三君

○住所移轉

伊藤憲一郎君　名古市中區古澤町六丁目二四

南館　次直君　大阪市東區高津北ノ町八四

若宮　虎吉君　大阪市東區道修町四丁目島藤大阪出張所内

置鹽　章君　兵庫縣武庫郡六甲村字高羽縣公舍五九

伊藤　正文君　大阪市外東天下茶屋天王寺女學校正門北へ入

中山　正之君　京都府葛野郡花園村字下谷口十四

森岡達三郎君　大阪市西區京町堀通一丁目明治銀行大阪支店建築場内

福井　義長君　兵庫縣武庫郡今津町津内

小村清三郎君　大阪府下三島郡吹田町濱の堂二七四八

荒石　信夫君　大阪府下三島郡春日村大字中穗積二四三ノ四

北村　耕造君　東京市小石川區雜司ヶ谷町八三

増田　直一君　神戸市西須磨中池ノ下八

中澤誠一郎君　大阪市西區春日出町北港一〇四

壜田　福松君　福戸市細田町六丁目文部省建築課神戸出張所内

岡村德一郎君　大垣市藤江町一八八

若田　久松君　大阪府下豊能郡箕面村櫻井住宅改造博覽會大林組出張所内

渡邊　行三君　大阪市南區天王寺悲田院町三八〇一

阪東　義三君　東京市東郷區千駄木町四九

高岡與三吉君　大阪府下西成郡玉出町由ノ川八九三

田中　俊助君　名古屋市東區大曾根町一

大倉　直三君　大阪府下東成郡下市村今市

花田孝二郎君　鹿兒島市山下町七七

○寄贈圖書

住宅 八號 住宅改良會
建築雜誌 七號 建築學會
生活ト住宅 三號 生活ト住宅社
經濟資料 八號 東亞經濟調查會
建築世界 八號 同 社
工業評論 八號 工業評論社
帝國鐵道協會々報 七號 同 協會
家のしるべ 八號 家のしるべ社
國民經濟雜誌 八號 神戶高等商業學校
土木建築 八號 日本實業興信新報
電氣學會雜誌 八號 同 學會
工業の友 八號 工手學校
滿洲建築協會雜誌 七號 同 協會
新住宅 八號 洪洋社
庭園 七號 庭園協會設計部
日本建築士會月報 日本建築士會
商業及經濟研究 八號 大阪高等商業學校
通俗衛生 六號 大阪府衛生局
都市建築研究會々報 三號 都市建築研究會
都市公論 第八號 都市研究會
朝鮮建築 第二號 朝鮮建築會
通商畫報 第八號 府立商品陳列所
電氣評論 第八號 電氣評論社
結合 第一號 結合社

役員及職員

副會頭片岡安
理事　小笠原勇（理事長）
理事　横濱勇（理事長）
理事　吉木久吉
理事　竹腰健三（編輯）
理事　中西甚作（編輯）
理事　内藤太郎（主記）
理事　野呂長四郎（編輯）
理事　松本禹象
理事　舟橋喜一
理事瀬戸文吾（主計）
編輯主任　江村郊邨
庶務　西谷節
庶務　清川伊佐

會員	二四五	會員（地方）	八一
名譽賛助員	六七	終身賛助員	五七
特別賛助員	二三	普通賛助員	三九七
合計（八月二十日現在）			八七〇

臨時博覽會部（住宅改造博覽會）

會長　片岡安
幹事長　葛野壯一郎
常務幹事　波江悌夫
常務幹事　小笠原鋭
幹事　吉木久象
幹事　松本禹喜一
幹事　舟橋文吾
幹事　瀬戸節
書記　西谷

本誌及廣告料定價表（本號に限り一部七拾錢）

本誌	册數	定價	郵稅
	一册	金五拾錢	貳錢
	十二册	六圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓

特別頁モ料金一定シアリ御照會アリ度シ

大正十一年八月三十一日印刷（毎月壹回）
大正十一年九月一日發行（一日發行）

大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一
發行兼編輯人　江村恒一
大阪市東區内淡路町一丁目廿一番地
印刷兼印刷人　大阪活版所
大阪市北區絹笠町九
大江ビルヂング三十七號室
發行所　日本建築協會
電話北四二九一番
振替口座大阪三九七五
大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座二〇八四番

住宅改造博覽會記事

住宅改造博覽會記事

一本會出品實物住宅の建築工程は順次進行し八戸共本月初旬迄に全部屋根瓦を葺終り目下内外壁工事及造作取付中にて大體八分通竣工したるに付開期前迄に全部整頓し得る見込なり

一本會出品實物住宅の家具煖房等は左記の通各店の分擔出品せらるゝ事となれり

住宅番號	家具出品者	暖房出品者
第一號	高島屋呉服店	作山鐵工所温氣裝置
第二號	大丸呉服店	同上
第三號	三越呉服店	阪急電鐵電氣ストーブ
第四號	吉田鹿之助	高田商會アルコラスチーム
第五號	山谷商店	荻原工務所温水裝置
第六號	内外木工所	高砂工業會社同上
第七號	旭家具裝飾會社	荻原工務所宮崎式ペチカ
第八號		大阪煖房商會温水裝置

一宣傳用ポスターは本月に入り三越高島屋大丸其他各要所に配布方を開始せり

一住宅地全景模型出來たるに付之を寫眞とし各宣傳材料に供することとせり

一各出品は極力勸誘中なり

一各出品の陳列戸棚の製作に着手せり

一守衞看守人等の採用を開始せり

一本會經費其後の寄附金額左の通り

日本建築協會主催

住宅改造博覽會寄附者第二回報告

大分セメント株式會社大阪出張所	一金壹千圓也
竹内金庫店	一金壹千圓也
櫻セメント株式會社	一金六百圓也
日本トラスコン鋼材株式會社	一金五百圓也
眞水三橋建築事務所	一金參百圓也
萩原煖房工務所	一金貳百圓也
上瀧辨吉	一金貳百圓也
設樂建築工務所	一金貳百圓也
舟橋建築事務所	一金壹百五拾圓也
萩原貞一	一金壹百圓也
波江悌夫	一金壹百圓也
松本禹象	一金壹百圓也
木子建築事務所	一金壹百圓也

一金壹百圓也　木子七郎
一金壹百圓也　新海建築事務所
一金五拾圓也　日高胖
一金參拾圓也　河村青寫眞調製所
一金拾五圓也　福島祿壽
一金拾五圓也　木村喜代松
一金拾圓也　大原芳知
一金拾圓也　金子巴
一金拾圓也　前田武正
一金拾圓也　小西一良
一金拾圓也　小寺彌一
一金拾圓也　光安梶之助
一金拾圓也　森正藏
一金五圓也　生野彌三郎
一金五圓也　河盛益太郎

一金五圓也　竹平彌一
一金五圓也　中川彌八
一金五圓也　古川豐
一金五圓也　小山源次郎

小計四千九百六拾圓也

累計拾壹萬四千參百貳拾七圓五拾錢

●第五集　第九号　掲載広告一覧（掲載順）

岩崎商業
日本工剤
ヒーリング商会
大阪窯業
横河橋梁製作所
堀野洋家具商会
川北電気企業社
日本セメント防水剤製造所大阪出張所
三益社
浅海商店
出浦建築事務所
大阪建築所
新海建築工務所
小笠原建築事務所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所

片岡松井建築事務所
横河工務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所
柳下建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
舟橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
横浜松下建築事務所
西原衛生工業所大阪支店
池田勘蔵
日本土木大阪出張所

大阪橋本組
大林組
竹中工務店
長瀬組
中川辰蔵
佐伯工務所
野村亥之助
久保田組
熊取谷熊次郎
山本組
松村組
小西組
藤木正一
鴻池組
駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
有山組

清水組大阪支店
モリホン建築社
銭高組
山縣組
清水福太郎
山崎建築事務所
田村東京事務所
田村神戸事務所
久原鉱業大阪出張所
山田大理石製作所
矢橋商店
沖電気
高田商会
須賀商会
内外土木建築材料
栄進社
松尾和助本店
山本窯業商店
萩原煖房工務所

新田ベニヤ製造所
川崎工場
砂崎
大野式特許品営業所
東京建鉄
河村青写真調製所
宇野沢組スティンド硝子製作所
コルク工業
鈴木製作所
品川白煉瓦
インペルメアビリット
関西ステンドグラス製作所
日本木材工芸
都市工業
大理石工業
北木島石材大阪出張所
ホーン
城口汚水処理研究所
吉田鉄工所

田中タイリング商会
淡陶
実野商会
日本トラスコン鋼材
大阪耐火リノリウム工業
住友製銅販売店
住友東京販売店
南部塗料研究所
東洋木材防腐
田中源太郎商店
極東板硝子工業